

琵琶湖博物館 年報

第 27 号

2022 年度（令和 4 年度）

滋賀県立琵琶湖博物館

2023 年（令和 5 年）6 月

目次

ごあいさつ	1
I 博物館活動の概要	
1 研究・調査活動	
1. 研究推進	2
2. 研究発信	9
3. 研究交流	14
4. 研究部活動	15
2 交流活動	
1. 利用者主体の事業	18
2. 一般利用者へのサービス事業	46
3. 学校連携	51
4. 地域との交流事業	56
5. 琵琶湖博物館環境学習センター	61
3 情報発信・広報 PR 活動	
1. インターネットを利用した館外への情報提供	64
2. 情報システムの整備・更新	65
3. デジタルサイネージ	66
4. 印刷物一覧	67
6. 広報 PR 活動	67
4 資料整備活動	
1. 収蔵資料	95
2. 資料の活用	100
3. 資料の保管	104
5 展示	
1. 展示活動	106
2. 展示交流	126
6 館外連携	
1. 博物館連携	128
2. 企業連携	129
3. 研修・実習	130
4. 共催事業	132

5. 地域発見！参加型移動博物館	133
6. 第72回全国植樹祭しが2022サテライト会場	134

II 利用状況

1 令和4年度入館者数	135
2 来館者アンケート調査	137
3 利用者用施設の整備	140

III 組織および運営

1 組織	141
2 職員	142
3 予算	144
4 寄付／びわ博サポーター	144
5 滋賀県立琵琶湖博物館協議会	145
6 企画・計画等	146

ごあいさつ

ここ数年、「ごあいさつ」はパンデミックを起こした感染症の話で始まっています。2022 年度も感染症が蔓延する中での博物館活動となりましたが、県の感染症についての警戒レベルが引き下げられたことに伴って、10 月 18 日には感染症対策の一環として続けてきた入館時の予約制を廃止しました。また、その予約制の廃止後も来館者の方々には館内のマスク着用のお願いを継続してまいりましたが、2023 年 3 月 13 日からは国や県の方針に従い、着用は個人の判断に委ねることになりました。このように、段階的に感染症対策が緩和される中で、博物館活動も徐々に平常状態へと移行してきました。

また、昨年度からは第 3 期中長期計画が開始されましたが、2022 年度は博物館協議会委員による外部評価もおこなわれました。この評価結果をふまえて、各係では少し先の琵琶湖博物館のあるべき姿を見据えて、目の前の具体的な活動計画の修正を行うことができました。今後もこうした評価と修正を繰り返しながら地域に役立つ博物館を目指していきたいと思います。

なお、2023 年 2 月には、水族展示内でオオナマズ水槽の破損事故が発生しました。幸い、人的被害はなく、また水槽内にいたオオナマズも無事でしたが、3 か月間、水族展示を閉鎖したことで、来館者の皆様にはご迷惑をおかけしました。3 月中旬からは、第三者委員会を設置して、破損事故の原因調査や今後の水槽の安全管理のための協議を開始しました。来年度に向けて、水族展示を段階的に再開し、より安全でより楽しい展示となるよう復旧に尽力いたします。

2023 年 5 月 31 日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 高橋啓一

I 博物館活動の概要

1 研究・調査活動

1. 研究推進

琵琶湖博物館では、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という5つの事業を総合的に行なっている。その中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果やその発信として、展示、資料、交流活動が行なわれ、研究が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

研究部では 2021 年 3 月に策定された琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に従い、特に事業目標 1 に掲げる「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」することを目指して、以下の 3 つの重点事業を推進している。

- 重点事業 1－1 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究の推進
- 1－2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖の魅力を人々に伝える
- 1－3 研究の質を高める環境の整備ならびに研究の活性化

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。2017年度に整備した当館の研究評価実施要綱に従い、総合研究と共同研究については、研究計画調書ならびに説明によって、研究審査委員会の審査を受け、その結果を踏まえて、当館で行う研究課題を定めた。また、専門研究については、内部評価委員会を設置し、研究課題を検討し、助言を行いながら、研究を推進した。2022年度は、次の研究課題が実施された。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、次の総合研究 1 件を行った。

- ・過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明

代表者：亀田佳代子，研究期間：2019～2025年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の 10 件であった。

- ・希少種の健全性評価に基づく保全に関する研究：生物多様性モニタリングと域外保全によるリスク分散
代表者：大槻達郎，研究期間：2020～2022年度
- ・地域の自然史情報の価値づけと集約の場としての博物館の機能
代表者：金尾滋史，研究期間：2020～2022年度
- ・琵琶湖博物館所蔵魚類液浸標本の新しい活用研究と管理手法の構築
代表者：田畑諒一，研究期間：2020～2022年度
- ・古琵琶湖層群および関東平野西縁地域における鮮新－更新世の湿地林の植生復元
代表者：山川千代美，研究期間：2020～2022 年度
- ・琵琶湖のプランクトン電子図鑑の構築
代表者：大塚泰介，研究期間：2020～2024 年度

- ・歴史景観生態学からみた森と人の関係
代表者：妹尾裕介，研究期間：2020～2023 年度
- ・水資源の利活用と地域再生
代表者：楊 平，研究期間：2020～2023 年度
- ・琵琶湖南湖堆積物中のアルカンによる水生植物生産量と陸上植物流入量の推定に関する基礎研究
代表者：里口保文，研究期間：2020～2023 年度
- ・フナズシの歴史的 position 付けについての研究Ⅱ―「古フナズシ」の再現実験―
代表者：橋本道範，研究期間：2022～2024 年度
- ・日本産ニゴイ類の比較形態学的研究
代表者：川瀬成吾，研究期間：2022～2024 年

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

<申請専門研究>

- ・農家民宿を活用した「里山・田んぼの生き物観察会」の可能性の検討（中川信次）
- ・西の湖におけるヨシの利用と産地、品質がどう結びついているのか（芦谷美奈子）
- ・ホールマウント免疫染色を用いたニゴロブナ卵の判別手法の確立（米田一紀）
- ・視覚を発達進化させたバイカルアザラシの色覚研究（松岡由子）

<専門研究>

環境史研究領域

- ・針葉樹トウヒ属の葉形態による化石の再分類（山川千代美）
- ・古琵琶湖層群下部の火山灰層露頭の現状調査（里口保文）
- ・地域環境史の理論的構築（橋本道範）
- ・溜池の利用と保全（楊 平）
- ・景観復元法による琵琶湖地域の温暖期植生変化の定量的復元（林 竜馬）
- ・現代における伝統的知識・技能の継承（大久保実香）
- ・琵琶湖周辺地域の産出粘土と土器製作技術の相関（妹尾裕介）
- ・琵琶湖博物館水族資料を用いた繁殖行動観察とその記録（田畑諒一）
- ・治水土木施設の維持管理に関わる近世・近代文書の機能論的研究（島本多敬）
- ・湖沼に関する民俗知の基礎的研究（加藤秀雄）

生態系研究領域

- ・鳥の視点から見た鳥類と人との関係：鵜飼に使われるウミウの行動と生態（亀田佳代子）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（桒永一宏）
- ・南湖底質中のリンの経年変化（芳賀裕樹）
- ・殻形態の半自動測定と MT 法を用いた珪藻の計量学的研究（大塚泰介）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）
- ・イタチムシ類の湖岸環境への適応（鈴木隆仁）
- ・絶滅危惧植物の結実率を上昇させる手法の開発（大槻達郎）
- ・少花粉スギミニチュア採種園における品種ごとの種子生産量について（美濃部諭子）
- ・コイ科カマツカ亜科モツゴ属魚類の骨格系（川瀬成吾）

博物館学研究領域

- ・滋賀県多賀町の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石（八尋克郎）

- ・サポートシートを使った博物館の有効な利用法について（由良嘉基）
- ・滋賀県の中山間地域における水田利用魚類の分布と生態（金尾滋史）
- ・からすま半島周辺のカヤネズミの分布（中村久美子）
- ・子ども主体の視点から見た博物館の利用～part2～（安達克紀）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏 名	現 職
足立 重和	追手門学院大学社会学部 教授
浦部美佐子	滋賀県立大学環境科学部 教授
齊藤 純	天理大学文学部 教授
高橋 美貴	東京農工大学農学研究院 教授
林田 明	同志社大学理工学部 教授
深町加津枝	京都大学大学院地球環境学堂地球親和技術学廊 准教授
細谷 和海	近畿大学 名誉教授
澤 寿朗	滋賀県総合教育センター 科学教育係長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
西村 武	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
亀田 佳代子	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

琵琶湖博物館では、研究費用として外部資金を獲得することを推進している。その代表的なものは文部科学省科学研究費助成事業で、今年度は新規 2 件の採用と継続 11 件を合わせ計 13 件が採択された。学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究代表者（2018～2022 年度）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「時間情報解析による在来生物カワウと人との軌跡軽減のための「温故知新」研究代表者（2020～2022 年度）
- ・岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査委員会・関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会「全国鵜飼習俗基礎調査」調査者（2019～2024 年度）
- ・国立民族学博物館共同研究会「日本列島の鵜飼文化に関する T 字型学際共同アプローチ野生性と権力をめぐって」共同研究員（2020～2022 年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「湖環境への人為的影響をはかるための歴史時代における湖内植物生産量変動」研究代表者（2021～2023 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「テフラ粒子の数値化による新たな広域テフラの検出：500 万年

間の破局噴火の発生頻度」研究分担者（2021 年度～2023 年度）

橋本道範

- ・京都大学人文科学研究所研究班「環境問題の社会史的研究」班員（2020～2022 年度）
- ・食と農の総合研究所 研究助成「淡水魚消費をめぐるシーフードシステムの地域間比較研究—ナレズシに着目して」研究分担者（2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）
- ・サントリー文化財団「学問の未来を拓く」研究助成「ナレズシはいかに「洗練化」したのか—乳酸菌分析にもとづく環境史へのアプローチ」研究代表者（2022 年 7 月～2023 年 6 月）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「現植生分布の基となる最終氷期最盛期における植生の定量的復元」研究分担者（2019～2022 年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「他出者・他出二世による山村集落継承の可能性」研究代表者（2019～2024 年度）

田畑諒一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「淡水魚類の保全ゲノミクス：自然史と危機診断を結ぶ枠組みの構築」研究分担者（2020～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（国際共同研究強化 B）「カタツムリにおける左右二型現象の起源と進化動態」研究分担者（2020～2024 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「ゲノミクス系統地理情報を基にした淡水魚類の保全戦略マップの作成」研究代表者（2021～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団盤 国内研究助成「改良版 MIG-Seq 法を用いた琵琶湖生態系に属する希少種の遺伝的診断と保全」分担者（2020 年度～2022 年度）
- ・タカラ・ハーモニストファンド 研究助成「琵琶湖固有ビワマスを新種として記載する保全学的研究」分担者（2021 年 6 月～2022 年 6 月）
- ・公益財団法人河川基金 研究助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」共同研究者（2022～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る—琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に—」研究分担者（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）

島本多敬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「日本近世の河川管理システムにおける絵図の機能の解明」研究代表者（2021～2025 年度）
- ・人間文化研究機構総合地球環境学研究所実践プログラム Eco-DRR プロジェクト「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災(Eco-DRR) の評価と社会実装」共同研究者（2018～2022 年度）

加藤秀雄

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「琵琶湖産アユ種苗の流通ネットワークに関する広域民俗誌の試み」研究代表者（2022～2024 年度）
- ・科学研究費助成事業等間接経費による支援プロジェクト 出版等助成「伝承の民俗学—その視座と可能

性」学術図書出版 著者（2022 年度）

榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「希少な塩性湿地の水生双翅目昆虫の種多様性の解明と生態系保全に向けた環境指標種化」研究代表者（2022～2024 年度）

芳賀裕樹

- ・琵琶湖環境科学研究センター 政策課題研究⑥「南湖生態系に影響を及ぼす湖底環境等に関する研究」研究協力者（2020～2022 年度）

スミス、ロビン ジェームス

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「Native or invasive? Biodiversity, distribution and systematics of Ostracode (Crustacea) in Japanese rice fields」研究代表者（2020～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「節足動物の超多様性の謎の解明：貝形虫を用いた進化精子学の創立に向けて」研究分担者（2020～2022 年度）

大塚泰介

- ・公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」研究担当者(2022 年 4 月～2024 年 3 月)

大槻達郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東アジアの古代湖「琵琶湖」の固有種成立過程の解明のための総合的研究」研究分担者（2018～2022 年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「海流散布植物を基盤とする昆虫群集における生物間相互作用の維持・創出機構の解明」研究代表者（2021～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究分担者（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）

米田一紀

- ・公益財団法人河川基金 研究助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」研究代表者（2022～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究分担者（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）

川瀬成吾

- ・公益財団法人河川基金 研究助成「ホンモロコをモデルとした琵琶湖の水位変化が仔魚加入に与える影響の解明」共同研究者（2022～2023 年度）
- ・公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団(KWEF) 国内研究助成「標本 X 遺伝 X 形態データ解析で同定精度を向上させ、絶滅危惧種を守る-琵琶湖淀川水系産モロコ類を例に-」研究代表者（2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日）

中村久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究）「博物館における幼児期の学びを定量的に評価する手法」研究代表者（2019～2023 年度）

辻川智代

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「農閑期副業における手工業生産の考察－筥と籠生産を中心に」研究代表者(2020～2022年度)

桑原雅之

- ・タカラ・ハーモニストファンズ研究助成「琵琶湖固有ビワマスを新種として記載する保全学的研究」研究

代表者（2021 年 6 月～2023 年 6 月）

中井克樹

- ・環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県生物多様性保全回復整備事業」実施担当者（2017 年度～）
- ・環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費「琵琶湖外来水生植物対策協議会事業、ならびに環境省生物多様性保全回復施設整備交付金「滋賀県事業」事務局担当者（2014 年度～）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「侵略的外来水生植物の生態解明及び防除手法の評価を踏まえた早期対応社会技術の確立」研究代表者（2021～2023 年度）

戸田 孝

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発」研究代表者（2021～2023 年度）

根来 健

- ・公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 水質保全研究助成「琵琶湖で新たにブルームを形成するようになった微細藻類の分類学的・水処理生物学的研究」連絡担当者（2022 年 4 月～2024 年 3 月）

<研究調査業務受託>

- ・京都府いなべ市 天然記念物ネコギギ飼育増殖業務 田畑諒一

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・北村美香 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：博物館における「交流」についての再考察ー琵琶湖博物館を事例としてー
- ・辻川智代 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史的変遷を通じた地域文化研究
- ・柏尾珠紀 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：滋賀、琵琶湖周辺農山村の暮らしとジェンダーの社会学的考察、および、滋賀におけるなれずしの多様性に関する調査研究
- ・廣石伸互 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：蛍光抗体法によるアオコ単独細胞の検出に関する研究
- ・中野聰志 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：琵琶湖集水域の地域地質研究
- ・天野一葉 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究/ミヤマホウジロの遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：琵琶湖固有種の分類ならびに生態に関する研究、および琵琶湖博物館の総合研究「過去 150 年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明」
- ・中野正俊 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：「みんなで学びあう」学習による「読み解く力」向上のための実践的研究・・・博物館・地域・学校連携における個別最適な学びと協働的な学びの実現・・・
- ・寺本憲之 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：ブナ科植物を寄主とする鱗翅目昆虫相と食性に関する研究、伝統文化産業「蚕糸業」の指導と

研究 / 地域ぐるみによる野生動物管理などの指導/環境保全型農業などの指導

- ・ 山本充孝 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：琵琶湖の魚貝類の飼育技術ならびに生態に関する研究
- ・ 根来 健 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：浄水処理に障害を及ぼすプランクトン等（水道障害生物）の体系の再構築
- ・ 今井一郎 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：有毒アオコ *Microcystis aeruginosa* の制御に有効な水生植物由来の殺藻細菌の生態に関する研究/湖の湖底堆積物中の植物プランクトンの休眠期細胞に関する研究
- ・ 柏谷健二 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：湖沼堆積物を利用した長期環境変動の解析
- ・ Corey Tyler NOXON 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：Continuing the exploration of photogrammetry and 3D applications within the Lake Biwa Museum
- ・ 桑原雅之 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：ビワマスを保全するための近縁種アマゴを含めた遺伝学的、生態学的研究
- ・ 草加伸吾 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：モンゴル、半乾燥地での森林生成促進研究/伐採、シカ食害やナラ枯れによる森林食生衰退の水系への影響
- ・ 井内美郎 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：琵琶湖湖底堆積物を対象とした過去数万年間の湖水位変動および古地震活動に関する研究
- ・ 戸田 孝 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：地域博物館での科学館活動で抽象的科学原理を扱う方法論の開発
- ・ 増田啓祐 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：「山」のレジリエンスと「里」のレジリエンスを結ぶ「里山」のあり方についての研究
- ・ 山本綾美 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：森林環境学習における児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発
- ・ 中井克樹 2022年4月1日～2023年3月31日
テーマ：琵琶湖の生物相の変遷と現状、および外来種管理と希少種保護にかかる対策の社会実装に関する研究

<名誉学芸員>

- ・ 布谷知夫 2019年4月1日～2024年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・ 前畑政善 2021年4月1日～2026年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・ 中島経夫 2020年4月1日～2025年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究
- ・ 用田正晴 2021年4月1日～2026年3月31日
テーマ：湖沼環境が果たした歴史的機能・評価に関する考古学的研究
- ・ マーク J グライガー 2022年4月1日～2027年3月31日
テーマ：甲殻類分類学、魚類寄生虫調査、田んぼにすむエビ類の様々な研究と海洋寄生虫

2. 研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<https://www.biawahaku.jp/publication/report/>) に掲載している。

<学術論文>

- Takahashi, K. (2022) An overview of *Palaeoloxodon naumanni*, the *Palaeoloxodon* (Elephantidae) of the far east: distribution, morphology and habitat. *Historical Biology*.
<https://doi.org/10.1080/08912963.2022.2132857>.
- 高橋啓一・山川千代美・林 竜馬・植田弥生・犬塚則久・渡部 均 (2022) ナウマンゾウ「浜町標本」の追加資料. *化石研究会会誌*, 54(2) : 31-40.
- 高橋啓一 (2023) ナウマンゾウ研究百年. *琵琶湖博物館研究調査報告*, 35 : 253pp.
- 山川千代美・植田弥生・鈴木三男・安井加奈恵・林 竜馬・山内康平・中村琢磨 (2023) 北海道足寄産材化石の樹種について. *ひがし大雪自然館研究報告*, 10 : 1-7.
- 梅澤正夫・三上禎次・里口保文・中野聰志 (2022) 滋賀県大津市・音羽山東方相模川上流ジュラ紀付加体中の火砕岩脈. *地球科学*, 76 (4) : 237-242.
- Takahara, H., Ikeda, S., Sasaki, N. and Hayashi, R. (2023) Vegetation history of *Cryptomeria japonica* in Japan since the last interglacial period. *Ecological Research* 38, 49-63.
<https://doi.org/10.1111/1440-1703.12357>.
- Hayashi, R., Sasaki, N., Takahara, H., Sugita, S. and Saito, H. (2022) Estimation of absolute pollen productivity based on the flower counting approach: A review. *Quaternary International*. <https://doi.org/10.1016/j.quaint.2022.04.015>.
- 橋本道範 (2023) 日本産淡水魚消費論に向けて――四世紀から一六世紀の首都京都を対象として――. 橋本道範 (編), 日本列島を中心とした魚介類消費の研究, *琵琶湖博物館研究調査報告*, 36, 滋賀県立琵琶湖博物館 : 163-200.
- 楊 平・香川雄一 (2023) 琵琶湖的環境治理と政策―環境社会学視角的探索. *環境社会学*, 3 : 141-158.
- Yamamoto, S., Morita, K., Kitano, S., Tabata, R., Watanabe, K. and Maekawa, K. (2023) Phylogeography of a salmonid fish, white-spotted charr (*Salvelinus leucomaenis*), in a historically non-glaciated region in the northwestern North Pacific. *Biological Journal of Linnean Society*.
- Kano, Y., Fuke, Y., P. Musikasinthorn, Iwata, A., T. M. Soe, S. Tun, LKC Yun, S. S. Win, Matsui, S., Tabata, R. and Watanabe, K. (2022) Fish diversity of a spring field in Hopong Town, Taunggyi District, Shan State, Myanmar (the Salween River Basin), with genetic comparisons to some “species endemic to Inle Lake”. *Biodiversity Data Journal*, 10: e80101,
<https://doi.org/10.3897/BDJ.10.e80101>
- 飯塚公藤・谷端 郷・大邑潤三・佐藤弘隆・島本多敬・前田一馬・鈴木康久 (2022) 「鴨川古写真 GIS データベース」の構築に向けた現状と課題. *人文科学とコンピュータシンポジウム 2022 論文集* (人文科学とコンピュータ研究会) : 1-6.
- 辻 彰洋・中川 恵・溝渕 綾・大塚泰介 (2022) 淡水棲プランクトン珪藻 *Fragilaria longifusiformis* ssp. *euofusiformis* の本邦における近年の出現. *Diatom*, 38: 14-17.
<https://doi.org/10.11464/diatom.38.14>
- 掛橋竜祐・高橋勇貴・米田大樹・逸見敬太郎・大塚泰介・倉林 敦 (2022) 琵琶湖東地域に現れた新規ヌマガエル集団についての形態学・遺伝学的研究. *地域自然史と保全*, 44: 51-60.

- 麦倉佳奈・Eldrin D.L.R. Arguelles・鎌倉史帆・大塚泰介・佐藤晋也 (2022) ミズワタクチビルケイソウ *Cymbella janischii* の近畿地方からの初記録およびその生細胞の形態観察. *Diatom*, 38: 49-53.
<https://doi.org/10.11464/diatom.38.49>
- Smith, R. J., Ozawa, H., Mizukami, A. and Nakai, S. (2023) A new species of the genus *Sarscypridopsis* (Crustacea: Ostracoda) discovered in a Japanese rice field. *Species Diversity*, 28, pp.5-13.
- Wang, Q., Horne, D.J., Fan, J., Wen, R., Smith, R.J., Wang, M. and Zhai, D. (2022) *Ilyocypris leptolinea* Wang & Zhai, sp. nov., an ostracod (Ostracoda, Crustacea) from the late Quaternary of Inner Mongolia, northern China. *ZooKeys*, 1137, pp.109-132.
- Smith, R.J. and Chang, C.Y. (2022) Two new species of non-marine Ostracoda (Crustacea) of the genera *Vestalenula* Rossetti & Martens, 1998 (Darwinuloidea) and *Microloxoconcha* Hartmann, 1954 (Cytheroidea) from Tsushima, Japan, and a summary of the non-marine ostracod fauna of the island. *Zootaxa*, 5150 (4), pp.529-555.
- 山本綾美・大槻達郎・近藤順子 (2022) 森林環境学習における児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発. *森林応用研究*, 31 (1) : 1-11.
- 八尋克郎・武田 滋・大槻達郎 (2022) 琵琶湖岸砂浜の甲虫相. *日本生物地理学会会報*, 77 : 3-17.
- 伊藤 玄・小山直人・川瀬成吾・古屋康則 (2022) 大阪府淀川水系における国内外来ミナミアカヒレタビラの初確認と移入起源. *地域自然史と保全*, 44 : 45-50.
- 加藤 将・芦谷美奈子・金子誠也・山ノ内崇志 (2023) 琵琶湖におけるホシツリモ (シャジクモ科) の新たな生育地点記録. *水草研究会誌 (水草研究会)*, 114 : 39-44.
- Hashimoto, S., Kakehashia, R., Moria T., Kambayashia, C., Kanao, S. and Kurabayashi, A. (2022) The complete mitochondrial genome of a bagrid catfish, *Tachysurus nudiceps*, and its phylogenetic implications for the classification of the bagrid genera. *MITOCHONDRIAL DNA PART B*, 7(4) : 606-608.

<専門分野の著作>

- 高橋啓一 (2023) 連載 琵琶湖集水域の環境メタロミクス 琵琶湖地域の化石を振り返る (15) 化石と元素. *金属*, 93 (1) : 73-78.
- 小西省吾・樽野博幸・高橋啓一 (2023) 神戸市伊川谷産アケボノゾウ化石の検討. 明石市史編さん委員会 (編), *明石の歴史*, 明石市市民生活局文化・スポーツ室発行, 6, pp.35-40.
- 亀田佳代子・藤井弘章・牧野厚史・前迫ゆり (2022) 森林を介した地域住民とカワウとの歴史的関係の地域差. In:橋本道範 (編), *自然・生業・自然観 ―琵琶湖の地域環境史―*, 小さ子社, 京都, pp.181-201.
- 山川千代美・小林真生子 (2023) 植物遺体・種実化石. 日本古生物学会 (編), *古生物学の百科事典*, 丸善出版社 : 160-161.
- 山川千代美・植田弥生・鈴木三男・安井加奈恵・林 竜馬・山内康平・中村琢磨 (2023) 北海道足寄産材化石の樹種について. *ひがし大雪自然館研究報告*, 10, 1-7.
- 林 竜馬・佐々木尚子 (2023) 第四紀の気候変動と植生変化. 日本古生物学会 (編), *古生物学の百科事典*, 丸善出版, pp.202-203.
- 林 竜馬 (2022) *琵琶湖の森の40万年史 ―花粉が語るものがたり―*. 琵琶湖博物館ブックレット⑩, サンライズ出版, 彦根, 110p.
- 橋本道範 (2022) 日本中世淡水魚消費の研究. 第52回 2021 三菱財団研究・事業報告書, 公益財団法人三菱財団, 108 : 1-4.
- 橋本道範 (2022) 環境史に参画する―中世史研究をどのように変えるのか―, 岩城卓二ほか (編), *論点・日本史学*, ミネルヴァ書房, 146-147.

- 橋本道範(編)(2023)琵琶湖博物館研究調査報告 36 号 日本列島を中心とした魚介類消費の研究. 滋賀県立琵琶湖博物館, 201pp.
- 楊 平・嘉田由紀子(著)(2022)水と生きる地域の力ー琵琶湖・太湖の比較からー. サンライズ出版, 滋賀, 262pp.
- 島本多敬(2022)水本邦彦 著『土砂留め奉行ー河川災害から地域を守るー』. 人文地理(人文地理学会), 74(3): 360-361.
- 島本多敬(2023)絵図・地図からさぐる比良山麓の村々の土砂移動対応. 島内梨佐・深町加津枝・吉田丈人ほか編, 地域の歴史から学ぶ災害対応 日本各地につたわる伝統知・地域知, 総合地球環境学研究所, 京都, pp. 96-107.
- 加藤秀雄(2022)地名研究における小字名主義と谷川健一の事小主義. 地名と風土, 15: 74-82.
- 加藤秀雄(2022)神を助けた俵藤太と猿丸太夫(1)ー「田原藤太竜宮入りの譚」における南方熊楠の視点. 淡海文化財論叢, 14: 277-283.
- 加藤秀雄(2022)書誌紹介 加藤幸治 著『民俗学フォークロア編ー過去と向き合い、表現するー』. 日本民俗学, 312, 284.
- 加藤秀雄(2023)伝承と現代ー民俗学の視点と可能性. 勉誠出版, 368pp.
- 焦 春萌・石川可奈子・酒井陽一郎・芳賀裕樹(2022)政策課題研究⑥ 南湖生態系に影響を及ぼす湖底環境等に関する研究. 琵琶湖環境科学研究センター研究報告書(R3), vol. 18, 滋賀県.
- 大塚泰介(2023)巻頭言 「琵琶湖システム」の世界農業遺産認定と残された課題. 地域自然史と保全, 44: 87-89.
- 大槻達郎(2022)琵琶湖岸に生育する絶滅危惧種ハマエンドウの分散様式について. 滋賀県植物研究会会報, 特別号 第15号: 15-17.
- 大槻達郎(2022)4-1 湖岸に生育する海浜植物の謎. 西野真知子(編), 琵琶湖の生物はいつ、どこからきたのか?. サンライズ出版: 182-197.
- 八尋克郎(2022)近畿地方のオサムシの系統進化. びわはく, 琵琶湖博物館, 6: 1-4.
- 八尋克郎(2022)ギフチョウ. Duet 新撰淡海小間摺, 143: 9.
- 日本国際湿地保全連合(角野康郎・芦谷美奈子・山ノ内崇志・金子誠也)(2023)湖沼調査 琵琶湖サイト(水生植物調査). 日本国際湿地保全連合(編), 2022 年度モニタリングサイト 1000 陸水域調査報告書, 環境省自然環境局 生物多様性センター, 山梨県富士吉田市, pp. 45-60・p. 186.
- 金尾滋史・新保建志・中谷成一(2022)甲賀市レッドリスト 2022 魚類概要. 甲賀市レッドリスト 2022. https://www.city.koka.lg.jp/secure/35022/6_Abstract_Koka_redlist2022_Fish.pdf.
- 大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史(2022)甲賀市レッドリスト 2022 陸貝類概要. 甲賀市レッドリスト 2022. https://www.city.koka.lg.jp/secure/35022/9_Abstract_Koka_redlist2022_Terrestria%20snail.pdf.
- 大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史(2022)甲賀市レッドリスト 2022 淡水貝類概要. 甲賀市レッドリスト 2022. https://www.city.koka.lg.jp/secure/35022/10_Abstract_Koka_redlist2022_Aquatic%20shellsnail.pdf.
- 金尾滋史(2023)滋賀県内におけるヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキの分布調査. 令和4年度滋賀県生きもの総合調査報告書, p. 15.
- 阿部勇次・中谷成一・中村久美子(2022)脊椎動物(哺乳類). 甲賀市みなくち子どもの森自然館(編), 甲賀市レッドリスト 2022 調査報告, pp. 2-15.

(2) 研究調査報告の J-STAGE 掲載とアクセス数

博物館の研究成果をまとめ独自に出版している「琵琶湖博物館研究調査報告」について、「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)への掲載を2021年11月より開始した。J-STAGEとは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームであり、学協会や研究機関等にお

ける科学技術刊行物の公開を行っているものである。最新号から掲載を開始し、著作権等の許諾が得られた号から順次公開を行っている。

3月末時点で、35号から24号までが公開されている。アクセス数は以下の通り。

2022年4月～2023年2月のアクセス数

- ・書誌情報閲覧：4,346件
- ・PDFファイルダウンロード：7,618件 ＊いずれもクローラー除く

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

1) 研究セミナー

学芸職員および特別研究員の研究発表と研究交流の機会として、セミナー室にて毎月第3金曜日13:15～15:15に、研究セミナーを開催している。2022年度は以下の通り実施した。なお、特別研究セミナーの開催はなかった。

第1回 4月15日 20人

- ・妹尾 裕介「ススコゲ分析からみた弥生鍋の機能—守山市下之郷史跡公園での復元製作、米調理実験を通じて—」
- ・川瀬 成吾「天ヶ瀬ダム建設前の瀬田川のオオアユは海産か湖産か」
- ・加藤 秀雄「琵琶湖産アユ種苗の流通をめぐる広域民俗誌の課題」

第2回 5月20日 23人

- ・里口 保文「琵琶湖南湖堆積物の堆積物粒度変化」
- ・橋本 道範「自然・生業・自然観—琵琶湖の地域環境史—（後編）」
- ・NOXON, Corey「3D Scanning at the Lake Biwa Museum: Lessons Learned and Steps Moving Forward」

第3回 6月17日 21人

- ・山川 千代美「関東地域における更新統産化石林について」
- ・中川信次「農山村資源を活用した交流事業について—農泊実施地域の実施体制および推進過程の分析—」
- ・松岡 由子「バイカルアザラシの研究—血液生化学的性状について—」

第4回 7月15日 20人

- ・亀田 佳代子「鵜飼のウミウの性差別：なぜ鵜飼の鵜はオスが多いのか」
- ・田畑 諒一「滋賀県産ミナメダカの遺伝的集団構造とその攪乱」
- ・林 竜馬「景観復元法による琵琶湖地域の温暖期植生変化の定量的復元」

第5回 8月19日 20人

- ・大塚 泰介「琵琶湖とその集水域で近年ふえてきた新顔の珪藻数種」
- ・増田 敬祐「里と山のレジリエンス—里山から考える自然と人間の関係」
- ・山本 綾美ほか「児童の感想文を用いたプログラム効果測定方法の開発—森林環境学習「やまのこ」事業を対象として—」

第6回 9月16日 19人

- ・米田 一紀「耳石輪紋を用いたホンモロコの日齢査定」
- ・大槻 達郎「発現する遺伝子の違いから海浜植物のエコタイプ（環境型）の耐塩性機構を解き明かす」
- ・根来 健「琵琶湖のプランクトンの変遷における質及び量の評価の課題」

第7回 10月21日 22人

- ・芳賀 裕樹「琵琶湖の水止めたろか～琵琶湖の治水・利水史を振り返る～」
- ・鈴木 隆仁「大阪大学豊中キャンパス内の3つの池の生物相」
- ・今井 一郎「沿岸海域における環境に優しい赤潮対策について」

第8回 11月18日 20人

- ・ 芦谷 美奈子「みんなで調べた滋賀のタンポポー参加型調査とタンポポー」
- ・ 金尾 滋史「琵琶湖南湖の水位増減に伴う一時的な水域での魚類の繁殖と稚魚の挙動」
- ・ 井内 美郎「琵琶湖過去5万年間の湖水位変動」

第9回 12月16日 21人

- ・ 美濃部 諭子「少花粉スギミニチュア採種園のDNA品種識別について」
- ・ 楊 平「地域資源の共同管理について」
- ・ 中村 久美子「「ちっちゃな子どもの自然あそび」におけるコロナ前後の変化」

第10回 1月20日 22人

- ・ R. J. スミス「日本で見つかったカイミジンコ（甲殻類）の外来種」
- ・ 島本 多敬「絵図・地図にみる比良山麓地域の沈砂池」

第11回 2月17日 21人

- ・ 榊永 一宏「日本の離島の潮間帯に生息する小型のアシナガバエの未記載種の分類学的位置」
- ・ 由良 嘉基「中学校における博物館の有効な利用法について」
- ・ 片山 大輔「UAV、河川シミュレーションによる希少種の生息域保全に配慮した多自然川づくり」

第12回 3月17日 22人

- ・ 藤岡 康弘「ホンモロコの湖岸における陸上産卵」
- ・ 安達 克紀「子ども主体の視点から見た博物館の利用 part2」
- ・ 八尋 克郎「琵琶湖博物館における研究活動」

(4) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館の研究成果発信の一環として、「新琵琶湖学セミナー」を開催している。2022年度は、全体のテーマを「モノを観る・モノを分ける——なぜ分けることで世界を理解しようとするのか？」とし、生物や人工物など様々なモノに焦点をあて、それらを観察して分けることで見えてくる事実を考えるセミナーとした。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前申し込み制によるオンライン受講を基本とし、オンライン参加が難しい方のためにセミナー室を会場としたパブリックビューイングを実施した。総申込者数は99名、滋賀県外からの参加もあり、オンラインの利点も認められた。具体的内容は下記の通り。

開講日：第1回 1月28日(土) 13:30～15:30 「マイナー生物学の世界」 最大視聴 49名

鈴木隆仁「微小生物の種とは」

島野智之（法政大学国際文化学部 教授）

「絶滅と分ける事～動物分類学が種の保全に貢献出来ることはなにか」

第2回 2月25日(土) 13:30～15:30 「考古学の世界」 最大視聴 51名

妹尾裕介「年代のものさし」

井上洋一（奈良国立博物館 館長）

「弥生時代の青銅器：形、模様を分けて見えてくるもの」

第3回 3月25日(土) 13:30～15:30 「昆虫学の世界」 最大視聴 50名

八尋克郎「昆虫の分類・多様性と進化——オサムシを例として」

寺本憲之（滋賀県立大学 客員研究員）

「イモムシ、ケムシや食樹・草を分けたり、まとめたりすることで
ガ・チョウ類の多様性、進化を理解する」

(5) 琵琶湖博物館ブックレット

「琵琶湖博物館ブックレット」(サンライズ出版)は、2016年からシリーズ出版されており、年に1~2冊発行されている。2022年度は、「琵琶湖の森の40万年史ー花粉が語るものがたりー」(2022年9月出版)が刊行された。

第16号「琵琶湖の森の40万年史ー花粉が語るものがたりー」 林 竜馬(琵琶湖博物館専門学芸員)

3. 研究交流

(1) 協力協定(MOU:Memorandum of Understanding)に基づく連携

琵琶湖博物館では、地域に根ざしながら広く世界を視野に入れ、研究活動および展示の国際化を推進するため、協力協定(MOU:Memorandum of Understanding)の締結に基づく研究・交流のネットワークを確立し、国内外の関係機関との連携を強化している。協定の締結内容としては、次の5項目である。このほかに、研究および資料、展示についての具体的な協力が行われる場合は、別途協議して協定を結ぶものとしている。

- ①研究者等博物館職員の交流
- ②共同研究プロジェクト、シンポジウム、展示等に関する交流
- ③専門技術や方法論に関する情報交換
- ④出版物、資料、標本等の交換(生きた生物を含む)
- ⑤両館で合意を得た博物館活動に関する他の事柄の交流

2021年度までに、フランスのパリ国立自然史博物館、ロシアのバイカル博物館、北マケドニアの国立オフリド水生生物研究所、中国の中国科学院水生生物研究所と湖南省博物館、韓国の国立洛東江生物資源館、京都大学野生動物研究センターの7つの博物館・研究機関とMOUを締結している。

また、2022年度からは、滋賀県との社会貢献連携協定の一環として、伊藤忠商事株式会社との連携研究を開始した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度に引き続き2022年度も海外の博物館・研究機関との交流は難しい部分も多かったが、国内の連携機関とは次のような活動を行った。

1) 京都大学野生動物研究センター(京都府京都市)

京都大学野生動物研究センター(センター)は、絶滅の危機に瀕している大型哺乳類を中心に、野生動物に関する教育研究を行っている施設である。国内外のフィールドで野生動物の行動や生態、社会を研究すると共に、国内の動物園・水族館と提携し、飼育下の動物の認知研究や行動研究も行い、フィールドとラボの分析を統合した研究を行っている。2016年11月25日に、野生動物の生態・行動の理解と保全に関わる情報及び技術の相互交換、並びに共同学術研究を基に、野生動物の教育的展示をより一層発展・促進することを目的として、協力協定(MOU)を締結した。

2022年度は、センターの主催する2022年度第4回動物園水族館大学シンポジウム「動物園・水族館が挑む保全活動」(水族館大学:3月12日(日))について共催を行った。

2) 伊藤忠商事株式会社(東京都港区)

伊藤忠商事株式会社は、初代伊藤忠兵衛によって滋賀県犬上郡豊郷町で創業された総合商社であり、近江商人の「三方よし」を企業理念と掲げている。琵琶湖博物館とは、第3期常設展示リニューアルにご寄付いただくとともに、企業の日「近江商人と三方よし」と題して館内展示を行うなど、関係を深めてきた。

その中で、2021年度後半、琵琶湖博物館の研究活動への支援について伊藤忠商事より申し出があり、検討の結果、「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」を立ち上げ、その実施に必要なご支援や協力をいただくこととなった。このプロジェクトは、2022年10月28日に滋賀県と伊藤忠商事との間で締結された「滋賀県と伊藤忠商事株式会社との社会貢献連携協定」の中の連携項目の1つである「(1)環境・生物多様性保全に関すること」の具体的な連携・協働の取り組みとして位置づけられ、11月より実施された。

連携研究の目的は、日本産希少淡水魚の保護増殖と保全であり、以下の2つのサブテーマについて研究を進めている。各研究テーマにおいて2022年度に実施した内容は以下の通りである。

「琵琶湖地域の生物多様性総合保全に関する連携研究プロジェクト」

1) 希少淡水魚の飼育技術確立に関する研究

琵琶湖博物館の保護増殖センターで系統保存を行っている琵琶湖淀川水系の希少淡水魚のうち、緊急性が高く繁殖ができていないアユモドキについて、非繁殖期における摂餌量を増やすことで個体の成熟を促す試みを行った。

2) 希少淡水魚保全に向けた「ため池」環境改善の実証実験

博物館屋外展示にある生態観察池を「ため池」環境改善の実験場とし、環境改善前の状況を知るための事前調査として、水質、底質、プランクトン、水生動物等の調査を定期的に行った。

(2) 研究機関との連絡活動

1) 県内試験研究機関

県立の8つの試験研究機関が琵琶湖や滋賀県の環境に関する相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として、琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議（事務局：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）が設置運営されている。その後、目的を環境に限らず滋賀県立の試験研究機関相互間の連絡調整を行い、その試験研究の円滑な推進や広く情報の発信を図ることとなった（2018年1月25日本会議）。

各機関が行っている研究やその成果について広く一般に知ってもらうため、毎年発表会を開催しているが、今年はコロナ禍のためオンラインで実施することとなった。発表会は、2022年11月11日（金）に「MLGsと試験研究機関～持続可能な滋賀の未来に向けて～」と題して行われ、当館からは米田一紀主査が「内湖・琵琶湖湖岸域でのホンモロコ産卵における課題」と題して発表を行った。幹事会は2023年1月12日（木）にオンラインで開催され、本会議も2023年3月20日（月）にオンライン開催となった。本会議では、発表会の報告とともに次年度の行事予定が承認された。

(3) 海外交流活動

1) 研究に関する国際用務

林竜馬

- ・2022年8月24日～9月9日、カナダ ウッドバッフアロー国立公園、科研費基盤研究（B）「現植生分布の基となる最終氷期最盛期における植生の定量的復元（研究代表者：高原光）」の研究進捗のための湖底堆積物試料の採取および花粉生産量調査

妹尾祐介

- ・2022年9月4日～9月16日、タイ国テェンラーイ県および、チェンマイ、バンコク周辺、科研費基盤研究（B）「和食の成立過程の解明：湯取り法炊飯からウルチ米蒸しへの転換過程（研究代表者：小林正史）」の研究進捗のためのゾミア山地における伝統的コメ調理方法の聞き取り調査

橋本道範

- ・2023年2月16日～2月23日、ラオス人民共和国ナムバーク郡、龍谷大学・農の総研究所プロジェクト「淡水魚消費をめぐるフードシステムの地域間比較研究—ナレズシに注目して—」の研究進捗のための現地のフナズシの実態と商品化プロセス調査

4. 研究部活動

(1) 研修

琵琶湖博物館は、日本学術会議声明「科学者の行動規範」改訂版（平成25年1月25日）および「博物館

関係者の行動規範」(日本博物館協会平成 23 年 3 月)に準拠した「滋賀県立琵琶湖博物館における研究活動に係る行動規範」(2016 年 7 月)を定め、公正な博物館活動を推進している。また、研究活動の不正行為を防止する一環として、毎年研究倫理研修を行っている。2022 年度は次のような研修を実施した。

1) 第 1 回研究部研修「研究倫理研修」 参加者：37 名

日時：11 月 25 日(金) 13:30~15:30

場所：琵琶湖博物館ホール

内容：「事例研究で考える適切なオーサーシップの在り方」

講師：原田 英美子 氏(滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科 教授)

研究者の集団(大学の講座、共同研究等)によって組織的におこなわれる研究活動では、真にその研究成果に貢献した者について、研究業績の公表の際に適正なかたちで著者として掲示する必要がある。今回は、研究倫理に関して近年とくに注意喚起されている「適切なオーサーシップ」(ギフト・オーサーシップ、ゴースト・オーサーシップの問題)や二重投稿の問題に焦点を当て、組織的な場での研究不正の事例や研究倫理教育の現状と課題に触れながら、研究者一人ひとりの問題意識を喚起した。

2) 日本学術振興会 研究倫理 e ラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)の受講

実施期間：1 月 27 日~3 月 17 日まで

受講時間：約 1 時間半

受講人数：41 名(学芸職員の他、特別研究員 11 名を含む)

(2) 薬品類の管理

滋賀県立琵琶湖博物館化学薬品安全管理規程(2017 年 4 月 1 日より施行)の第 4 章に記述されている通り、化学薬品の保管状況および毒劇物等の使用状況について確認を行うことを目的に、薬品の棚卸し作業を行った。その結果、毒物、劇物、有害物質、指定物質、第一種指定化学物質について、すべての在庫を確認した。毒劇物の薬品瓶の重量(容器込み)を測定し、薬品管理使用簿に記入した。棚卸しの結果は、化学薬品管理報告書にまとめ、化学薬品管理委員会の委員長に報告した。

(3) 研究備品の管理

研究備品の適切な管理のため、博物館全体の研究備品を計画的に確認することとしている。今年度も、備品台帳の情報を元に、取得金額により対象を区分して備品の確認を行った。その結果に基づき、特に取得年代の古い備品の動作確認や処分等の検討を行っている。

大型備品の更新計画に基づき、今年度は電子顕微鏡を導入することができた。このほか、多くの研究に共通して必要な蒸留水製造装置を更新した。伊藤忠商事との連携研究では淡水魚の増殖に必要なインキュベーターや、生態観察池の観測に必要なボート・水質計などを導入することができた。また、経年劣化が著しかった人工環境室の空調機器一式の修繕・交換を行った。

(4) 研究環境の整備

研究棟の各研究室・実験室において蛍光灯の劣化が進んでいたため、優先順序をつけて順次蛍光灯型 LED への交換を行った。問題のある個所はまだ相当数のこっており、次年度以降も引き続き更新を行っていく予定である。

(5) 研究・事業専念時間設定

琵琶湖博物館では、学芸職員は研究部を本務とし事業部または総務部の業務を兼務して博物館活動を進めている。しかし、事業では直近の対応や対外的な対応を迫られる部分が多く、業務量が増えると本務である

研究が後回しになりがちであった。特に、2020 年度までの 6 年間は常設展示のリニューアルがあり、これを優先して業務が行われてきた。2020 年度にグランドオープンを終え、第三次中長期基本計画に沿った新しい博物館活動が始まった 2021 年度からは、次の展示更新も見据えて基本に立ち返り、研究と資料収集に力を注ぐことが必要となっている。

そのため、学芸職員の働き方を改革し、研究と事業のそれぞれに集中的に取り組むことで、より一層よい仕事、よい成果をあげられるよう統一的な研究・事業専念時間設定の試行を 2021 年 6 月より開始した。具体的には、火曜日と木曜日の午前の業務時間と水曜日の全業務時間を、学芸職員全員が研究専念時間としている（質問コーナー担当者を除く）。2021 年度末に行ったアンケートの結果に基づき、2022 年度は引き続きこの体制で継続した。

2 交流活動

1. 利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2022年度の登録者数は198名（2021年度登録更新者184名）であった。

フィールドレポーターの主な活動は、月2回（原則第1・3土曜日）の定例会の開催、アンケート型調査の企画・実施とその結果をまとめた報告書「フィールドレポーターだより」の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、自由交流型調査のまとめと掲示板発行、館内外で開催される交流会・イベントなどの実施・参加である。これらの活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2022年度の活動は新型コロナウイルス感染症の対策により、影響が前年度よりはましになったため、新型コロナウイルス感染症発生前とまではいかないが、活動の再開を試みた。4月より毎月第1・3土曜日（原則）のフィールドレポータースタッフ定例会等の会合・行事を計24回開催した。

2022年度の調査として、前年度中止となったヒガンバナ調査を、7月末から10月30日までの間で「ヒガンバナは咲いていますか？」調査として実施した。また、期間は終了しているが、昨年度に実施した「えっ!?こんなところにもヌートリア」調査に関する追加の目撃情報も得ることができた。調査票の作成や報告書執筆に関しては、ヒガンバナ調査はフィールドレポーター担当学芸員の大槻と同スタッフの前田雅子氏とが中心になって行った。なお、ヒガンバナ調査では、ヌートリア調査と同様に、従来の調査票を郵送する方式に加えて、オンラインでの回答フォームを準備し、インターネットを通じた回答が可能となった。

自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」については、「フィールドレポーター掲示板」計3号（通巻100号～102号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。フィールドレポーター掲示板の編集長は、フィールドレポータースタッフの中野敬二氏が務めた。100号ではこれまでの投稿の総まとめをするなど、31ページにもおよぶ大ページの冊子となった。

フィールドでの観察会や調査会としては、2008年から継続している「アキアカネふるさと探し」調査を実施した。このうち、びわこバレイ蓬萊山頂付近でのアキアカネのマーキング調査については、リフト運賃の高騰などにより、昨年に続き中止となった。大津市伊香立での調査（10月15日）においては、感染症対策を行ったうえで、フィールドレポーターも参加し計17名で調査を行った。

このほか、7月17日に実施したフィールドレポーター交流会において、2019年に実施した近江の食考査の追加データの発表、前年度実施したヌートリア調査の一部を紹介した。情報誌「びわはく」7号にもヌートリア調査の内容を紹介した。また10月に行われたびわ博フェスでは、22日にはフィールドレポーターの紹介や調査を紹介し、23日には万華鏡づくりのワークショップを実施した。

本年度より、web掲示板として、掲示板アプリslackを利用し、オンラインでも掲示板の情報を集めている。

	月日	出席数		内容
1	4月2日	中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
2	4月16日	7	定例会	掲示板100号発行調査準備
3	5月7日	中止	定例会	新型コロナウイルス感染症拡大のため中止
4	5月21日	6	定例会	ヒガンバナ調査準備、掲示板101号準備

	月日	出席数	内容
5	6月 4日	3 定例会	ヒガンバナ調査準備
6	6月 18日	6 定例会	フィールドレポーター交流会のチラシの確認と送付
7	7月 2日	5 定例会	ヒガンバナ調査最終確認
8	7月 16日	6 定例会	フィールドレポーター交流会準備
9	7月 17日	20 交流会	フィールドレポーター交流会
10	7月 30日	5 定例会	ヒガンバナ調査、調査票発送
11	8月 20日	5 定例会	情報誌「びわはく」投稿内容検討
12	9月 10日	6 定例会	アキアカネ調査準備、びわ博フェス内容検討
13	9月 25日	7 定例会	びわ博フェス打ち合わせ、掲示板 101 号内容検討
14	10月 1日	5 定例会	掲示板 101 号の内容確認、びわ博フェス準備
15	10月 15日	17 調査	伊香立赤とんぼ調査
16	10月 22日	6 フェス	びわ博フェスシンポジウム
17	10月 23日	50 フェス	びわ博フェスワークショップ
18	11月 5日	5 定例会	びわ博フェス反省会。情報誌「びわはく」内容検討
19	11月 19日	5 定例会	ヒガンバナ調査進捗報告。「びわはく」内容校正
20	12月 3日	6 定例会	ヒガンバナ調査進捗報告。掲示板 102 号内容検討
21	1月 7日	6 定例会	掲示板 102 号内容検討
22	2月 4日	4 定例会	スクミリンゴガイ調査調査票検討
23	2月 18日	5 定例会	ヒガンバナ調査進捗報告。スクミリンゴガイ調査調査票校正
24	3月 18日	5 定例会	R5 年度交流会内容検討

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていかうとする利用者のための登録制度として、2000 年 8 月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域との橋渡し役となってもらいたいことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1 年毎に何回でも更新できる。

2022 年度は登録講座をオンラインで 3 回、対面式で 1 回実施した。オンラインの開講期間は 5 月 15 日（日）～5 月 29 日（日）、9 月 25 日（日）～10 月 9 日（日）、3 月 5 日（日）～3 月 19 日（日）で、受講生にはこの期間のうち任意の時間に受講いただいた。対面式では 9 月 25 日（日）に実施した。5 月開催後には 39 名、9 月開催後には 13 名の新規登録者があり、2021 年度末の会員数は 404 人となった。なお、3 月開催分の新規登録者 18 名は 2023 年度より会員となる。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の理念実現への推進力となっている。2022 度は 25 のグループが活動を展開した。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行

担当学芸員：田畑諒一、川瀬成吾

会員数： 82 名

〔設立の趣旨〕

「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標のもと、魚採りが大好きな人々が集まって結成された。2000年の発足以来、琵琶湖博物館を活動拠点として、「魚つかみ」を楽しみながら、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の姿として記録に残すことを目指している。

〔活動の概要〕

4月から7月と9月から12月に月一回、定例調査を琵琶湖流域の各地で開催し、その他に臨時的な活動や県内各地での観察会支援を実施している。また各会員は日常的に調査活動を実施し、うおの会のデータとして記録を残している。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、12名の運営委員が中心となって行っている。

2022年度は定例調査で16地点、個人調査で35地点の採集データを残すことができた。定例調査での魚類の総採集尾数は1274尾で、出現種数は31種であった。なお9月の活動は悪天候のため中止となった。定例調査では2021年度と同様、新型コロナウイルス対策として車での乗り合いを避け、1ないし数地点を徒歩で移動して調査を実施した。広範囲を車で移動し数班で実施する2019年以前の活動形態と比較して調査地点数は減少したが、大人数で集中して採集することで、その地点に生息する魚種を網羅的に採集できたと考えている。また会員間の交流、情報交換が活発になり、この点も車を利用した班体制での調査より有意義な点であった。野外調査を行わない冬季には、1960年代の琵琶湖産魚類標本の観察整理講座と、ホンモロコに関する勉強会を実施した。

その他、自然観察会、環境学習等への協力として、高島市での「高島市お魚ふやし隊」による観察会と、草津市の自治会での観察会・講演会にて、参加者へ魚や生息環境についての解説を行った。

「うおの会」のおもな活動

・定例調査などの活動一覧（のべ参加人数197名・16地点分のデータ）

活動日	内 容	参加者数
4月 17日	第165回定例調査 大山川（野洲市）	16名
5月 15日	第166回定例調査 南浜町付近水路、琵琶湖岸（長浜市）	18名
6月 19日	第167回定例調査 野洲川（湖南市岩根付近）	27名
7月 17日	第168回定例調査 日野川（日野町日野川ダム上流）	25名
9月 18日	（中止）第169回定例調査	-名
10月 16日	第170回定例調査 栗見出在家町付近の水路、琵琶湖岸（東近江市）	17名
10月 23日	びわ博フェス2022出展	
11月 20日	第171回定例調査 野洲川（甲賀市水口付近）	18名
12月 18日	第172回定例調査 野洲川（守山市・野洲市付近）	18名
1月 15日	勉強会；1960年代琵琶湖産魚類標本の整理講座（講師；田畑学芸員）	16名
2月 19日	勉強会；ホンモロコについての講座（講師；藤岡康弘さん）	22名
3月 26日	総会 場所：琵琶湖博物館	20名

※上記以外に運営会議を2回開催

※上記以外に、個人調査により35地点分のデータを収集

・各種行事・団体への参加・協力一覧

活動日	内 容	参加者数
6月 5日	高島市「お魚ふやし隊自然観察会」にて観察会講師	1名
10月 23日	びわ博フェス2022出展（ワークショップ参加者36名＋保護者）	12名
11月 7日	草津市不動浜自治会「ふるさと環境を守る会」にて観察会講師、講演	1名

○近江 巡礼の歴史勉強会

世話役：福野憲二、吉井 隆、関谷和久、長 昭男

担当学芸員：橋本道範 会員数 4 名

[設立の趣旨]

近江の巡礼について、歴史的背景や現状確認を視野に入れ調査を行い、宗教、郷土史、教育文化、行政など各種専門分野の人々と勉強会、見学会などを行うことを目的として「近江 巡礼の歴史勉強会」を設立した。

“近江の祈り”をテーマに、甲賀市で発見された福野家文書「甲賀准四国設置由来」と「朱印帳」をもとに写し四国八十八ヶ所(注)の調査活動を行う。

(注)甲賀准四国八十八ヶ所は、滋賀県の四国巡礼として明治45年に設立された唯一の「写し四国八十八ヶ所」である。真言宗の寺院だけでなく宗派を超えた組織を構成していることは特筆すべきことであるが、現在は残念ながら霊場巡礼の慣習が薄れ、その存在も忘れられかけている。しかし、今も多くの寺院には設立当時の掛額や弘法大師像、札所の石碑などが残されており、その現状を調査し記録することに意義があると考えます。

[活動の概要]

- ・「甲賀准四国設置由来」に基づき 8 名の発起人の現在を訪ね甲賀准四国に関する資料等の発掘を行い設立の経緯と巡礼の広がり調べる。
- ・札所の寺院を訪問し住職と面談することで、甲賀准四国の現在の状態を把握し、あわせて新たな資料を発掘する。
- ・朱印帳などを手掛かりに広がり具合を調査し人々を巡礼に駆り立てる要因を探る。
- ・西国三十三所や近江西国三十三所の観音信仰との関連について調査し巡礼の実態を探る。
- ・専門分野だけでなく広く一般に活動の展開を図る。

[2022 年度活動結果報告] 活動会員数 (のべ) 38 名、一般参加者数 (のべ) 576 名

- ・甲賀准四国対象寺院の住職との面談と調査は、対象 98 ヶ寺のうち、調査可能な寺院数は兼帯の寺院も合わせて 92 ヶ寺、廃寺・老朽化で調査不可能な寺院数は 6 ヶ寺である。その中で 2023 年 3 月までに住職との面談が実施できた寺院数は 26 ヶ寺 (進捗率 30.2%) である。
- ・NHK 国際放送の番組「NINJYA TRUTH #21 忍者の聖地甲賀」でクリス・グレン氏と山田雄司 (三重大教授) とともにメンバーが出演。また、日本電波ニュースによるベトナムホーチミン TV の番組にも出演し、当グループとして撮影に協力した。

修験の聖地飯道山、飯道神社、山伏の修行場、織田信長が国見をしたと伝わる岩場、廃飯道寺の石垣のある坊跡、催事に使われたと思われる石組みの残るため池なども紹介された。飯道山行者講所属の当会メンバーが山伏姿で出演、飯道山を案内し解説した。海外の忍者ブームを受けて制作された番組で、放送後の反響も大きく、飯道山の歴史と自然を世界の人々に知ってもらおうきっかけになった。

- ・甲賀市の今郷棚田が 2 月 15 日に農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に選定された。

つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～は、棚田地域の振興に関する取り組みを積極的に評価し、棚田地域の活性化や多面的機能に対する理解と協力を得ることを目的としている。今郷棚田は「今郷棚田の自然を学び豊かな自然を守ろう！」をテーマに、取り組む内容として、県内の博物館等との連携による生態系保全活動で、自然の素晴らしさを学び大切にすることを育むとともに、集落ぐるみによる棚田保全による仕組みを構築するとした。

- ・びわ博フェス 2022「地域・びわ博」シンポジウムで口頭発表を行い、発表者による交流会に参加。

つながりとひろがりを得る素晴らしい機会になった。

- ・忍者や山伏が関わったとされる甲賀市の「甲賀売薬の製造・販売用具」を登録有形民俗文化財に、また、ふなずし等の滋賀県の伝統的食文化の「近江のなれずし製造技術」を登録無形民俗文化財に登録されるこ

とになった。甲賀の薬業は、中世に山伏が、火伏の神・愛宕神社や疫病退散の祇園社のお札とともに広めたとされ、甲賀地域の産業として発展した。配札が禁止された明治以降は「おきぐすり」として地域に定着し、配置売薬として富山や奈良に並ぶものである。

甲賀准四国を設置した福野家も、江戸時代は愛宕神社の配札とおきぐすりなどを生業とし、明治以降は、その知識を活かして、医者として地域医療に関わってきた。

「近江のなれずし製造技術」登録記念講演会で、橋本専門学芸員が「フナズシ研究最前線」をテーマに講演された。ふなずしの文化は湖北だけでなく、甲賀地域にも伝わっていて地域による製造技術に差がある。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初計画の下記3項目が実施できなかった。

1. 甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示を実施して調査結果を発表する。
2. 甲賀准四国の関係者や巡礼の専門家との第二回目勉強会を開催する。
3. 年度末に近江 巡礼の歴史勉強会の報告会を開催する。

「近江 巡礼の歴史勉強会」のおもな活動

活動日	内容	場所
4月15日	「つなぐ棚田遺産」今郷棚田の自然観察(～5月18日)	甲賀市水口町
5月29日	法然上人二十五霊場巡礼(知恩院・安養寺)	京都市など
5月31日	NHK 国際放送「忍者の聖地甲賀」飯道山で撮影	甲賀市水口町
6月20日	甲賀准四国一番札所龍福寺の神農社の調査	甲賀市甲賀町
7月3日	甲賀市くすり学習館で神農と薬の展示を見学	甲賀市甲賀町
7月16日	「ふるさと再発見 忍びの道と戦国の城」展を見学	甲賀市甲南町
9月27日	水口町郷土史会の歴史講座で発表	甲賀市水口町
10月22日	びわ博フェス2022「地域・びわ博」シンポジウムで発表	草津市
10月25日	日本電波ニュースのTV番組を飯道山で撮影	甲賀市水口町
11月3日	飯道山行者講による飯道寺の笈渡し	甲賀市水口町
11月12日	甲賀の山伏に関する意見交換会	甲賀市水口町
11月22日	岩上自治振興会の歴史講座で発表	甲賀市水口町
1月15日	庚申山広徳寺の柴燈護摩供養と巡礼札所の石碑調査	甲賀市水口町
1月19日	甲賀衆大原氏一族の大原同苗講の調査	甲賀市水口町
2月11日	「甲賀売薬の製造・販売用具」文化財登録記念講演会聴講	甲賀市水口町
3月14日	「近江のなれずし製造技術」文化財登録記念講演会	大津市

※「近江 巡礼の歴史勉強会」活動の参加人数について

年 度	活動日数	活動会員数	一般参加者数	合 計
発足前	25	51	0	51
2017 年	37	76	82	158
2018 年	21	42	*627	669
2019 年	19	44	*543	587
2020 年	3	12	95	107
2021 年	9	20	110	130
2022 年	22	38	*576	614
合 計	136	283	2,033	2,316

*甲賀市岩上地区文化祭でパネル展示実施して調査結果を発表した。岩上自治振興会の歴史講座や研修を実施した。(2018年・2019年)

*「近江のなれずし製造技術」と「甲賀売薬の製造・販売用具」の民族文化財登録の記念講演会参加人数を含む。(2022年)

○淡海スケッチの会

担当学芸員：榊永一宏 会員数：9名

[設立趣旨]

「外へ誘う博物館」を实践し、滋賀県内の各所へ赴き、絵画等により風景やものを観察、写生することで記録を残すことを目的とする。

[活動概要]

月1回(基本的に第3日曜日)、滋賀県内各地でスケッチ会等を開催。また、気候が厳しい真夏や真冬、雨天時は琵琶湖博物館内でスケッチを行う。2015年秋に設立。風景に限らず植物や、博物館内の剥製、水族展示室の魚などをスケッチし、専門家の話を伺う機会も設けている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月17日	写生会	崇福寺跡(大津市)	3名
5月15日	中止	—	—名
6月19日	写生会	琵琶湖博物館	3名
7月17日	写生会	琵琶湖博物館	2名
8月21日	中止	—	—名
9月11日	びわ博フェスのためのポスター制作	琵琶湖博物館	4名
10月16日	写生会	曾根沼(彦根市)	2名
11月20日	中止	—	—名
12月18日	ミーティング	琵琶湖博物館	2名
1月15日	写生会	琵琶湖博物館	3名
2月19日	写生会	琵琶湖博物館	3名
3月19日	写生会	琵琶湖博物館	3名

○近江はたおり探検隊

運営：辻川智代 担当学芸員：橋本道範

[設立の趣旨]

2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけとなり、展示終了後、結成。「地域に残された人とモノから近江の機織り文化を探究し、現在、失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要]

博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日		内 容	場 所	参加者
4	6	織姫の会	生活実験工房	7 名
4	23	織姫の会	生活実験工房	4 名
5	14	織姫の会	生活実験工房	3 名
5	25	織姫の会	生活実験工房	3 名
6	7	織姫の会	生活実験工房	5 名
6	25	織姫の会	生活実験工房	3 名
7	13	織姫の会	生活実験工房	4 名
7	30	織姫の会	生活実験工房	4 名
9	3	織姫の会	生活実験工房	3 名
9	28	織姫の会	生活実験工房	6 名
10	12	織姫の会	生活実験工房	6 名
10	23	びわ博フェス 「大麦で星形のオーナメントを作ろう」	生活実験工房	5 名 体験者 11 名
11	2	織姫の会	生活実験工房	6 名
11	26	織姫の会	生活実験工房	3 名
12	7	織姫の会	生活実験工房	3 名
12	24	織姫の会	生活実験工房	7 名
1	14	織姫の会 (わく探と共催「綿に触れてみよう」)	生活実験工房	3 名 体験者 15 名
2	1	織姫の会	生活実験工房	5 名
2	18	織姫の会	生活実験工房	3 名
3	1	織姫の会	生活実験工房	5 名
3	18	織姫の会	生活実験工房	2 名

○大津の岩石調査隊

代表者：中村みどり(2023年1月まで) 齊藤文子(2023年2月より) 担当学芸員：里口保文 顧問：中野聰志
 会員数：20名

〔設立の趣旨〕

市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

〔活動の概要〕

今年度は、隊員各自が野外調査担当となり、計画立案から調査後の報告までを行った。初めての調査地もあり、多様な岩石の見識を深めることができた。また、長年の継続調査から学会誌への論文発表の成果があった。室内勉強会では、採取岩石を持ち寄り、情報交換と岩石の同定を試みた。さらに、宇宙の岩石についての魅力ある発表もあった。一方、びわ博フェスのワークショップに参加して、「石を比べてみよう、石に顔を描いてみよう」のタイトルで、小さな子供たちと石とのふれ合いの中で、楽しい時間を共有できた。

「はしかけ大津の岩石調査隊」のおもな活動

活動日	内容	場所	参加者
2月 27日(日)	烏丸半島の岩石調査	草津市	9名

活動日	内容	場所	参加者
5月 8日(日)	西浅井町月出地区の野外調査	長浜市	9名
6月 4日(土)	太郎坊宮、箕作山野外調査	東近江市	7名
7月 25日(日)	薄片観察会	琵琶湖博物館	10名
10月 24日(日)	びわ博フェスに参加	琵琶湖博物館	8名
12月 4日(日)	石部灰山・五軒茶屋火山灰調査	湖南市	12名
1月 29日(日)	岩石持ち寄り情報交換会	琵琶湖博物館	10名

○温故写新

連絡係：谷口雅之 担当学芸員：金尾滋史 会員数：21 名

[設立の趣旨]

写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要]

2022年度の前半は新型コロナウイルス感染症の再拡大などにより、室内での活動などが実施できず、4月から7月にかけては活動を中止した。8月に活動を再開することができ、特に10月には博物館イベント「初心者のための生き物写真撮影講座」を初めて共催として開催することができた。参加者の反応は良く、今後もこのようなイベントは、はしかけ活動の一般向け行事として、定着化を目指したい。11月から1月にかけては県内各地での撮影会を実施した。いずれも昨年度も計画をしていたものの、天候や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止したものであり、それぞれの撮影会では、現在の風景記録のみならず、大橋コレクションの比較写真となる撮影もすることができた。このような撮影会で撮影した写真や各メンバーが撮影したもののうち利用可能な写真については、今後博物館の展示や様々な場面で利活用できるよう写真整備を行っていく予定である。一方で2月や3月は担当学芸員の水槽破損事故に伴う対応や臨時休館などにより再び活動が休止となってしまった。次年度の活動についてはまた4月以降に計画を行い、活動を再開する予定である。

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月～7月	新型コロナウイルス感染症再拡大等により活動中止	
7月16日(土)	企画展示「チョウ展 ―近江から広がるチョウの世界―」 オープニングセレモニー撮影	2名
8月28日(日)	今年度の活動内容について、10月イベントについて	6名
9月24日(土)	10月1日初心者のための生き物写真撮影講座準備・下見	7名
10月1日(土)	博物館イベント「初心者のための生き物写真撮影講座」開催（共催）	7名
10月23日(土) 24日(日)	びわ博フェス2022において、ポスター展示、記録係として館内の撮影	4名
11月26日(土)	お出かけ撮影会 醒ヶ井・柏原 旧中山道の風景等撮影	7名
12月10日(土)	おでかけ撮影会 in 石部・三雲 旧東海道の風景等撮影	5名
1月15日(土)	おでかけ撮影会 in 彦根 大橋コレクション撮影地巡りなど	5名

活動日	内 容	参加者数
2 月 18 日（土）	おでかけ撮影会 in 堅田（中止）	
3 月 12 日（日）	総会 博物館交流室（博物館臨時休館のため中止）	

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子 担当学芸員：中川信次 会員数：1 名

[設立の趣旨]

地域の生活のあり方を考えながら地域の生活話を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要]

2022 年度は活動休止

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：堀田博美 事務局長：安原 輝 担当学芸員：山川千代美 会員数：28 名

[設立の趣旨]

多賀町四手で計画された 180～190 万年前の古琵琶湖層群調査(多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト)において、市民参加の方々を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

[活動の概要]

コロナ禍ではあったものの、「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査」が無事に実施され、本年度も発掘調査に参加することができた。令和 4 年 3 月に「アケボノゾウ化石多賀標本」が国の天然記念物に指定されたこともあり、発掘調査前には「アケボノゾウ化石多賀標本の意義について」の勉強会を行った。発掘調査終了後の 5 月・6 月・7 月には、第九次発掘調査で採取された化石のクリーニングを重点的に行った。化石のクリーニングは化石を同定するために重要な作業であることから、「古琵琶湖層群の貝類化石とそのクリーニングについて」の勉強会も行うなど、古琵琶湖層群の化石についての知識も学びつつ、さらなるクリーニング技術の習得にも努めている。多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業も、小規模ではあるが地道に活動が続けている。

10 月 22 日・23 日には「びわ博フェス 2022」が開催された。

10 月 22 日は『「地域・びわ博」シンポジウム「一緒に楽しく発見したのは？」』を聴講し、その後に行われた交流会に参加した。交流会には、他のはしかけグループやフィールドレポーターの方々だけではなく、地域で活動しておられる団体の方々や企業の方々、高校生の方々も参加しておられ、お互いの活動について紹介し合いながら和やかに交流し、情報交換することができた。

10 月 23 日にはアトリウムに掲示したポスター前で活動紹介を行い、その後、ワークショップ「粒度表作り」を実施した。粒度表の作成は、今までの活動の中で粒度表用の土採集から完成に向けて順を追って行ってきた活動であり、その活動の一環として、活動中に学んだことや経験したことも活かしつつ、ワークショップのプログラムを構成した。古琵琶湖層群についてや地層を観察するポイント、粒度区分などの説明の後、実際に粒度表を作成してもらおうという、計 45 分間のプログラムとなり、たいへん大きな挑戦であったが、スタッフとしてワークショップの準備に関わり、参加された一般の方々に粒度表の作り方を分かりやすく説明し、「粒度表作り」というワークショップを通じて地層の観察にも興味を持っていただけるよう努めたこと、ワークショップを無事に実施することができたことなどは、ワークショップを行ったメンバー自身の学びや自信にもつながった。

JICA 研修においては、海外から来日された博物館の職員の方々や研修スタッフの方々に、古琵琶湖発掘調査隊の活動を地域で活動する事例として紹介した。その他にも「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の発掘調査期間中に多賀町立博物館で行われた学習会においてメンバー 1 名が勉強会を担当したり、地学研究発表

会でメンバー1名が発表を行った。

これらのことは、活動で経験したことや学んできたこと、調べてきたことなどを、他の方々に発表し伝えるという、たいへん貴重な経験となった。

また、以前から継続して取り組んできた「粒度表の作成」では、ワークショップに参加したメンバーを中心に、それぞれが自分自身で粒度表を作成し、完成させることができた。今後はフィールド活動で、作成した粒度表を活用していければと考えている。

【定例活動】

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査」への参加

日時：4月23日（土）～4月30日（土）9：00～16：30 場所：滋賀県犬上郡多賀町四手

参加者（のべ）：34名

【屋内活動】

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第九次発掘調査」で採取された化石の状態確認およびクリーニング〔昆虫化石・咽頭歯化石・植物化石・貝化石〕

① 日時：5月15日（日）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：3名

② 日時：5月21日（土）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：3名

③ 日時：5月22日（日）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：2名

④ 日時：6月11日（土）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：4名

⑤ 日時：7月2日（土）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：4名

⑥ 日時：7月3日（日）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：3名

- ・多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

① 日時：5月28日（土）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：2名

② 日時：6月26日（日）13：00～15：30 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：3名

- ・「びわ博フェス 2022」で行うワークショップ『粒度表作り』の準備（土準備・粒度表試作品の改良）

日時：9月25日（日）13：00～17：00 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：5名

- ・「びわ博フェス 2022」で行うワークショップ『粒度表作り』の最終準備・リハーサル

日時：10月18日（火）13：00～16：00 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：2名

- ・「びわ博フェス 2022」

① ポスター解説（アトリウムに掲示した古琵琶湖発掘調査隊のポスター前での活動紹介）

日時：10月23日（日）11：30～12：00 場所：琵琶湖博物館 アトリウム 参加者：2名

②ワークショップ『粒度表作り』

日時：10月23日（日）13：00～13：45（1回目）14：00～14：45（2回目）

場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：5名

〔ワークショップ参加者：6名（付き添いの方の人数は含まず）〕

- ・粒度表の作成

日時：1月22日（日）13：00～17：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：6名

- ・古琵琶湖発掘調査隊 総会

日時：3月19日（日）13：00～16：30 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：5名

【勉強会】

- ・「アケボノゾウ化石多賀標本の意義について」

日時：4月17日（日）13：00～14：00 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：7名

講師：高橋啓一先生〔滋賀県立琵琶湖博物館館長〕

- ・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」第九次発掘調査時に行われた学習会にて会員1名が地層についての

勉強会を担当

日時：4月24日（日）9：00～15：10（内、午前15分程度、午後20分程度を担当）

場所：多賀町立博物館 大会議室・「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト」の発掘調査地（多賀町四手）

内容：午前：館内学習会「地層についての勉強会」を担当

午後：現場説明会「発掘調査地の地層の説明」を担当

- ・「古琵琶湖層群の貝類化石とそのクリーニングについて」

日時：5月21日（土）10：00～12：00 場所：琵琶湖博物館 実習室1 参加者：5名

講師：松岡敬二先生〔豊橋市自然史博物館ミュージアムアドバイザー（前館長）〕

【その他】

- ・『びわ博フェス2022「地域・びわ博」シンポジウム』の聴講・交流会への参加

日時：10月22日（土）13：00～17：00 場所：琵琶湖博物館 ホール・セミナー室 参加者：2名

- ・JICA研修「2022 博物館とコミュニティ開発」コースにて古琵琶湖発掘調査隊の活動を紹介

日時：11月29日（火）15：00～16：30（内30分程度を担当） 場所：琵琶湖博物館セミナー室

参加者：1名

- ・「第36回 地学研究発表会」にて会員1名が発表

日時：2月19日（日）12：55～17：00（内15：00～15：15に発表） 場所：琵琶湖博物館セミナー室

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：田畑諒一 会員数：5名

〔設立の趣旨〕

子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

〔活動の概要〕

2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動。大人と子どもが一緒に楽しむイベント作りを目指している。

2022年度もコロナのため、ザ・ディスカバはしかけとしての活動はありませんでした。

○里山の会

担当学芸員：美濃部諭子 会員数：37名

〔設立の趣旨〕

交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して里山をより深め、会独自に現代における里山の「利用法」と「楽しみ方」を模索している。

〔活動の概要〕

里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソヨゴやヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の散策、夏の昆虫・生物観察、秋の散策、冬のたき火など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動の地域での認知度も高まってきている。

2022年度の里山体験教室は、天候不良により春は午前のみ活動を実施、夏は終日中止となった。秋と冬は当初計画どおり活動を楽しんだ。

「里山の会」のおもな活動

活動日	行事名	場所	参加人数
4月 16日	里山体験教室(春) 下見	野洲市大篠原地先	14名
4月 24日	里山体験教室(春) 本番「里山の春を探そう」(午前)	野洲市大篠原地先	31名
6月 15日	潮干狩り	三重県御殿場浜	5名
7月 2日	里山体験教室(夏) 下見	野洲市大篠原地先	11名
7月 10日	里山体験教室(夏) 本番「里山の夏を楽しもう」 (はしかけ会員のみのみ)	野洲市大篠原地先	13名
8月 20日	スプーンづくり	琵琶湖博物館	15名
9月 10日	ハンモック虫干し・道具整備	琵琶湖博物館	15名
10月 8日	里山体験教室(秋) 下見	野洲市大篠原地先	11名
10月 16日	里山体験教室(秋) 本番「里山の秋を探そう」	野洲市大篠原地先	27名
10月 23日	びわ博フェス	琵琶湖博物館	15名
12月 4日	紙すき体験	琵琶湖博物館	8名
12月 25日	凧作り 凧上げ	琵琶湖博物館	6名
1月 14日	里山体験教室(冬) 下見	野洲市大篠原地先	9名
1月 22日	里山体験教室(冬) 本番「里山の冬遊び」	野洲市大篠原地先	23名
2月 5日	ろうそく作り	琵琶湖博物館	4名
3月 11日	総会・キノコ菌打ち	琵琶湖博物館	11名

○植物観察の会

代表者：辻いづみ 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：14名

[設立の趣旨]

2004年に開催した企画展示「～植物がうごくとき～のびる・ひらく・ひろがる」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。長年にわたり年に数回の外部観察会のみを行ってきたが、「はしかけ」本来の自主的活動とするため、2017年からメンバー登録し、月に1度「定例会」、年に数回「お出かけ観察会」を行う形とした。

[活動の概要]

2017年4月から登録制とし、月に1回定例会を行っている。

定例会では、博物館の周りの観察、持ち寄ったものの観察、外部へのお出かけ観察、芦谷先生に水草について教えて頂くなど、季節や天候によって変えながら行った。はしかけ登録者全体へ呼びかける「お出かけ観察会」は、新型コロナ発生時の2020年度からしばらく行わないこととし、現在も再開の見込みは立っていない。

外部へのお出かけ観察も登録メンバーのみで行い、新型コロナやインフルエンザ感染者数が県内で増える傾向にあるときには、活動を減らしたり、室内での活動を自粛して屋外での観察を行ったりした。

[活動内容]

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 3日(日)	お出かけ観察	栗東自然観察の森	5名
5月 1日(日)	お出かけ観察 雨天中止	琵琶湖地球市民の森(守山市)	0名
6月 5日(日)	樹冠トレイルガイドツアー (植樹祭関連行事)に参加	琵琶湖博物館周辺 屋外のみ	4名

活動日	内 容	場 所	参加者
7月 3日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 実習室	5名
8月	猛暑のため お休み		0名
9月 4日(日)	お出かけ観察	琵琶湖地球市民の森(守山市)	5名
10月 2日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 オープンラボ	4名
11月 6日(日)	お出かけ観察	琵琶湖地球市民の森(守山市)	3名
12月 4日(日)	持ち寄り観察	琵琶湖博物館 オープンラボ	5名
1月 8日(日)	博物館周辺の観察	琵琶湖博物館周辺、樹冠トレイル	2名
2月	例年 お休み		0名
3月 5日(日)	お出かけ観察	栗東自然観察の森	5名

[活動の振り返り、来年度へ向けて]

- ・今年度も初めてのものを見たり教えてもらったりすることができた。1人でも歩いて観察はできるが、メンバー同士で植物の話をしながら歩くのもが楽しいと感じる。この季節にはあそこの花がさいているとか、この木の名前の由来はとか、一人ひとりの知識共有出来るのも有り難い。
- ・一人で調べていても分からないことでも、博物館の種類の違う図鑑をみんなで見比べることで分かっていくことが多かった。他種類の図鑑を芦谷先生に準備して頂けること、実習室やラボの実態顕微鏡、顕微鏡を使えることは、この「はしかけ」活動の大きな利点である。
- ・芦谷先生に教えていただく「水草観察(お出かけ)Ⅳ」を計画したが、日程の調整ができず、やむなく中止とした。できる限りこれからも、毎年9月に合わせて「水草観察」を芦谷先生にご指導をお願いする形にしたい。
- ・他の「はしかけ」活動を兼ねているメンバーが多く、視点を変えた新しい観察ができ個々でも楽しめた。それぞれの活動日が重なることがあり、どちらを優先して選ぶかで参加人数が減ってしまう結果となっているが、またそこで得た新しい情報を聞かせてもらえるので楽しい。
- ・屋外を歩くことで「密」を避け、季節の植物の状態を見ることができるので、来年度も「お出かけ観察」を多く行う形としたい。各自の日常散歩コースなどをメンバーに紹介する戸外での「お出かけ観察」も、季節の見所の解説付きで分かりやすいので、このまま続けていきたい。

○たんさいぼうの会

会長：津田久美子 担当学芸員(影の会長)：大塚泰介

会員数：26名(年度内の入退会者を含む延べ人数)

[設立の趣旨]

珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要]

2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう(単細胞)の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。

前年度に引き続き、集まって活動を行うのが難しい状況が続いていたため、個人で進められる顕微鏡写真撮影や珪藻の同定などを進めるとともに、成果を論文として発表することに努めた。ただし、会長、影の会長とも今年度から急激に忙しくなったため、同定の確認や論文の仕上げが進まず、今年度は会員を著者とする論文はなかった。会員を主著者とする論文(短報)1本が、現在、査読修正中である。また、会員による研究発表が多数行われたが、全てたんさいぼうの会名義ではない。

会としては、かつての「たんさいぼうの旅」「たんさいぼうの小さな旅」で採集された、瀬田公園（滋賀県大津市）、愛知県の鈹質土壌湿原群、野田沼・曾根沼（滋賀県彦根市）、安曇川（滋賀県大津市・高島市）などの現生珪藻植生の研究を進めており、順次、論文として発表していく予定である。このほかに、会員の様々な個人研究も進められている。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4 月 10 日	珪藻基礎講座 はじめてのたんさいぼう	オンライン	講師：島津心暖・古川麻依 参加者：10 名
6 月 4 日	日本珪藻学会第 43 回大会に参加	オンライン	参加者：2 名
7 月 30 日	たんさいぼうの会第 71 回総会	オンライン	担当：津田久美子 参加者：5 名
10 月 23 日	「びわ博フェス」でポスター掲示、ワークショップ（琵琶湖の小さな生き物を観察する会と共催）	オンライン	担当：大塚泰介 参加者：6 名
11 月 26 日	日本珪藻学会第 42 回研究集会に参加	オンライン	参加者：2 名
1 月 8 日	たんさいぼうの会第 72 回総会	オンライン	担当：根来健 参加者：5 名

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：鈴木隆仁 会員数：約 15 名

〔設立の趣旨〕

滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、そこに生息する大型鰻脚類などの生物の分布や生態を調査する。

〔活動の概要〕

毎年 5 月、6 月に、滋賀県各地の水田においてハウネンエビ・カブトエビ類・カイエビ類の分布を調査して標本を同定するとともに、採集データを登録して分布図を作成する活動を行っている。本年度も、3 次メッシュコード単位で未調査になっていた甲良町、豊郷町、愛荘町と長浜市の姉川流域の 16 メッシュとその周辺で、大型鰻脚類の分布調査を実施した。

甲良町、豊郷町、愛荘町では、調査筆の約半数でハウネンエビ、カイエビ、タマカイエビのいずれかの生息を確認した。これまでの調査で愛知川左岸までトゲカイエビの生息を確認していたが、愛知川と犬上川に挟まれた今回の調査地域にトゲカイエビの進出は確認されなかった。一方、2022 年 1 月に豪雪に見舞われた長浜市の調査では、長浜 IC 南側の山階町や姉川・草野川合流点北西側の宮部町、東部山沿いの堀部町については大型鰻脚類の生息を確認できなかったが、他の調査筆では、ハウネンエビ、カイエビ、トゲカイエビの生息が確認された。「雪の下は泥は湿っているため、長期の積雪は大型鰻脚類シストの乾燥を妨げ、孵化を阻害する可能性がある」とされている(Grygier et al., 2002)^(注)が、今回の調査ではその影響は認められなかった。2009 年と 2011 年の調査でアメリカカブトエビの記録がある南小足町の水田も調査したが、アメリカカブトエビをみつけることはできなかった。

大津市南部では、2013 年ごろより 2 種のカブトエビの生息状況に関する追跡調査を継続している。本年度も、2 種のカブトエビが共存している大津市月輪三丁目、大江四丁目・五丁目、石山寺三丁目・四丁目、赤尾町の約 60 筆の水田において、分布調査を実施した。その結果、各地区ともアジアカブトエビが徐々に優勢になる傾向は継続していることが確認された。なお、大江四丁目・五丁目では、アメリカカブトエビがほとんど見られなくなっていたが、完全には消滅してはいないことも確かめられた。

2 種のカブトエビが共存する地域での勢力圏の変化の要因を探るために、2021 年度の活動で、卵を保持す

る2種のカブトエビを採集して採卵し、人工環境で孵化させることを試みたが、ごく少数の卵しか孵化せず周年飼育には至らなかった。そこで、2022年度の活動では、琵琶湖博物館屋上に40cm四方、深さ30cm程度の大きさのミニ水田を2個設置して実際にイネを植え、それぞれに近隣の水田で捕獲した2種のカブトエビを放流、飼育して産卵させることを試みた。ミジンコ類や小型のホウネンエビを餌として与え、できるだけ自然環境に近い形で飼育を行ったところ、カブトエビ類が生息する実際の水田と同様に水が濁り、長期間にわたって遊泳する様子が観察された。土を乾燥させるために、9月にはミニ水田に排水口をつけて落水するとともに、10月にはアクリル板の屋根を設置した。ただ、乾燥させすぎたためか、粘土質の荒木田土が岩のように固まってしまったため、11月より機会をみつけて表面から土を砕く作業を継続している。また、2023年3月にはアクリル板の屋根をはずし、土を雨で湿らせて、やわらかい状態に戻るかを観察を続けている。

ところで、大津市南部でアジアカブトエビの生息が確認されている水田は、いずれも草津市と京都府乙訓郡大山崎町を結ぶ幹線道路である京滋バイパスから1km以内の範囲に位置している。そこで、同バイパスの京都府内の区間周辺を含む京都府南部の水田において、2022年6月にカブトエビ類の生息状況を確認する予備的な調査を実施した。具体的には、木津川市の旧加茂町、木津町、山城町と、相楽郡精華町から京田辺市、城陽市にかけての近鉄京都線沿線、京都市伏見区の巨椋池干拓地、八幡市北部と大山崎町から長岡京市にかけての京都縦貫道沿い、向日市物集女町の計146筆を調査し、83%の水田でいずれかの大型鰓脚類の生息を確認した。調査筆の45%でアジアカブトエビが、42%でトゲカイエビが記録されたが、アメリカカブトエビの生息が確認されたのは調査筆の8%にとどまった。大津市南部における分布とは全く対照的に、名神高速道路や京滋バイパスなどの幹線道路周辺の水田のみでアメリカカブトエビが確認されたことは非常に興味深い。なお、本年度の京都府南部における調査は、土壌の性質や各種文献などから得た情報をもとに、大型鰓脚類、とくに、カブトエビ類が生息していると想定される水田のみを抽出して実施した予備的な調査である。京都府南部の全体的な分布状況を明らかにするためには、調査地域や調査筆をより適切な方法で選択して調査を実施する必要がある。

(注) M. J. Grygier, Y. Kusuoka, M. Ida, and Lake Biwa Museum Field Reporters: Distributional survey of large branchiopods of rice paddies in Shiga Prefecture, Japan: a Lake Biwa Museum project based on lay amateur participation, *Hydrobiologia* 486, pp. 133-146, 2002.

2022年度における「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月19日 5月10日	長浜市の長浜 IC 周辺から姉川古戦場周辺にかけての水田を下見し、調査筆の確定作業を行った。	長浜市	1名
4月23, 28, 30日	犬上郡甲良町・豊郷町、愛知郡愛荘町の愛知川～犬上川の間の水田を下見し、調査筆の確定作業を行った。	犬上郡甲良町・豊郷町、愛知郡愛荘町	1名
5月8日	分布調査で使用する標本採集瓶と、カブトエビ類の飼育実験に用いるミニ水田の準備を行った。	琵琶湖博物館	9名
5月14日	大津市高砂町、南志賀二丁目、見世一丁目・二丁目の水田で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	大津市	1名
5月17, 21, 26日, 6月2日	大津市千町四丁目、赤尾町、大江四丁目、月輪三丁目の水田で飼育実験に用いるカブトエビ類を採集し、博物館のミニ水田に移した。	大津市、琵琶湖博物館	1名
5月22日	犬上郡甲良町・豊郷町、愛知郡愛荘町の愛知川～犬上川の間の水田で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	犬上郡甲良町・豊郷町、愛知郡愛荘町	9名
5月24日	愛知郡愛荘町の水田で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	愛知郡愛荘町	1名

活動日	内 容	場 所	参加者
5 月 28 日	長浜市の長浜 IC 周辺から姉川古戦場周辺にかけての水田で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	長浜市	6 名
6 月 1 日	大津市石居二丁目の水田において、新入会員の研修を兼ねて、大型鰓脚類の分布調査を行った。	大津市	3 名
6 月 4 日	大津市石山寺三丁目・四丁目、赤尾町の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った。	大津市	12 名
6 月 5 日	大津市石山寺四丁目、大江四丁目・五丁目の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った。	大津市	2 名
6 月 8, 10, 12, 16, 18, 20, 21, 23, 25 日	京都府木津川市、相楽郡精華町、京田辺市、城陽市、八幡市、乙訓郡大山崎町、長岡京市、向日市、京都市伏見区の水田で、カブトエビ類の分布調査を行った。	木津川市、相楽郡精華町、京田辺市、城陽市、八幡市、乙訓郡大山崎町、長岡京市、向日市、京都市伏見区	1 名
6 月 12, 13, 17, 18, 19, 26 日	草津市南笠町、矢橋町、御倉町、野路町、西矢倉二丁目、木川町、南山田町、山田町、北山田町、東草津二丁目、青地町の水田で、大型鰓脚類の分布調査を行った。	草津市	1 名
7 月 24 日	採集した標本の同定作業（1 回目）を行った。	琵琶湖博物館	9 名
7 月 30 日	採集した標本の同定作業（2 回目）を行った。	琵琶湖博物館	6 名
8 月 5 日	採集した標本の同定作業（3 回目）を行った。	琵琶湖博物館	3 名
11 月 13 日	本年度調査の結果報告・検討会を行った。	琵琶湖博物館	8 名
12 月 18 日	第 13 回琵琶湖地域の水田生物研究会で、シンポジウムにおける話題提供と、ポスター発表を行った。	琵琶湖博物館	1 名
3 月 21 日	総会：本年度の調査結果を報告するとともに、来年度の調査実施予定を決定した。	琵琶湖博物館	6 名

[2022 年度業績]

2022 年 12 月 18 日 第 13 回琵琶湖地域の水田生物研究会 シンポジウム 話題提供

「琵琶湖博物館はしかけ制度参加者による滋賀県の水田における大型鰓脚類の分布調査」

2022 年 12 月 18 日 第 13 回琵琶湖地域の水田生物研究会 ポスター発表

「滋賀県南部と京都府南部における 2 種のカブトエビの分布の違い」

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：3 名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本 2015」の実施に合わせて、2013 年度に設立された。当初は、2 年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016 年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 2022 年度は広域調査の実施年度ではなく、メンバー有志がそれぞれの調査（守山市のシロバナタンポポの変化など）を行い、グループでの行事は実施しなかった。

○ちっちゃなこどもの自然あそび「ちこあそ」

担当学芸員：中村久美子 会員数：4 名

[設立の趣旨]

幼児期の子どもと保護者が琵琶湖博物館生活実験工房周辺の田んぼ、畑、森などをはじめとする自然環境

内で、五感を使って自然に触れ、その楽しさ、面白さを感じ、原体験となるような感動を伝えることを目指しています。

[活動の概要]

2012年度環境学習センターの「環境ほっとカフェ」イベントとして始まり、2015年度には「親子自然遊びの広場」、そして2016年9月からはしかけ活動として立ち上がりました。毎月おおよそ第3水曜日に、約10組の親子が集い、ルーペを使って様々な自然を見たり、ドングリを拾ったり、畑の作物を調理して食べたり、五感を使って親子が自然に触れて、楽しめるように実施しています。おおよそ2歳～4歳の幼児と保護者が楽しんでいます。時にはお腹が大きくなったお母さんが来られ、しばらくして産まれてすぐの赤ちゃんを連れてきてくださることもあったりと、0歳児から小学生高学年までと年齢幅広く、自然の中で遊んでいます。

今年度最初の4月は一般の参加はなしにして、畑の植え付け等でスタッフが集まりましたが、その他は予定どおり、実施することができました。来年度はさらに開放的に子どもと保護者が遊べるかなと思っています。

2021年度から始まったHP経由の申込みも定着しました。昨年度は午前・午後の2部制でしたが、今年度は10時から14時までに設定して、親子の都合に合わせて、長く遊んだり、時間内で自由に来場できるようにしました。はしかけスタッフもゆっくりと昼食が食べられるようになりました（笑）

今年度は、ルーペをいつでも使えるようにしました。好きな色を選んで、虫や花を観察しています。ルーペのおちょこのような形が子どもの遊びにはぴったりのようで、水や砂、葉っぱを入れる入れ物になっておままごとのアイテムになったり、ルーペを積み重ねておもちゃになったりと多様な使い方で楽しんでいます。

工房の畑も活用させていただいて、ジャガイモやサツマイモなどのお芋さん、落花生、エンドウ豆、ソラマメなども作って収穫したり、タケノコやフキなど野生の食も楽しんでもらっています。昨年度はサツマイモがとても小さく残念でしたが、今年は大きめのサツマイモが収穫でき、来年度はさらに大きなのが取れるといいなぁと期待しています。

現在、中村学芸員を中心にちこあその絵本を作成中です。ちこあその活動から生まれる発見、探検を楽しむストーリーで、子どもが家に帰ってから親子でちこあそをふりかえって楽しんだり、幼児が博物館の森を事前に想像を膨らませたりできるように計画しています。来年度はそれを使って楽しみたいと思います。

写真で振り返る「ちこあそ」の1年



5/18 落ち葉遊び



7/20 ナナフシがいっぱいいました



9/21 ヌマガエル捕れたよ



10/23 びわ博フェス葉っぱノート



10/19 サツマイモ収穫！



11/16 ルーペで観察



12/21 野点でお茶をいただきました



3/18 青い花をたくさん見つけたよ

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：25名

[設立の趣旨]

私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要]

琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。月に1回集まって、琵琶湖などの小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察を行う。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」の主な活動

活動日	内容	場所	参加者
6月 19日	採集・観察会	琵琶湖博物館	10名
7月 9日	採集・観察会	琵琶湖博物館	9名
10月 23日	びわ博フェスでのワークショップ	琵琶湖博物館	5名
11月 13日	採集・観察会	琵琶湖博物館	11名
3月 5日	採集・観察会	琵琶湖博物館	6名

〇びわたん

担当学芸員：安達克紀 会員数：13名

〔設立の趣旨〕

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

〔活動の概要〕

「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は、第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業の運営や参加者との交流などに関わっている。

今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、参加人数や回数を制限することになったが、全6回の計画をすべて実施することができた。

2022年度 「びわたん」のおもな活動「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
6月 11日	プランクトンを見よう！	20名	5名
9月 10日	火を起こしてみよう！	17名	6名
10月 23日	くるくる カラフル たねとばし (びわ博フェス)	17名	3名
12月 10日	秋の色探しをしよう！	17名	5名
1月 14日	綿にふれてみよう！	18名	7名
2月 11日	水鳥を観察しよう！	11名	4名
3月 11日	昔の地図からびわ湖を知ろう！	11名	3名

〇ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：中村久美子

会員数：大人22名 子ども2名 計25名

〔設立の趣旨〕

現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

〔活動の概要〕

2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれる哺乳類をはじめ鳥類や魚類など、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1～2回の例会が活動の中心である。

2022年度始めは、前年度から引き続き、感染症対策のため、月に3日間程度の例会として1日の活動時間を3時間程度としておりましたが、6月の例会から一日通しての活動が可能となり、月2回の形となりました。

今年度は琵琶博フェスも復活し注意を払いながらではありますが、以前の様な形での活動へと戻って行けたのではないかと思います。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会 9日	大人のディスカバリールーム内のオープンラボにて、イタチの骨のクリーニング	琵琶湖博物館

活動日		内容	場所
4 月例会	24 日	カルガモの徐肉、イタチの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	30 日	カワラバトの徐肉、ハクビシンの解剖、	
5 月例会	15 日	大人のディスカバリールーム内のオープンラボにて、シカの頭骨のクリーニングとバイカルアザラシの手足の骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	21 日	カワラバト（ドバト）の徐肉、タヌキの骨のクリーニング	
	28 日	ハクビシンの解剖、タヌキの骨のクリーニング	
6 月例会	12 日	タヌキの解剖、カワラバトの徐肉、キツネの骨の組み立て	琵琶湖博物館
	25 日	タヌキの解剖、ハクビシンの解剖、オオバンの骨のクリーニング	
7 月例会	9 日	ハクビシンの解剖、イタチの解剖、ヤモリの解剖	琵琶湖博物館
	31 日	ハクビシンの徐肉、テンの解剖、イタチの解剖、ヤモリの交連骨格標本の制作	
8 月例会	13 日	ハクビシンの徐肉、イタチの解剖、オオバンの骨のクリーニング、シカの頭骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	28 日	イタチ 2 体分の解剖	
9 月例会	10 日	タヌキの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	25 日	イタチの徐肉、カルガモの徐肉、カワラバトの骨のクリーニング、キツネの骨の組み立て	
10 月例会	8 日	ハクビシンの徐肉、イタチ 2 体分の徐肉	琵琶湖博物館
	23 日	琵琶湖博フェスにおいて来館者の方との交流活動	琵琶湖博物館
11 月例会	12 日	鹿の足の骨のクリーニング、タヌキの骨のクリーニング	琵琶湖博物館
	27 日	ハトの骨のクリーニング、イタチの解剖	
12 月例会	10 日	イタチの解剖、チョウザメの解剖	琵琶湖博物館
	18 日	テンの解剖、イタチの解剖、チョウザメの解剖	
1 月例会	15 日	ハクビシンの解剖、テンの解剖、チョウザメの解剖	琵琶湖博物館
	28 日	ニホンザルの解剖、チョウザメの解剖	
2 月例会	4 日	ニホンザルの解剖、キツネの徐肉	琵琶湖博物館
	19 日	ニホンザルの解剖、テンの解剖、ナマズの解剖、キツネの徐肉、シロハラの仮剥製の制作、	
3 月例会	4 日	ニホンザルの解剖、シロハラの仮剥製の制作	琵琶湖博物館
	19 日	ニホンザルの解剖、鳥の骨のクリーニング	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ 担当学芸員：大槻達郎 会員数：23名

[設立の趣旨]

薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト 8 名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

[活動の概要]

昨年度はコロナの影響で活動が中止になるといったことがありましたが、今年度は活動に制限があったものの、計画をしていたことをすべて実施することができました。6 月には全国植樹祭にて植物の蒸留会后、

アロマスプレー作りのワークショップを実施し、沢山の来館者の方と交流することができました。また久しぶりに開催されたびわ博フェスでは、定番の活動として実施してきた草木染めの研究から発展させて、植物や野菜からできた絵の具を使ってポストカードを作るワークショップを実施しました。また新聞紙バッグ作りや小豆ピロー作り、廃油石鹸作り、木のスプーン作りなど、エコで暮らしに役立つことや、新しい試みで、大人のディスカバリールームのラボにて発酵食品に欠かせない微生物を顕微鏡で見る発酵食品の勉強会も行い、とても充実した活動が出来ました。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
5 月 9 日	植物観察会	栗東市荒張	担当者：山本道・熊谷・久国 参加者：6 名
5 月 18 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（春）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：7 名
6 月 5 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（全国植樹祭inしが 2022）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：11 名
7 月 6 日 （午前）	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（夏）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：14 名
7 月 6 日 （午後）	新聞紙バッグ作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：柳原・深田 参加者：14 名
7 月 23 日	発酵食品の勉強会	琵琶湖博物館 オープンラボ	担当者：十塚・吉野ま 参加者：12 名
9 月 7 日	草木染め体験（藍・茜）	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：深田・柳原・加藤 参加者：12 名
9 月 14 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（秋）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：3 名
10 月 22・23 日	植物や野菜からできた絵の具でポストカードを作ろう（びわ博フェス）	琵琶湖博物館 実習室 2	参加者：13 名
11 月 26 日	ハーブ入り小豆ピロー作り	琵琶湖博物館 実習室 1	担当者：吉野ま・江間・大羽幸 参加者：12 名
11 月 30 日	季節の植物でアロマウォーターを作ろう（冬）	琵琶湖博物館 生活実験工房	参加者：9 名
2 月 18 日	廃油石鹸作り	琵琶湖博物館 実習室 2	担当者：堀田・山本 参加者：5 名
3 月 5 日	木のスプーン作り	琵琶湖博物館 生活実験工房	担当者：久国 参加者：9 名
3 月 18・19 日	年度末総会	琵琶湖博物館 研究交流室	担当：吉野ま 参加者：13 名

○虫架け

担当学芸員：八尋 克郎 代表者：梶田 聡子 会員数：15 人

〔設立の趣旨〕

昆虫が好きな人が集まって、滋賀県内の昆虫の分布調査を行うことを大きな目標にしている。また、採集

方法等講座の開催、昆虫の分類等の講座の開催、昆虫標本の作り方教室の開催、昆虫についての基本知識の周知、博物館によるイベントの後援を行っていかうと考えている。2017 年設立。

[活動の概要]

今年度は 10 回の定例会を開催し、博物館行事のサポートや標本作成の講習などを行う事ができた。

12 月には約 2 年ぶりとなるグループでの野外調査を行い、チョウ類の卵やガロアムシ等の昆虫を確認できた。

3 回の博物館行事のサポートではのべ 57 名の方に参加して頂き、昆虫の見つけ方、取り方や標本作成法を一般の方に知っていただくことが出来た。

企画展示「チョウ展」においては、グループの活動内容や実績を紹介するパネルと共に、メンバーが作成した標本約 50 点とチョウの羽化を撮影した動画を展示した。その内容は NHK「ラジオ深夜便」でも紹介された。企画展示には歴代最高となる 85,291 人が来場した。また、企画展示関連イベント「昆虫の標本作り」のサポートも行なった。

月毎に発行している「虫架け通信」では、各メンバーの調査報告を掲載すると同時に、「チョウとガの違い」など昆虫に関する知識を共有した。

「虫架け」のおもな活動

・定例会

活動日	内 容	場 所	参加者
6 月 11 日	昆虫標本作成について学習と体験	琵琶湖博物館	11 名
7 月 16 日	企画展示「チョウ展」オープニングセレモニー	琵琶湖博物館	3 名
7 月 24 日	生活実験工房行事「昆虫採集」サポート	琵琶湖博物館	6 名（一般 23 名）
8 月 7 日	チョウ展関連イベント「昆虫の標本作り」サポート	琵琶湖博物館	12 名（一般 17 名）
9 月 24 日	びわ博フェスで行うワークショップの準備	琵琶湖博物館	5 名
10 月 15 日	びわ博フェスで展示するポスターの準備	琵琶湖博物館	3 名
10 月 23 日	びわ博フェス（ワークショップ・ポスター展示）	琵琶湖博物館	6 名（一般 9 名）
11 月 20 日	生活実験工房行事「土の中の生き物を探そう」のサポート	琵琶湖博物館	5 名（一般 17 名）
12 月 4 日	冬の虫調査	東近江市	11 名
2 月 25 日	今後について話し合い	琵琶湖博物館	6 名

・「虫架け通信」の発行

発行日	号	おもな内容
4 月 23 日	43 号	チョウとガの違い①、イカリモンガの生態、南越前町調査報告
5 月 15 日	44 号	チョウとガの違い②、ホシミスジの生態、敦賀市調査報告、大津市調査報告
6 月 26 日	45 号	6 月例会報告、チョウとガの違い③、博物館に生息するアメンボ類、大津市でのイシガケチョウの記録
7 月 20 日	46 号	企画展示「チョウ展」開始について、チョウとガの違い④、ミドリシジミの雌多型、敦賀市調査報告
8 月 27 日	47 号	7 月例会報告、チョウとガの違い⑤、ナガサキアゲハの解説、ムナグロチャイロテントウの記録

発行日	号	おもな内容
10月2日	48号	8月・9月例会報告、ウラナミシジミの生態、ヒロヘリアオイラガ解説、シタベニハゴロモの記録、ヒメクロイラガの記録、栗東市でのイシガケチョウの記録
10月30日	49号	10月例会・びわ博フェス活動報告、動物地理区解説（新北区）、ヤマトシジミ・ツバメシジミ解説、敦賀市調査報告、イシガケチョウ飼育報告
11月27日	50号	11月例会報告、動物地理区解説（新熱帯区）、キタテハ・シータテハ解説、湖北調査報告、大津市調査報告
12月25日	51号	12月例会報告、動物地理区解説（旧熱帯区）、企画展示”B. S. P. 総選挙”の結果
1月21日	52号	動物地理区報告（旧北区）、県のチョウについて、湖西オサムシ調査報告
2月28日	53号	フユシャク解説、大津市調査報告、ホリカワクシヒゲガガンボ解説

○森人（もりひと）

代表者：福岡敏雄 担当学芸員：林竜馬 会員数：14名

〔設立の趣旨〕

2015年度に「はしかフェ」の中で屋外展示の環境整備の一環として樹木説明版の設置、屋外展示のガイドツアー、勉強会や観察会などを実施した。引き続き屋外展示の活用を進めていくために森人（もりひと）として「はしかけ」に登録し2016年度から活動を開始した。

〔活動の概要〕

2022年度の活動は前年度の6回に対し下記の通り16回（3月25日現在）を実施することができた。新型コロナウイルスへの対策をしながらの活動で観察会や屋外展示の森の除草など屋外での活動をメインに行った。来館者との交流活動ではびわはくフェスで子供向けのクイズラリーを初めて実施し良い感触を得た。

2022年度「森人」の活動実績（2023年3月25日現在）

月	日	内 容	場 所	参加者
4	9（土）	樹冠トレイルの樹名板整備と植栽木の生育状況調査	樹冠トレイル（琵琶湖博物館）	5
	23（土）	植物観察会	近江富士花緑公園（野洲市）	6
5	14（土）	篠原前館長によるガイドツアー（植物の民俗学的考察）	琵琶湖博物館周辺	10
	28（土）	6月5日のガイドツアーの準備	琵琶湖博物館	5
6	5（日）	ガイドツアー（注1）	琵琶湖博物館 屋外展示	8
	25（土）	植物観察会	鳴谷溪谷（蒲生郡竜王町）	3
7	9（土）	琵琶博の植物ガイド作成検討	琵琶湖博物館	5
9	10（土）	びわ博フェス2022関係、ガイドブック、見どころ情報やデータベースについて検討	琵琶湖博物館	6
	24（土）	植物観察会	鳴谷溪谷（蒲生郡竜王町）	3
10	8（土）	びわ博フェス2022関係、ガイドブック、見どころ情報やデータベースについて検討	琵琶湖博物館	7
	23（日）	びわ博フェス2022参加（注2）	樹冠トレイル等（琵琶湖博物館）	7
11	12（土）	植物観察会	近江富士花緑公園（野洲市）	3

月	日	内 容	場 所	参加者
11	26 (土)	つる植物などの除草作業	太古の森 (琵琶湖博物館)	4
2	25 (土)	つる植物などの除草作業	樹冠トレイル (琵琶湖博物館)	5
3	11 (土)	植物観察会	琵琶湖博物館周辺	4
	25 (土)	植物観察会	栗東自然観察の森 (栗東市)	4

(注1) 第72回全国植樹祭のサテライト会場の催し物の一つとして実施した。

(注2) ポスター掲示と樹冠トレイルで「子供向けのクイズラリー」を実施した。

○琵琶湖梁山泊

代表者：坂本大介 担当学芸員：由良嘉基・安達克紀 会員数：5名

[設立の趣旨]

地域の自然や文化を研究する中高生の若者を中心として、2018年に設立されたグループです。研究が進みすぎてご家族や学校のサポートが及ばなくなった若者が、博物館の学芸員や大人メンバーのサポートを受けてさらに研究を進めるとともに、興味・関心が近い仲間や、認め合い競い合う仲間を見つけて互いに切磋琢磨する場になることを目指しています。

[活動の概要]

若者の研究活動を進めるため、博物館の学芸員や大人メンバーが相談対応や助言などの支援を行い、研究のレベルアップをめざします。2020年3月以降はCOVID-19感染拡大のため、以前のような活動は十分にできない状況が続きました。2021年5月には新しい試みとしてZoomによる「オンライン総決起集会」を開催し、中高生会員および卒業生による4題の研究の成果が発表されました。2022年度は、2019年度までに活動をしていた主要な会員がほとんど高校を卒業したり受験生になったりしたために活動が停滞しましたが、それでも米原高校地学部の生徒たちが古琵琶湖層群蒲生層の珪藻化石について研究を進め、県展で最優秀賞を獲得したという報告をいただきました。

「琵琶湖梁山泊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
10月16日	珪藻の同定相談	琵琶湖博物館研究交流室	担当：大塚 参加者：2名
10月23日	「びわ博フェス」でポスター掲示	琵琶湖博物館アトリウム	担当：大塚 参加者1名

○サロン de 湖流

会長：岩木真穂 担当学芸員：中川信次 会員数：7名

[設立の趣旨]

琵琶湖や周辺地域の自然環境の中で起こっているさまざまな物理現象（湖流・河川流・地下水流などや気象現象など）について気軽に語り合いながら、フィールドでの観測・背景原理を確かめる実験・数学や統計などの勉強会・生物現象や化学現象あるいは人文社会事象との関連の考察・物理現象を理解するための自分なりの方法の探究などへ発展を目指す。

[活動の概要]

コロナ禍のうえ、一部メンバーの体調不良もあり、実際に湖上で観測を行う活動を系統的に再開するには至っていない。前年度末に開催された、このグループの活動内容に関連するギャラリー展示を踏まえて、新たな活動の方向を探ろうとしているが、議論は進んでいない。

「サロン de 湖流」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
3～5 月ごろ	今後の活動方針についての協議	メーリングリストでの議論	不定
8 月 2 日ごろ	今後の活動方針についての協議	メーリングリストでの議論	不定
8 月 17 日ごろ	びわ博フェスに掲出するポスターの内容についての協議	メーリングリストでの議論	不定
10 月 2～14 日	びわ博フェスに掲出するポスターの内容についての協議	メーリングリストでの議論	不定
10 月 22、23 日	びわ博フェス参加	琵琶湖博物館アトリウム	2 名
11 月 30 日ごろ	今後の活動方針についての協議	メーリングリストでの議論	不定

〇水と暮らし研究会

代表者：中場弘二 担当学芸員：楊 平 会員数：6 名

〔設立の主旨〕

琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間、様々なエリアにおいて、人々は湧水、山水、川水などのさまざまな地表水、地下水と密接な関係にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながり「文化」をみることができる。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くために、各集落で各家庭の生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水含め山水、川水など、水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し先人たちの水に対する「想い」を発信し記録とし、また、他地域との交流の一助とならんことを願い、研究会を立ち上げた。

〔活動の概要〕

【活動方針】

テーマ 1：古人の想い。暮らしと川とのかかわりを探る。

：暮らしと川とのかかわりあいの歴史から未来を探る。

テーマ 2：琵琶湖博物館行事に参加、協力。

【活動の概要】

水とかかわりあって生きていく暮らしに焦点を当て、その暮らしの実態を現地調査し、地域でのヒアリングを通じ、先人たちから受け継いだ現代人の生活の実態を記録し発信していく。また活動テーマに関連する講座、シンポジウム等あれば、積極的に参加する。活動計画は、事前に調査先のリストを作成し、情報収集の効率アップに努め、調査終了後には各人の担当に基づく記録作成を速やかに実施する。また、博物館行事への積極的参加は、はしかけ活動の一環として重要事項との認識に基づくものであると考える。

「水と暮らし研究会」のおもな活動

テーマ 1

活動日	調査地域	参加者
1 月 27 日	滋賀県立美術館、丹生地区離村関連写真展見学	6 名

活動日	調査地域	参加者
3月 3日	東近江市新宮町・福堂町の水路調査、野洲市歴史博物館訪問	6名
4月 7日	守山市赤野井町、赤野井旧港・美濃部佐兵衛米問屋敷・他調査	7名
5月 12日	野洲市・近江八幡市小田町、祇王井川水路・小田町井戸跡調査	5名
6月 2日	湖南市・甲賀市、野洲川頭首工・杣川上流調査	5名
7月 7日	東近江市能登川伊庭町・乙女浜町・他、能登川地区湖辺集落調査	7名
8月 17日	東近江市栗見新田・栗見出在家・他、大同川流域調査	7名
9月 1日	東近江市大中町、「大中の湖干拓事業」について受講及び調査	7名
10月 13日	近江八幡市奥島山地区、奥島山地区・他調査	7名
11月 7日	東近江市山路町、山路町災害用井戸湧水調査	6名
12月 5日	東近江市建部瓦屋寺町、吉住池水源のひとつである瓦屋禅寺調査	7名
1月 13日	東近江市五個荘町石馬寺・垣見町、石馬寺・鉢光寺川湧水調査	7名
2月 9日	日野町桜谷・村井、日野町地域湧水調査	5名
3月 16日	近江八幡市江頭町・小田町、小田町氷解(ひどき)神社・他調査	6名

テーマ2

活動日	調査地域	参加者
7月 31日	琵琶湖博物館 わくわく知恵さがし・楽しく学びあい・7月	5名
10月 23日	琵琶湖博物館 びわ博フェス2022 ポスター発表	4名
11月 29日	琵琶湖博物館 JICA 研修会「博物館とコミュニティ開発」	3名

○海浜植物守りたい

会長：百木義忠 担当学芸員：大槻達郎 会員数：5名

〔設立の趣旨〕

本来海岸に生育する海浜植物が何故か、淡水の琵琶湖に生育している。

これらの植物は独自の進化をしており貴重であり、保護活動をすることにした。

〔活動の概要〕

主に新海浜(彦根市)における海浜植物の保護活動を行う。

今年度の活動は、ハマエンドウ保護区内の雑草の除去と雑草の種類と特徴を学ぶ。

「海浜植物守りたい」のおもな活動

活動日	活動時	内 容	参加者
4月 5日	9:30 ～11:30	①コマツヨイグサ、チガヤ、ヨモギ、オランダミミナグサ スズメノカタビラ等の除草	6名
4月 15日	9:30 ～11:00	①コマツヨイグサ、チガヤ、ヨモギ、オランダミミナグサ スズメノカタビラ等の除草 ②オオキンケイギク2株駆除	6名
5月 3日	9:30 ～11:30	①コマツヨイグサ、チガヤ、ヨモギ、オランダミミナグサ スズメノカタビラ、ツユクサの除草 ②アメリカネナシカズラの駆除	6名
5月 20日	9:30 ～11:30	①コマツヨイグサ、チガヤ、ヨモギ、スズメノカタビラ、ツ ユクサの除草 ②クロマツの下枝払い、古木の整理 ③アメリカネナシカズラの駆除	5名

6月7日	9:30 ～11:30	①ムシトリナデシコ、コマツヨイグサ、メヒシバ、チガヤ等除草 ②アメリカネナシカズラ駆除 ③保護区東側ロープ拡張	7名
6月17日	9:30 ～11:45	①カヤツリグサ、ムシトリナデシコ、コマツヨイグサ、 メヒシバ等の除草 ②アメリカネナシカズラの駆除 ③倒れたクロマツ伐採、ツルニチニチソウ刈払い、竹整理	7名
7月2日 (今宿浜)	12:30 ～13:00	①和邇今宿浜のハマエンドウ保護区の状況確認 ②地権者と除草作業の日程調整 ③滋賀県自然環境保全課へ作業日程通知	1名
7月5日 (今宿浜)	9:00 ～12:00	①ハマエンドウ観察(生育状況、広さ、種子) ②コマツヨイグサ、カヤツリグサ、メリケンムグラ、センダンの幼 木の除草	6名
8月2日	9:30 ～11:30	①コマツヨイグサ、メヒシバ、エノコログサ、カヤツリグサ、 センダン幼木等の除草 ②アメリカネナシカズラの駆除。	6名
8月10日	9:30 ～11:30	①保護区面積測量 ②土壌水分調査 ③アメリカネナシカズラの駆除。	6名
8月19日	9:30 ～11:30	①メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、オオフタバムグラ、センダン の幼木、等の除草 ②ツルニチニチソウ刈払い ③アメリカネナシカズラの駆除	7名
9月6日	9:20 ～11:10	①チガヤ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、 オオフタバムグラ等の除草 ②アメリカネナシカズラの駆除 ③保護区域周辺のゴミ拾い	4名
9月16日	9:30 ～11:00	①アメリカネナシカズラの駆除 ②オオフタバムグラ、チガヤ等の除草 ③枯れた松の木の伐採 4本 ④土壌の含水率調査	7名
10月4日	9:20 ～11:00	①ハマエンドウの自生状況(株数の違い)を場所を区分けする。 ②1㎡あたりのハマエンドウの自生株数のカウント作業。 ③保護区域外でのチガヤ等の除草	7名
10月21日	9:30 ～11:30	①保護区域外の枯れたクロマツの伐採 2本 ②メヒシバ等草むらの除草 ③日当たり場所に松葉を敷き詰め	6名
11月10日	9:30 ～11:30	保護区内外のアメリカセンダングサ、メドハギ、カワラヨモギ コマツヨイグサ、メマツヨイグサの除草	4名
12月6日	9:30 ～ 11:30	①ツルニチニチソウの除草とその部分の保護ロープ拡張 ②保護区ロープ柵の補強と柵外に通路設定	6名
2月7日	9:30 ～ 11:30	ツルニチニチソウの除草	5名
2月17日	9:30 ～ 11:30	ツルニチニチソウの除草、放置看板の撤去	4名
3月7日	9:30 ～11:30	①夏原グラント一般助成プレゼンテーション打ち合わせ ②ハコベ、スズメノカタビラ、チチコグサ、カタバミ、スゲの除草	6名
3月17日	9:30 ～11:30	①夏原グラント一般助成プレゼンテーション練習 ②ハコベ、スズメノカタビラ、チチコグサ、カタバミ、スゲ ツルニチニチソウ等の除草 ③ハマエンドウ新芽保護用枯れ松葉撒き 及び踏みそうな箇所を目印の割りばし立て	5名

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター

（登録者数 198 名（うちスタッフ 5 名））

土金 慧子	楠岡 泰	松田 道一	辻 いずみ	梶島 昭紘	小野 麻代	松本 勉
矢野 典子	前田 雅子	桑垣 瑞	熊谷 明生	熊谷 明美	宇野 啓明	保科 秀行
保科 雅子	保科 政秀	保科 明俊	山田 美智子	奥村 恵子	中野 敬二	矢野 修
矢野 としこ	土生 陽子	山本 篤	小篠 伸二	上田 修三	中場 弘二	齊藤 眞琴
齊藤 眞由美	鈴木 正範	松村 順子	吉居 晴美	一瀬 諭	猪飼 徹	平井 政一
山本 皓一郎	和田 至博	角井 俊明	加藤 美由紀	福岡 敏雄	市原 龍	山川 栄樹
山川 佳那子	山川 侑夏	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	吉本 由花	吉本 瀧侍
吉本 凜花	楠居 里奈	寺田 誠	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫	宮本 直興
川北 浩史	濱道 秀	藪内 まゆ子	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	國分 政子
寺澤 孝之	青木 環	青木 春乃	佐々木 榮一	西之園 保夫	堀田 修身	堀田 博美
畑中 清司	片山 慈敏	井野 勝行	中井 民子	谷村 啓子	大橋 義孝	三田村緒佐武
三谷 軌文	福嶋 佳子	福嶋 啓志	青山 喜博	片岡 庄一	手良村 知央	手良村 昭子
手良村 知功	飯田 俊宏	岡田 宗一郎	岡田 創暉	津田 國史	村上 義信	村上 瞳
筈井 美智子	渡邊 共則	渡邊 純大	八尋 由佳	岡田 徹	北側 忠次	水戸 基博
水戸 涼乃	水戸 涼介	久国 正吉	矢原 功	阿部 一広	津田 久美子	北川 眞造
松本 隆	坂本 大介	山崎 千晶	小林 隆夫	西川 俊三	吉野 和夫	小山 勝
岸田 教敬	大河原 秀康	中尾 博行	江間 瑞恵	杉江 ミサ子	井上 修一	百木 義忠
山口 瑞彦	今井 洋	向田 直人	川村 絵美	川村 実愛	川村 郁人	川村 梓月
佐藤 良太郎	尾原 直行	間所 忠昌	土田 正文	谷口 雅之	西岡 陸	三村 武士
十塚 正治	吉川 秀司	堀江 夏妃	飯田 隆行	飯田 貞美	青木 重樹	本村 香澄
本村 彦太郎	菅原 和宏	菅原 拓斗	梶元 智子	稲葉 光太郎	稲葉 瑞穂	樋口 稔洋
樋口 幸陽	河原 豪	河原 絵里	後藤 真帆	成子 邦夫	三浦 真紀	武富 鷹矢
坂本 颯太	中川 信次	酒向 貴子	山内 孝子	西木 正枝	平松 秀信	榎本 博紀
榎本 絢子	榎本 航生	榎本 樹希	榎本 菜晴	都筑 信彦	安達 誠	望月 隆裕
望月 絵美	望月 大和	望月 もも	西上 直純	西上 潤	西上 慶	緒方 育美
森田 存	的場 悠希	木林 理	須原 育美			

◇はしかけ

（登録者数 404 名）

楠岡 泰	藤田 成子	山本 阿子	吉成 暁	榎本 真司	湯口 真実	山本 真里子
芦田 弘美	松田 道一	辻 いずみ	谷本 正浩	谷本 由美	北田 稔	小野 麻代
中川 優	川田 裕元	笹生 正則	松本 勉	若代 隆行	若代 智子	石上 三雄
根来 健	松里 香織	松里 凜	矢野 典子	前田 雅子	井上 晴絵	桑垣 瑞
熊谷 明生	熊谷 明美	宇野 啓明	酒井 陽一郎	片山 康夫	山田 美智子	奥村 恵子
川口 涼	松川 郁子	中野 敬二	辻川 智代	中村 一馬	矢野 修	矢野 としこ
土生 陽子	小篠 伸二	上田 修三	齊藤 文子	中場 弘二	村山 和夫	樽本 祥子
樽本 直	山野井 邦彦	齊藤 眞琴	齊藤 眞由美	鈴木 正範	吉居 晴美	一瀬 諭
石田 勉	猪飼 徹	安原 輝	井上 聖花	山本 皓一郎	和田 至博	岡 隼斗
加藤 美由紀	大沢 果那	柳原 潤	清田 輝夫	福岡 敏雄	西村 有巧	木村 誠二
木村 爽	佐瀬 章男	市原 龍	石井 千津	山川 栄樹	山川 佳那子	山川 侑夏
西川 美喜	中井 大介	北村 美香	遠藤 吉三	小川 千奈美	小川 哲仙	平野 文子
吉本 由花	吉本 瀧侍	吉本 凜花	楠居 里奈	前田 博美	後藤 真吾	杉田 薫

吉井 隆	吉岡 伸子	富田 久仁枝	宮本 直興	伊東 文彦	伊東 彬良	安井 加奈恵
今井 沙知子	今井 虎ノ介	今井 花	池田 勝	川北 浩史	濱道 秀	村田 博之
藪内 まゆ子	竹元 冴矢	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐々木亜弥子	國分 政子	寺澤 孝之
神谷 悦子	竹谷 満弘	梅澤 正夫	古川 まや子	青木 環	青木 春乃	佐々木 榮一
西之園 保夫	堀田 修身	堀田 博美	黒柳 信之	堀田 恵子	片山 慈敏	福永 和馬
水谷 智	山田 正樹	山田 恵美	山田 和毅	三田村緒佐武	杉山 國雄	三谷 軌文
川南 仁	福嶋 佳子	福嶋 啓志	青山 喜博	田中 治男	田中 雅也	片岡 庄一
手良村 知央	手良村 昭子	手良村 知功	大堀 忠厚	肥田 嘉文	北野 大輔	島津 心暖
大橋 洋	寺尾 尚純	吉野 千栄子	飯田 俊宏	津田 美佐子	岡田 宗一郎	岡田 創暉
津田 國史	村上 義信	村上 瞳	北村 明子	金山 正之	金山 美佐子	北野 英子
鈴木 直子	八尋 由佳	岡田 徹	柳原 徳子	山本 由里子	飯住 達也	水戸 基博
水戸 涼乃	水戸 涼介	山本 道子	大岡 紀彦	深田 元子	久国 正吉	立石 文代
森田 光治	矢原 功	阿部 一広	尾崎 友輔	津田 久美子	北川 眞造	大喜 のぞみ
田中 喜久	松本 隆	坂本 大介	小林 隆夫	神戸 道典	吉田 恵太郎	西川 俊三
徳永 義利	徳永 成美	小西 慎一	小山 勝	岸田 教敬	大河原 秀康	中尾 博行
江間 瑞恵	畠山 寿枝	吉野 まゆみ	宮崎 猛	宮崎 真	宮崎 晴香	宮崎 哲
井上 修一	百木 義忠	山口 瑞彦	中島 財	今井 洋	遠藤 浩子	山本 藤樹
宇野 翔	向田 直人	綺田 万紀子	川村 絵美	川村 実愛	川村 郁人	川村 梓月
荒川 忠彦	尾原 直行	長 昭男	福野 憲二	三輪 祐子	間所 忠昌	南 和美
谷口 雅之	高田 昌彦	西岡 陸	中西 寛子	中西 春陽	中西 優一	佐々木 信幸
佐々木 則子	佐々木 満保	佐々木 幹朗	佐々木 結衣	武田 広志	澤田 知之	西村 義隆
三村 武士	十塚 正治	渡辺 圭一郎	吉川 秀司	堀江 夏妃	山中 裕子	木下 多津江
飯田 隆行	飯田 貞美	吉田 達矢	吉田 範香	富 小由紀	中村 聡一	岩西 紗江子
納屋内 高史	大橋 正敏	菅原 和宏	菅原 拓斗	稲葉 光太郎	稲葉 瑞穂	坪井 一代
坪井 修生	岡谷 崇宏	樋口 稔洋	樋口 幸陽	河原 豪	河原 絵里	内貴 弓子
内貴 乃生	内貴 史乃	内貴 律	後藤 真帆	小松原 正志	成子 邦夫	西坂 一成
北村 純平	松田 征也	杉本 晴香	鈴木 崇大	三浦 真紀	安藤 明日佳	安藤 瑚智
南條 花菜子	安川 浩史	長田 忠	武富 鷹矢	吉崎 早苗	井ノ口 昭雄	坂本 颯太
藤野 拓斗	力石 深蘭	中川 信次	中川 歩	中川 柚葉	松田 明子	河原 滯
酒向 貴子	宇野 裕美	石田 大典	石田 美穂	石田 藍子	正木 紫苑	戸田 孝
山内 孝子	木下 ゆみか	西木 正枝	平松 秀信	榎本 博紀	榎本 絢子	榎本 航生
榎本 樹希	榎本 菜晴	蒲田 優	浦畑 龍司	浦畑 美加	浦畑 里帆	巻藤 美重
山本 静	山本 創士	山本 千歳	松本 明日香	松本 征司朗	松本 紗知	大嶋 陽子
大嶋 信介	大嶋 了爾	大嶋 千恵	井原 順司	井原 理恵	井原 凜子	井原 翠子
河野 芳明	都筑 信彦	安達 誠	望月 隆裕	望月 絵美	望月 大和	望月 もも
西上 直純	西上 潤	西上 慶	緒方 育美	藤岡 康弘	熊谷 弥生	森田 存
新岡 良平	大原 脩也	的場 悠希	木林 理	木林 小春	木林 あさひ	木林 大地
須原 育美	中村 宜弘					

2. 一般利用者へのサービス事業

(1) 観察会・見学会等

2022年度は博物館や県内各地で観察会・見学会・講座等51件の事業を実施した。そのうち38件は事前参加申込によるもので、ほかの12件は当日受付、1件はオンラインによる運営を行った。観察会・見学会・講

座等 4 件は中止となった。はしかけ講座と新琵琶湖セミナーはオンラインで実施した。事前参加申込手続きには「しがネット受付システム」及び往復はがきによって運営している。

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
4 月 20 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・4 月	10 組	21	ちこあそ (はしかけ)
4 月 24 日(日)	里山体験教室	30	19	里山の会 (はしかけ)
5 月 4 日(水)	田んぼ体験 田植え	20	26	
5 月 18 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・5 月	10 組	20	ちこあそ (はしかけ)
5 月 18 日(水)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう！	5	5	みどりのくすり箱 (はしかけ)
6 月 11 日(土)	わくたん プランクトンを見よう	15	20	びわたん (はしかけ)
6 月 15 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・6 月	10 組	13	ちこあそ (はしかけ)
6 月 18 日(土)	須原魚のゆりかご水田オンライン観察会 2022	-	653 再生	せせらぎの郷須原
6 月 19 日(日)	ふらっと自然観察	15	15	水と暮らし研究会 (はしかけ)
7 月 6 日(水)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう！	5	5	みどりのくすり箱 (はしかけ)
7 月 10 日(日)	里山体験教室	30	中止	里山の会 (はしかけ)
7 月 20 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・7 月	10 組	29	ちこあそ (はしかけ)
7 月 23 日(土)	水辺の生き物観察会	20	21	湖北野鳥センター
7 月 24 日(日)	田んぼ体験 昆虫採集	20	23	
7 月 31 日(日)	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい	15	15	水と暮らし研究会 (はしかけ)、 水と緑環境ネットワーク
8 月 6 日(土)	下物ビオトープ観察会【中止】	30	-	琵琶湖保全再生課
8 月 7 日(日)	昆虫の標本作り	20		虫架け (はしかけ)
8 月 13 日(土)	マイナス 80 度から復活した微小生物【中止】	20	-	
8 月 20 日(土)	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい【中止】	15	-	水と暮らし研究会 (はしかけ)、 水と緑環境ネットワーク
8 月 28 日(日)	ヨシ灯りをつくろう！	24	26	西の湖ヨシ灯り展実行委員会
9 月 3 日(土)	湖探検	20	18	カワセミ自然の会
9 月 10 日(土)	わくたん 火を起こしてみよう！	15	17	びわたん (はしかけ)
9 月 11 日(日)	田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け (1)	20	20	
9 月 14 日(水)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう！	5	5	みどりのくすり箱 (はしかけ)
9 月 17 日(土)	初心者のための生き物写真撮影講座	20	7	温故写新 (はしかけ)
9 月 21 日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・9 月	10 組	21	ちこあそ (はしかけ)
9 月 24 日(土)	プランクトンでビンゴ	20	15	
10 月 2 日(日)	田んぼ体験教室「稲刈り・ハサ掛け」(2)	20	28	
10 月 10 日(日)	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい【中止】	15	-	水と暮らし研究会 (はしかけ)、 水と緑環境ネットワーク
10 月 16 日(日)	里山体験教室	30	17	里山の会 (はしかけ)
10 月 17 日(日)	わくわく知恵さがし・楽しく学びあい	15	15	水と暮らし研究会 (はしかけ)、 水と緑環境ネットワーク

開催日	事業名	定員	参加者数	共催・協力等
10月19日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・10月	10組	19	ちこあそ (はしかけ)
10月22日(土)	びわ博フェス	-		
10月23日(日)	びわ博フェス	-		
11月5日(土)	観察会「下物ビオトープの水だいたい抜く」	30	34	琵琶湖保全再生課
11月16日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・11月	10組	18	ちこあそ (はしかけ)
11月20日(日)	田んぼ体験 土の中の小さな生き物を探そう」	20	16	
11月30日(水)	季節の植物でアロマウォーターを作ろう	5	5	緑のくすり箱 (はしかけ)
12月10日(土)	わくたん 秋の色探しをしよう！	15	17	びわたん (はしかけ)
12月18日(日)	田んぼ体験 しめ縄づくり	20	22	
12月21日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・12月	10組	17	ちこあそ (はしかけ)
1月14日(土)	わくたん 綿にふれてみよう！	15	18	びわたん (はしかけ)
1月18日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・1月	10組	10	ちこあそ (はしかけ)
1月22日(日)	里山体験教室	30	12	里山の会 (はしかけ)
2月5日(日)	田んぼ体験 わら細工	20	11	
2月11日(土)	わくたん 水鳥を観察しよう！	15	11	びわたん (はしかけ)
2月15日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・2月	5組	7	ちこあそ (はしかけ)
3月11日(土)	わくたん 昔の地図からびわ湖を知ろう	15	11	びわたん (はしかけ)
3月15日(水)	ちっちゃな子どもの自然遊び・3月	5組	16	ちこあそ (はしかけ)

(2) 講座・セミナー

2020年度は、以下に示した講座を実施した。

	内容	開催日	曜日	参加者数	備考
1	はしかけ登録講座 (オンライン)	5月15日～5月29日 9月25日～10月9日 3月5日～3月19日		39 12 18	
2	はしかけ登録講座 (博物館)	9月25日	日	1	
3	琵琶湖地域の水田生物研究会	12月18日	日	150	一般発表 9件 ポスター発表 11件 ミニシンポジウム 6件
4	新琵琶湖学セミナー (オンライン)	1月28日 2月25日 3月25日	土	49 51 50	島野智之 井上洋一 寺本憲之

(3) 体験教室

1) 里山体験教室

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない、子どもの頃は野山で遊んだが久しく行っていない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」との共催により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しみながら知ってもらうため、春・夏・秋・冬の年4回実施している。

春は里山を歩き、春を感じるような植物を中心に観察を行った。雨が強くなったため、午後の活動は中止とした。

夏は、虫取りや昆虫の観察会を予定していたが、天候不良のため中止とした。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」を行った。午後は、里山整備をしたり、丸太切りや木の名札づくりを行った。竹と布を使った椅子づくりも楽しんだ。

冬は、たき火と花炭づくりを行った。松ぼっくりや枝葉など、それぞれ好きなものを使って花炭づくりを楽しんだ。午後は、夏に実施予定だったハンモックをして冬の里山を満喫した。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月24日	里山の春を見つけよう	19	美濃部、加藤
2	7月10日	里山の夏を楽しもう	中止	美濃部、八尋、由良
3	10月16日	里山の秋さがし	17	美濃部、安達
4	1月22日	冬の里山を楽しもう	12	美濃部、中川



春の散策



秋の丸太切り



冬の花炭づくり



冬のハンモック

2) 生活実験工房 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施している。5月から10月初旬までは主に水稻栽培に関する体験を行い、12月初旬から翌年2月までは藁など収穫した材料や工房周辺にある材料を使って体験活動を実施している。

水稻栽培の体験活動では、田植え、稲刈りまでを手作業で行っている。農閑期となる冬季には工房内でしめ縄やわら細工など、主に藁を有効活用した体験活動を行っている。つまり、生活実験工房では農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んでいる。

コロナ禍により、2020、2021年度には中止を余儀なくされていた体験活動も、2022年度は感染症対策など工夫を凝らしながら、予定していたことを全て実施できた。コロナ禍を経て活動に起こった変化としては、予約制とし、参加人数に制限を設けたこと、屋外でテントを設置し実施したことなどがある。これらは少人数による深い体験や、青空の下での伸び伸びとした体験に繋がったと考えられる。コロナ禍が過ぎたあともこの経験は活かす場があるであろう。

体験活動を実施するには難しい時期ではあったが、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める良い機会として頂き、参加者の多くに満足頂いた。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内 容	イベント	参加者数
4月 9日	種まき、苗代づくり	-	職員対応
5月 8日	田植え	実施	26名
7月24日	昆虫採集	実施	23名
9月11日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	実施	20名
10月 2日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重粳）はさ掛け	実施	28名

活動日	内 容	イベント	参加者数
11 月 20 日	秋の昆虫採集	実施	16 名
12 月 18 日	しめ縄づくり	実施	22 名
1 月 16 日	どんど焼き	-	職員対応
2 月 5 日	わら細工	実施	11 名



5 月 田植え



10 月 稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け

(4) 体験学習「琵琶湖博物館わくわく探検隊（体験学習の日）」

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営している。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届けるため、第2土曜日の午後に開催している。滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことを大切にしながら「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに関わっている。今年度は、年間6回、計94名の参加者に楽しんでもらうことができた。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	6 月 1 1 日	プランクトンを見よう！	2 0
2	9 月 1 0 日	火を起こしてみよう！	1 7
3	1 2 月 1 0 日	秋の色探しをしよう！	1 7
4	1 月 1 4 日	綿にふれてみよう！	1 8
5	2 月 1 1 日	水鳥を観察しよう！	1 1
6	3 月 1 1 日	昔の地図からびわ湖を知ろう！	1 1

(5) 質問コーナー・フロアトーク

琵琶湖博物館では、開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、おとなのディスカバリー内に設置された「質問コーナー」において博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーには学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に応えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっており、学芸員からの一方通行の情報伝達だけではなく、利用者からもたらされた情報が科学的に重要な知見に繋がった事例もある。その日に担当する学芸職員の予定は博物館ホームページやおとなのディスカバリー入口壁に掲示されており、専門分野の担当者がいる日に質問ができる仕組みとなっている。それぞれの質問は、担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、分野が異なったり、専門的な内容で質問コーナー担当学芸員が回答できない質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調

べて後日メールや電話で回答している。博物館への質問については、質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえて質問コーナー担当者が実施していたフロアトークを今年度も中止せざるを得なかった。

質問コーナーおよび電話における質問受付数

期間	2022年4月1日～2023年3月31日（うち質問コーナー実施304日）	
総質問数	1005件	
質問形態	来訪による質問	827件
	その他による質問	178件

(6) 電子メール「Query」による対応

博物館の情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付けるための専用電子メールアドレス（query@biwahaku.jp）を設定している。これらのメールは受付担当者が受信し、メールの内容に応じて専門の学芸職員や関連職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2022年度の総数508件であった。届いたメールのうち、専門的な質問については各学芸員が対応している。これらの中には、このような質問をきっかけとして自由研究に取り組んだり、身近な自然に興味をもつようになり、リピーターとなる方もいた。また、本メールがホームページ上における代表アドレスともなっているため、営業や広報に関する問い合わせ、連絡関係としても使われており、年々届くメールの件数が増加しており、内容も多様化している。

専門的な内容を含む質問 生物（魚類・その他水生生物・プランクトン・昆虫・哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・植物など）、琵琶湖・湖沼、地学、歴史・民俗・考古、博物館関係	127件
講師依頼、研究依頼、写真利用など	43件
施設利用や行事の問合せ・予約確認・案内資料請求	85件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	16件
広報掲載・取材依頼（リンク許可・サイト登録を含む）	10件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他（他機関のお知らせ等）	9件
営業関係のメール	202件
その他の問い合わせ等	16件

3. 学校連携

(1) 学校団体、自然調査ゼミ

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。昨年度と比較すると、学校団体による来館者数は増加傾向にある。団体の入館可能人数枠の緩和と学校団体も校外学習に自由に出かけることができるようになったことが増加の要因であると考えられる。特に特別支援学校の入館の数が伸びており、リニューアルや別館の昼食利用のことが広く認知されてきたことが影響したと考えている。

1) 学校団体の受け入れ

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R3 年度	今年度	増減	R3 年度	今年度	増減
県内	小学校	179	185	6	11,859	13,477	1,618

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		R3 年度	今年度	増減	R3 年度	今年度	増減
	中学校	21	18	-3	1,939	1,747	-192
	高等学校	9	12	3	846	744	-102
	特別支援学校	19	26	7	240	430	190
	大学など	7	11	4	271	707	436
	合 計	235	252	17	15,155	17,105	1,950
県外	小学校	159	222	63	12,579	18,207	5,628
	中学校	50	87	37	5,727	9,955	4,228
	高等学校	20	35	15	1,850	3,620	1,770
	特別支援学校	12	19	7	292	468	176
	大学など	11	14	3	320	635	315
	合 計	252	377	125	20,768	32,885	12,117
総合計		487	629	142	35,923	49,990	14,067

2) 学校団体向け体験学習

学校団体向け体験学習は、展示室見学をより深く学ぶための手助けとなることを目的に行っている。今年度は、多くの学校に体験してもらうことができた。また、新しい体験プログラムを試行し、改善を行った。来年度の本格実施を目指す。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、昔の暮らし、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、シジミストラップ作り、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、昔くらし体験（脱穀、石臼、手押しポンプ）、葉っぱで魚をつくろう、フローティングスクール連携、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、メタセコイア観察実習、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、琵琶湖湖底型づくり、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり、よし笛づくり、シジミストラップ作り

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	45	2,814	21	1,527	66	4,341
中学校	8	957	10	518	18	1,475
高等学校	5	307	6	617	11	924
特別支援学校	4	56	2	29	6	85
大学など	0	0	0	0	0	0
合 計	62	4,134	39	2,691	101	6,825

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営

2022年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生164名が参加し、1回の展示見学と講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。「発展型琵琶湖学習」というプロジェクトで環境学習だけでなく多方面に学習の場を広げ、「社会参画分野」「自然科学分野」「経済観光分野」に分かれて活動され、学習発表会でそれぞれの活動の発表をされました。

① 2022年7月12日（火）於：琵琶湖博物館

・10:00～10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」（由良）：ホール

② 2023年3月15日（水）於：立命館守山中学校

学習発表

- ・琵琶湖博物館やフィールドで調べたことを発表
- ・講評（由良）

4) 自然調査ゼミナール

この活動は、毎年夏休みに滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、滋賀県内の中学生に対し、自然調査の手法を身につける機会の提供をしている。自然環境とじっくり向き合い、身に付けた自然調査の手法を自らの得意分野やフィールドで活かすことができる滋賀の子どもを育てることを目指し、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行っている。※2020－2022年度は新型コロナ感染拡大防止のため中止

■内容（2019年度）

午前の部		午後の部	
9:00 ～ 9:30	受付	12:45～15:00	班別調査活動Ⅱ (各活動場所)
9:30 ～10:00	開講式・オリエンテーション	15:00～15:30	調査結果のまとめ
10:00 ～12:00	班別調査活動Ⅰ (各活動場所)	15:30～16:45	調査報告会（ホール）・講評（博物館教員）
12:00 ～12:45	昼食および休憩 展示室見学	16:55～17:00	閉講式

■ 班別テーマ (2019年度)

調査班	テーマ	講師	生徒数	教員数
昆虫班	採集や標本づくりを通して昆虫について学ぼう	八尋克郎 (学芸員)	0	0
植物班	葉の食痕の種類と植物種との関係を探る	大槻達郎 (学芸員)	0	0
ほ乳類班	巣の調査や個体観察からほ乳類の生態を調べよう	中村久美子 (学芸員)	0	0
プランクトン班	琵琶湖におけるアオコの原因とそのときの水質環境について	鈴木隆仁 (学芸員)	0	0
魚類班	琵琶湖にいる魚の解剖を通して、魚の生態を調べよう	小林偉真 (教員)	0	0
貝類班	貝の採集や解剖を通して、貝の生態を調べよう	初田彩香 (教員)	0	0

■ 自然調査ゼミナールのようす



(2) 教職員研修

本年度もフローティングスクール連携に関わる教員研修や県総合教育センターなどと連携した研修を行った。本年度から小学校だけでなく特別支援学校の初任者研修も実施し、県内の学校の先生方に琵琶湖博物館を知っていただくよい機会となった。研修後には、研修を受けた教員から早速体験学習プログラムの申込があり、博物館を有効に活用いただくきっかけとなっている。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
5月5日	木	F S連携「びわ湖学習」研修会	2	竜王町立竜王小学校
8月3日	水	F S連携 教員研修会	47	滋賀県フローティングスクール
10月11日	火	初任者研修(特別支援学校)	27	滋賀県総合教育センター
10月13日	木	初任者研修(特別支援学校)	20	滋賀県総合教育センター
11月8日	火	初任者研修(小学校)	37	滋賀県総合教育センター
11月10日	木	初任者研修(小学校)	41	滋賀県総合教育センター
11月15日	火	初任者研修(小学校)	42	滋賀県総合教育センター
11月17日	木	初任者研修(小学校)	41	滋賀県総合教育センター

■ 教員研修の様子(初任者研修)



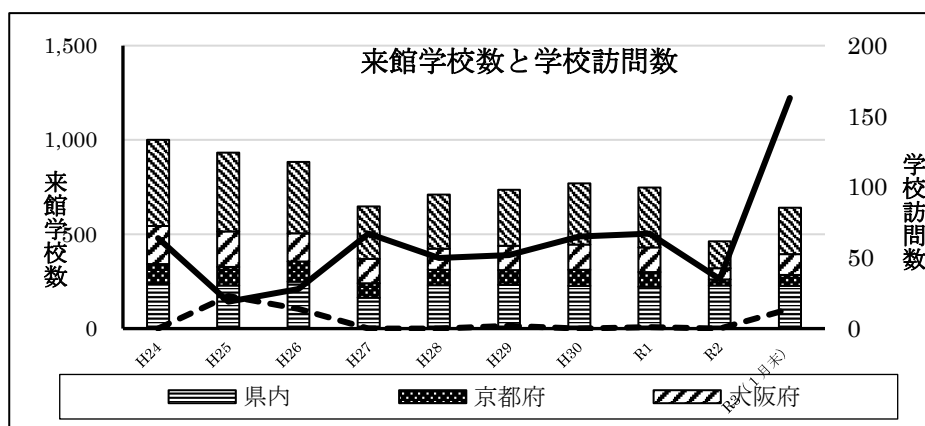
(3) 学校・団体等への訪問活動

団体(一般・学校等)への広報活動

学校団体等		対象者	対象人数
県内	一般団体	県老人クラブ総会（コロナ感染防止で中止）文書配布	21
		県地域女性団体連合会 役員会	23
		県子ども会連合会総会（コロナ感染防止で中止）文書配布	18
	各市町校長会	米原市、甲賀市、長浜市 彦根市、蒲生郡	128
		野洲市、大津市（小・中）高島市（中）、愛知・犬上郡、湖南市、守山市	111
		近江八幡市、高島市（小）草津市、栗東市	61
		東近江市	24
	一般教員	大津市小中初任者研修会	55
県外	福井県	新任教頭研修会オンライン（zoom）、新任校長研修会オンライン（zoom）	125
	京都府	城久支部校長会、宇治支部校長会、相楽・綴喜支部校長会は感染防止のため中止	33
		京都市小学校校長会支部長会（コロナ感染防止のため書面のみ）	16
	大阪府	大阪市幹事校長会、大阪府小学校理事校長会	104
		堺市小学校理事校長会、堺市小学校全員校長会オンライン（zoom）	121
		箕面市小中教頭会（コロナ感染防止のため書面のみ）	20
計			860

学校訪問広報活動

	校種	市町	学校数	市町	学校数	市町	学校数	学校数	学校数	
県内	小学校	大津市	31	彦根市	11	長浜市	22	近江八幡市	8	
		草津市	9	守山市	0	栗東市	3	甲賀市	17	
		野洲市	1	湖南市	2	高島市	9	東近江市	7	
		米原市	7	日野町	4	竜王町	1	愛荘町	0	
		豊郷町	2	甲良町	1	多賀町	2	滋大附小	1	
		計								138
	中学校	米原市、彦根市、野洲市、守山市、東近江市								6
	高校・大学・ 養護学校	高校 2 大学 1 養護学校 1								4
県外	京都府	小学校（宇治市、城陽市、木津川市、長岡京市、宇治田原町、京都市）								21
	大阪府	小学校（大阪市、堺市、箕面市）								3
計									172	



4. 地域との交流事業

(1) 地域連携（館内）

実施月日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	対応者	人数
5月 29日	京都文教大学	講義および展示見学のお願い	加藤秀雄	21
6月 4日	三重県立上野高等学校	高校の部活動における探究活動への協力依頼	田畑諒一	19
6月 14日	摂南大学農学部応用生物科学科	応用生物科学科1回生の訪問研修	大塚泰介	100
8月 3日	近畿大学農学部水産学科	水産増殖学実習における講義見学依頼	米田一紀	22
8月 26日	NPO 法人シニア自然大学校	カマツカ・ヨシノボリ属の講演依頼	川瀬成吾	16
8月 27日	MLGs 推進委員会	MLGs 推進イベントへの協力依頼②	川瀬成吾	30
8月 31日	大阪 ECO 動物海洋専門学校	琵琶湖産魚類の講義および館内見学	特別研究員(桑原)	35
9月 15日	大津市立仰木の里公民館	地域人材育成事業「けやき教養塾」	特別研究員(戸田)	20
9月 27日	大津公民館利用者団体連絡協議会	琵琶湖の魚と人々の暮らし	金尾滋史	30
10月 7日	龍谷大学 嶋田大作	龍谷大学「滋賀県の農業・農政」	中川信次	59
10月 14日	龍谷大学 嶋田大作	龍谷大学「滋賀県の農業・農政」	中川信次	59
10月 28日	龍谷大学 嶋田大作	龍谷大学「滋賀県の農業・農政」	中川信次	59
11月 4日	山口県宇部環境国際協力協会	琵琶湖における水質保全の歴史	芳賀裕樹	
11月 6日	NPO 法人自然と緑 第27期自然大学	体験学習の依頼	大塚/鈴木	40
11月 6日	明るい社会づくり運動滋賀県協議会	琵琶湖のこともっと知ろう研修会	中嶋（保全再生課）	20
11月 10日	常盤読書クラブ松葉会（園田）	明治29年の大洪水について	島本多敬	7
11月 11日	龍谷大学 嶋田大作	龍谷大学「滋賀県の農業・農政」	中川信次	59
11月 13日	豊中高校 SSH	プランクトン実習	鈴木隆仁	20
11月 26日	大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科	琵琶湖・淀川水系の淡水魚類相の起源と食文化	川瀬成吾	10
12月 6日	NECT	琵琶湖システムについて	渡邊麻美（農政課）	20
12月 20日	大阪 ECO 動物海洋専門学校	大阪 ECO 動物海洋専門学校	亀田佳代子	69
1月 8日	豊岡高校	コイ科魚類の縄張り行動について	米田 一紀	10
1月 4日	びわこ学院大学	滋賀の環境	金尾滋史	46

実施月日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	対応者	人数
1月 18日	滋賀県農業協同組合中央会	「琵琶湖システム」と琵琶湖と水と農業のかかわりについて	大塚泰介	
2月 15日	篠山チルドレンズミュージアム 垣内敬造	博物館運営に関して	山川千代美	10
3月 10日	近畿化学協会	「江戸時代のフナズシに挑む」	橋本道範	
3月 23日	吹田市人権政策室 川中	自然と人間とのかかわりについて	楊平	70
3月 26日	栗東歴史民俗博物館市民学芸員の会 大西稔子	琵琶湖観光鳥瞰図の世界	島本多敬	8

(2) 地域連携 (館外)

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	人数
4月 14日	おやじのたまり場	琵琶湖の沈没遺跡と今後の地震について	大津市	里口保文	38
5月 10日	えふえむ草津	えふえむ草津番組への出演依頼	草津市	橋本道範	23
5月 15日	高知市教育委員会	特別展「ミジンコ展 2022」の協力及び講師	高知みらい科学館(高知県)	鈴木隆仁	20
5月 28日	カップ研究会	「淀川水系河川絵図集成」完成記念講演会におけるリレー講演依頼	オンライン	島本多敬	200
6月 3日	龍谷大学	「食料人類学」における講師依頼	大津市	橋本道範	
6月 4日	栗東市教育委員会	ホタル観察学習会の講師派遣	栗東市	桒永一宏	
6月 11日	佐波江地区自治会	講師派遣依頼	近江八幡市	大槻達郎	35
6月 18日	せせらぎの郷	須原魚のゆりかご水田における生き物観察会(共催)	野洲市	金尾滋史	160
6月 18日	びわ湖放送	海と日本プロジェクト in 滋賀県における協力依頼	野洲市	大塚/橋本	20
6月 19日	近江八幡ロータリークラブ	カヌー体験教室における生き物観察	近江八幡市	川瀬成吾	30
6月 25日	長岡市科学館	信濃川の淡水魚-知って、守ろう 地域の自然-	長岡市	川瀬成吾	30
6月 28日	公益財団法人京都勤労者学園	室町貴族の魚食文化-首都京都における淡水魚消費-	京都	橋本道範	
7月 2日	守山市教育委員会	弥生人養成講座における講師依頼 1	守山市下之郷史跡公園	妹尾裕介	15
7月 7日	草津市立志津小学校	総合学習における講師依頼	草津市志津小学校	川瀬成吾	120
7月 18日	勝部自治会	かつべ水フェスタの講師派遣依頼	守山市	金尾滋史	100
7月 19日	湖南 企業いきもの応援団	「湖南 企業いきもの応援団」調査会への講師派遣	草津市狼川・郷インテックス(株)	川瀬成吾	

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	人数
7月 21日	知事公室防災危機 管理局長	「防災カフェ」への講師派遣	県庁(県危機管 理センター)	里口保文	10
7月 23日	大阪府立高津高等 学校	高津高校 SSH「台湾サイエンス ツアー」事前学習会	大阪府高槻 市・あくあび あ芥川	川瀬成吾	26
7月 29日	守山市立守山中学 校	調査研究への助言	守山市	鈴木隆仁	24
8月 2日	快適環境づくりを すすめる会	川の生き物観察会への協力	彦根市犬上川	金尾滋史	30
8月 3日	びわ湖放送	海と日本プロジェクト in 滋賀県 における協力依頼	野洲市	大塚泰介	20
8月 6日	香芝市教育委員会	公開講演会における講師依頼	奈良県・香芝 市ふたかみ文 化センター	山川千代 美	60
8月 8日	公益財団法人守山 市文化体育鉱業事 業団	M2 スポ 昆虫採集体験教室の指 導	守山	八尋克郎	20
8月 9日	滋賀経済同友会	「情報文化首都『安土』構想」 研究会の講演依頼	ボストンプラ ザ草津	里口保文	30
8月 20日	岐阜市長良川鵜飼 伝承館	「長良川鵜飼の生涯学習講座」 における講師派遣依頼	長良川うかい ミュージアム (岐阜県)	亀田佳代 子	20
8月 20日	MLG s 推進委員会	MLGs 推進イベントへの協力依頼 ①	家棟川	川瀬成吾	30
8月 31日	大阪 ECO 動物海洋 専門学校	大阪 ECO 動物海洋専門学校	来館	桑原	
9月 24日	マザーレイクゴー ルズ推進委員会	学術フォーラムで実施した、琵琶 湖及び流域環境と社会の状態 に係る学術的な評価について	コラボしが 21	川瀬成吾	90
9月 24日	守山市教育委員会	弥生人養成講座における講師依 頼 2	守山市下之郷 史跡公園	妹尾裕介	15
9月 25日	守山市教育委員会	弥生人養成講座における講師依 頼 3	守山市下之郷 史跡公園	妹尾裕介	15
9月 28日	東京都武蔵高等学 校	琵琶湖の魚類と漁業について (オンライン講義)	東京	米田一紀	102
10月 28日	(公)日本技術士会 近畿本部応用理学 部会	応用理学部会の講演	奈良市春日野 国際フォーラ ム	里口保文	100
11月 3日	守山中学 PTA	おこめと私たちの暮らし～近江 の食文化史から米を捉える	守山市民ホー ル	妹尾裕介	30～ 50

活動日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	地域	担当者	人数
11月 5日	特定非営利活動法人シナイモツゴ郷の会	変わりゆく淡海の風景-琵琶湖の淡水魚の昔と今	オンライン	川瀬成吾	302
11月 20日	守山市教育委員会	弥生人養成講座における講師依頼 4	守山市下之郷史跡公園	妹尾裕介	15
12月 19, 20日	國學院大學	博物館教育論（ビデオの再利用）	東京	金尾滋史	160
1月 28日	守山市環境生活部環境政策課 伴康宏	カヤネズミの巣を探そう	県営都市公園琵琶湖地球市民の森森づくりセンター	中村久美子	20
1月 29日	東近江市市民環境部観光政策課長	東近江環境円卓会議	東近江市役所	金尾滋史	
2月 4日	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所 山極	「絵図・地図から読み解く、比良山麓の村々の土砂とのたたかいと恵み」	和邇文化センター	島本多敬	300
2月 8日	成安造形大学 加藤賢治	琵琶湖の民族史（去年の動画を利用）	成安造形大学	金尾滋史	100

(3) びわ博フェス 2022

1 趣旨

琵琶湖博物館が目指す「みんなで学びあう博物館へ」を実現するためには、博物館に関わって活動しているフィールドレポーターや各はしかけグループ、および地域で活動する個人・団体・企業等が、主体となって学びあえる場と機会を共に作り上げていきます。そうした情報交換・相互交流の場として、“びわ博フェス”を位置づけます。地域で活動するさまざまな人びとが集まって、みんなが学びあえる場と機会を共に作り上げていきます。

2 開催日

2022年10月22日（土）、23日（日）（会場：滋賀県立琵琶湖博物館）

3 内容

【シンポジウム・交流会】

テーマ：地域・びわ博シンポジウム「一緒に楽しく発見したのは？」

日時：2022年10月22日（土）

会場：琵琶湖博物館・ホール、セミナー室

プログラム：

13：00～15：30	「地域・びわ博」シンポジウム（会場：琵琶湖博物館・ホール）
13：00～13：05	司会： 山川 千代美（琵琶湖博物館・事業部長）
13：05～13：10	開会挨拶： 高橋 啓一（琵琶湖博物館・館長）
13：10～13：30	発表者：福野 憲二（琵琶湖博物館はしかけ「近江の巡礼の歴史勉強会」）
13：30～13：50	発表者：百木 義忠（琵琶湖博物館はしかけ「海浜植物守りたい」）
13：50～14：10	発表者：前田 雅子（琵琶湖博物館・フィールドレポーター）

14：10～14：20	休憩
14：20～14：40	発表者：立命館守山高校
14：40～15：00	発表者：堀 彰男（せせらぎの郷）
15：00～15：20	発表者：田中 邦彦（湖南企業いきもの応援団）
15：20～15：30	総合討論・意見交換 コメンテーター兼閉会挨拶：亀田 佳代子（琵琶湖博物館・副館長）
15：30～15：40	休憩
15：40～17：00	交流会（会場：琵琶湖博物館・セミナー室） 開会挨拶：高橋 啓一（琵琶湖博物館・館長） 司会：楊 平（琵琶湖博物館・交流係長） はしかけ、フィールドレポーター、地域団体・企業等による活動紹介、ポスター発表、わくわく交流会 閉会挨拶：西村 武 副館長

【ポスター展示、ポスター発表】

日時：2022年10月22日（土）、23日（日）

会場：琵琶湖博物館・アトリウム

プログラム：ポスター解説（23日）

11：30～12：00	近江巡礼の会、ディスカバはしかけ、植物観察の会、うおの会、近江はたおり探検隊、古琵琶湖発掘調査隊、森人、琵琶湖梁山泊、サロン de 湖流、おおつ自然観察の会、フィールドレポーター
13：30～14：00	淡海スケッチの会、海浜植物を守りたい、大津の岩石調査隊、びわたん、ほねほねくらぶ、緑のくすり箱、生物多様性びわ湖ネットワーク、滋賀県獣医師会、日本野鳥の会滋賀、（株）SCREEN ホールディングス
15：00～15：30	温故写真、はしかけ里山の会、たんさいぼうの会、琵琶湖の小さな生き物を観察する会、虫架け、タンポポ調査はしかけ、ちこあそ、TANAKAMI こども環境クラブ、白鳥川の景観を良くする会、田んぼの生き物調査グループ

*ポスター展示：22日、23日とも実施。ポスター解説：23日に実施。

【ワークショップ】

日時：2022年10月23日（日）

会場：琵琶湖博物館・各所

プログラム：

	グループ名	内容
10：00～11：45	おおつ岩石調査隊 緑のくすり箱 びわたん 虫架け ちこあそ ほねほねくらぶ 生物多様性びわ湖ネットワーク	石を比べてみよう 草木染め体験 くるくる カラフル たねとばし あなただけの蝶コレクションを作ろう ちこあそ びわ博フェス特別版 骨格標本の製作過程の実演、鹿の骨などの展示 トンボ観察会
13：00～14：45	古琵琶湖発掘調査隊	粒度表作り

	うおの会 フィールドレポーター 近江はたおり探検隊 里山の会 森人 ちこあそ	お魚キーホルダーを作ろう 万華鏡を作ってみよう 大麦で星型オーナメントを作ろう 里山の素材で作ろう 屋外展示 ガイドツアー、クイズラリー ちこあそ びわ博フェス特別版
15 : 00～16 : 45	(株)SCREEN ホールディングス 日本野鳥の会滋賀	琵琶湖の微小生物を顕微鏡で探そう 体験！烏丸半島で野鳥を探そう
10 : 00～16 : 00	たんさいぼうの会 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 滋賀県獣医師会	小さな生き物の顕微鏡観察 生き物の観察 動物とのふれあい教室

5. 琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやSNSなどにより発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 177 件 教材貸出件数 19 本 (15 名)

(昨年度実績 相談件数 153 件 教材貸出件数 30 本)

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 132 人 学習プログラム 181 本 学べる場所 28 か所

3) SNS フォロワー数

Twitter 386 人 Instagram 227 人 Facebook 73 人

4) ブース出展

無し

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

期日：令和4年11月12日（土）

場所：琵琶湖博物館 実習室1 「季節のプランクトンを学ぼう」＊貸出キット紹介を兼ねて

参加者：14名（大人11名、子ども3名）

2) 環境学習活動者交流会

実施無し

3) こどもエコクラブ事業

・淡海こどもエコクラブ活動交流会 R4 年度実施

期日：令和4年12月11日（日）

場所：琵琶湖博物館 ホール・企画展示室

参加クラブ数：13 クラブ 参加人数：142 人

壁新聞応募数：11 枚 絵日記応募数：41 枚（3 クラブ）

展示期間：令和4年12月1日（木）～令和5年1月10日（火）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：こどもエコクラブに登録するクラブの活動成果の壁新聞・絵日記の展示

その他：平和堂財団より助成を受けて実施

・登録数 65 クラブ メンバー 5,334 人

・「こどもエコクラブ全国フェスティバル 2023」 令和 5 年 3 月 26 日（日）国立オリンピック記念
青少年総合センターにて開催予定

4) 地域を「知る」環境学習

もっと知りたいびわ湖のこと 「ヨシっていいね!」

・「ヨシっていいね! 2」 草津近鉄百貨店 あかりスポット

4 月 27 日（水）～5 月 3 日（祝・火）

パネル設置：（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

移動博物館「生命をはぐくむヨシ帯」、カヤネズミはく製、ヨシ製品各種（雑貨、衣類、コクヨ文具）

アンケート数：（土日祝のみ集計）57 人（来場数 311 人）

ヨシネックレスワークショップ参加者数 56 人

・「ヨシっていいね! 3」 日本橋 ここ滋賀

6 月 28 日（火）～7 月 18 日（祝・月）

パネル設置：屋上（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

ヨシ製品展示：2F レストラン横 階段踊り場ウィンドー（ヨシ松明笠部分コラージュ、バッグ、アクセ
サリー、ヨシペン、ヨシ笛、ヨシストランドボード）

・「ヨシっていいね! 4」 大阪 読売テレビ

7 月 23 日（土）～24 日（日）

パネル設置：本社ロビー鳥人間コンテスト 2022 （プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

移動博物館「生命をはぐくむヨシ帯」、カヤネズミはく製、ヨシ製品各種（雑貨、衣類、コクヨ文具）

・「ヨシっていいね! 5」 日本橋 ここ滋賀 ヨシビーズを使ったネックレスづくり

8 月 2 日～8 月 3 日

アンケート数：57 人

ヨシネックレスワークショップ参加者数：59 人（予約 80 名のうち当日参加 59 名）

・「ヨシっていいね! 6」 大阪 読売テレビ

8 月 27 日（土）～28 日（日）

パネル設置：本社ロビー24 時間テレビ（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

移動博物館「生命をはぐくむヨシ帯、移動してきた湖 琵琶湖、歯形の正体はだれ？」

ヨシ製品各種（雑貨、衣類、コクヨ文具）

・「ヨシっていいね! 7」 東京 ITOCHU SDGs STUDIO 11 月 19 日（土）～20 日（日）

ヨシのヒンメリ、パネル設置：（プロローグ、ヨシの美、生態系、保全活動）

ヨシのヒンメリ作りワークショップ参加者数 42 人

・「ヨシっていいね! 8」 琵琶湖博物館アトリウム 3 月 14 日（火）～3 月 28 日（火）

パネル設置：（プロローグ、ヨシの美、生態系、保全活動、資材としての取組紹介）

ヨシ製品各種（雑貨、コクヨ文具、よし笛、菓子）

よし笛コンサート（3月21日（火・祝）参加者数177人・25（土）参加者数135人）

5) 環境学習への誘い事業

貸出キットを使って、環境学習をもっと日常に！

- ・「プランクトンネットを使って季節のプランクトンを観察しよう！」（監修：主任学芸員 鈴木隆二）

＊環境・ほっと・カフェにて使用

- ・「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」（監修：主任技師 美濃部諭子 協力：はしかけ「緑の菓箱」）
- ・「チョウの採集と標本づくり」（監修：総括学芸員 八尋克郎）

- ・「やってみよう！環境学習！」 自然観察の用具と使い方

草津近鉄百貨店 あかりスポット 2月22日（水）～2月28日（火）

貸出備品・パネル設置：（3種類の貸出セット、DVD、漁網・ライフジャケット・生態観察ケース）

植物の実演蒸留・アロマウォーター作り

よし笛コンサート（2月23日（木・祝）・26日（日） 参加者数131人（両日）

ヒンメリ作りのワークショップ（2月23日（木・祝）・25日（土）・26日（日） 参加者数74人

- ・びわこマラソン 応援イベント

烏丸半島 芝生広場WELCOMEフェスタ 3月12日（日）

貸出備品・パネル設置：（アロマウォーターセット、DVD、漁網・ライフジャケット）

各種チラシと「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」のアロマスプレーを配布（104人）

6) その他

・令和5年1月31日（火）～2月26日（日） 琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」 -生物多様性びわ湖ネットワーク- 展示活動支援

琵琶湖博物館アトリウムにおいて、企業連携による生物保全活動の成果発表展示

3 情報発信

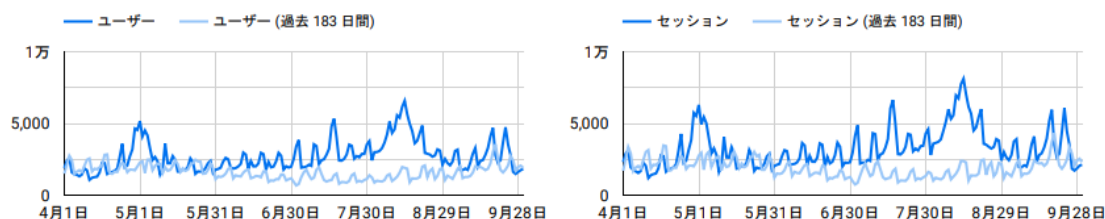
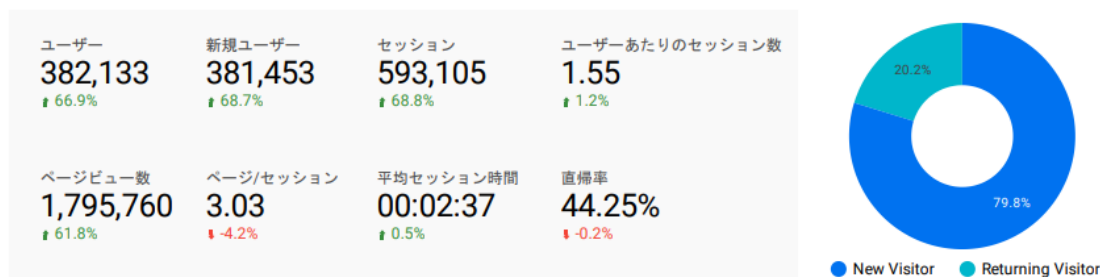
1. インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週 10 回程度である。このほか、収蔵資料の情報の公開もしている。今年度はコロナへの対応が目まぐるしく変わったため、それらの情報を博物館のホームページだけではなく Google map の情報(臨時休館日や水槽破損による料金の変更等)も併せて変更することで、博物館の情報を多角的に発信するとともに、利用者の利便性向上をはかった。

ウェブページの閲覧状況については、グーグルアナリティクスを利用したアクセス解析を行った。2022 年度に当館ウェブサイトアクセスしたユーザー数の推移は、下掲のグラフの通りである。

計測期間 2022/04/01 - 2022/09/30

ユーザー概要



2022 年 4 月 1 日～9 月 30 日はユーザー数 382,133(前年度同時期と比べ 25.7%↑)・セッション数 593,105(29.1%↑) で、ページビュー数は 1,795,760(27.9%↑) であった。また、新規ユーザーの訪問率が 79.8%であった。

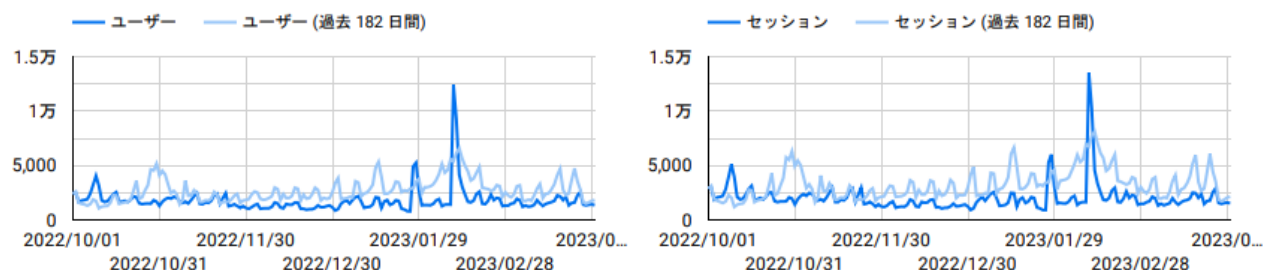
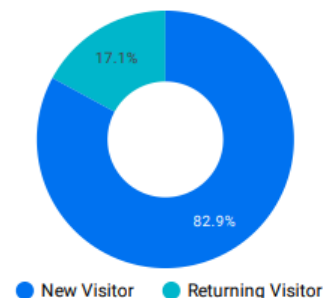
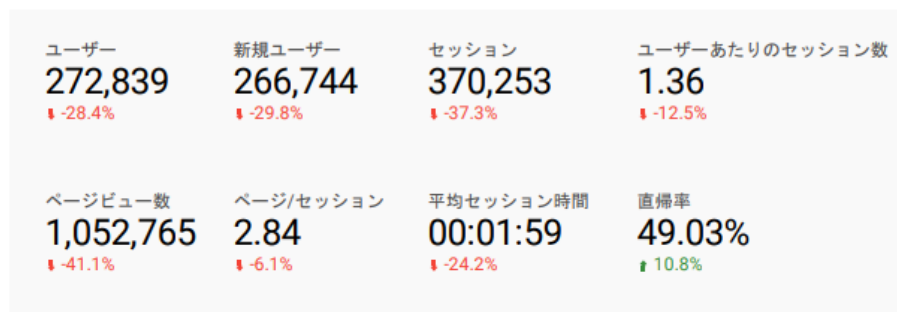
人気コンテンツ

ページタイトル	ページ別訪問数
1. 滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	347,248
2. 予約ページ 滋賀県立琵琶湖博物館	246,991
3. 料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	112,085
4. 展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	74,436
5. アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	60,312
6. 利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	48,962
7. 水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	37,565
8. 開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	31,534

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、予約システム、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心であった。

計測期間 2022/10/01 - 2023/03/31 ▼

ユーザー概要



2022 年 10 月 1 日～2023 年 3 月 31 日はユーザー数 272,839(前年度同時期と比べ 11.9%↑)・セッション数 370,253(5.9%↑)で、ページビュー数は 1,052,765(4.7%↓)であった。また、新規ユーザーの訪問率が 82.9%であった。2 月にユーザー数が劇的に上昇しているのは、10 日に起こった水槽破損のためと推測している。

人気コンテンツ

ページタイトル	ページ別訪問数 ▼
1. 滋賀県立琵琶湖博物館 世界有数の「古代湖」である琵琶湖をテーマとする総合博物館です。	231,228
2. 料金について 滋賀県立琵琶湖博物館	74,427
3. 展示紹介 滋賀県立琵琶湖博物館	54,335
4. アクセス 滋賀県立琵琶湖博物館	41,784
5. 水族展示室 滋賀県立琵琶湖博物館	37,070
6. 利用案内 滋賀県立琵琶湖博物館	34,746
7. 開館情報 滋賀県立琵琶湖博物館	31,216

閲覧されているウェブページの上位は、トップページをはじめ、料金、展示紹介、アクセスなど、当館の基本的な情報を掲載したページが中心である。10 月 16 日より予約システムが廃止されたため、これまでクリック数の多い検索キーワードからも「琵琶湖博物館 予約」等の予約システムの運用に関連するものが見られなくなった。

集客チャンネルとして、ソーシャルメディアからの訪問が上期(4-9 月)と比較して、下期(10 月-3 月)は 5.68 倍と増加した。これは公式 YouTube チャンネルの効果と推測された。

2. 情報システムの整備・更新

1)セキュリティクラウドの更新

今年度は新規滋賀県自治体情報セキュリティクラウド(新 SC)を利用したシステムへ移行した(正式運用は 2023 年 4 月 1 日から)。これは、LBM 情報システムのセキュリティ対策と監視体制の強化、さらにシステム

管理のコストと労力削減を目的としたものである。新 SC の移行にともない、Web 配信およびメールサービスの移行も実施した。

【CMS (Contents Management System) の更新】

新 SC の更新にともない、琵琶湖博物館ホームページとエコロシーが(環境学習情報発信ウェブサイト)のホームページに関する CMS の更新も実施した。この更新によって、安全性の高い情報システムの元で Web サイトのコンテンツ管理ができるようになった。

【端末のセキュリティ等】

情報システムは新 SC の中で常時セキュリティの監視を行っているが、端末のセキュリティについては、インターネットウィルス等対策ソフトウェア ESET から EDR (Endpoint Detection and Response) である FFRI yarai に変更した。また、Microsoft Defender をはじめとしたウィルス対策ソフト全機にインストールすることで、より頑強なセキュリティ環境を構築した。

2) Web 予約システム

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の対策の一つとして実施してきた、琵琶湖博物館インターネットページを入口とした「来館予約システム」については、令和 4 年 (2022 年) 10 月 16 日 (日) をもって利用を停止し、同年 10 月 18 日 (火) 以降の来館については、予約システムによる事前予約を不要とした。なお、団体による利用については、入館手続きを行うためなどの理由により感染症対策以前から行ってきた事前連絡をしていただくようお願いをしている。

月日	制限人数 30 分の枠	備考(時間帯等)
(2022/1/11)～4/24	120	
4/26～5/15	120	10 時台
	150	11 時以降
5/17～6/5	150	10 時台
	180	11 時以降
6/7～6/12	210	
6/14～	210	
6/21～	250	
10 月 16 日	予約終了	

3. デジタルサイネージ

琵琶湖博物館では、来館者向け利用案内の向上を目的としてデジタルサイネージを導入、運用しており、5 月 13 日には券売カウンター横の企業広告用サイネージが琵琶湖博物館の情報発信用のサイネージに変更された。また、10 月 16 日 (日) の Web 予約終了後は、正面入口のサイネージを撤去しており、その後は 8 台のサイネージを運用している (表)。

このうち正面入口では、入場制限のために予約の空き情報をリアルタイムで発信する用途 (予約システムの利用方法も併せて案内) で 1 台使用していた (Web 予約終了後に撤去)。残りの 1 台は、一般的な利用案内情報 (利用料金、利用案内) を発信している。

券売カウンター横の 2 台では、企画展のほか館内で実施している様々なイベント (事前申込を要さないもの) を案内している。今年度は感染予防のため該当するイベントが激減したため、新規に YouTube 動画の紹介を挿入した。現時点では長期的なイベント情報を中心に情報を更新し、更新頻度は 6 回程度となっている。券売カウンターの 3 台については、観覧料のみを表示している。

【デジタルサイネージの設置場所と運用状況】

(表) デジタルサイネージの設置場所と運用状況

	設置場所	画面サイズ	形式	表示内容
1	券売カウンター横	55 インチ	固定	展示案内 (企画展など)、感染対策や水槽の破損のために休止しているサービスの案内、その他感染対策のための注意喚起情報、YouTube 動画
2	券売カウンター横	55 インチ	固定	展示案内 (企画展など)、感染対策のために休止しているサービスの案内、その他感染対策のための注意喚起情報、YouTube 動画
3	券売カウンター	43 インチ	固定	観覧料の案内
4				
5				
6	1F エスカレーター前	43 インチ	可搬	エスカレーター案内
7	正面入口	55 インチ	可搬	予約状況の案内 → 10 月 17 日に撤去
				利用料金、利用案内
8	C 展示室	55 インチ	可搬	展示物紹介 (ナゴヤダルマガエル)

4. 印刷物一覧

品名	サイズ	ページ数	発行部数
研究調査報告第 36 号「日本列島を中心とした魚介類消費の研究」	A4	204	300
令和 4 年度企画展示図録	A4	56	1,000
令和 4 年度企画展示チラシ	A4	1	30,000
令和 4 年度企画展示ポスター	A1	1	1,000
令和 4 年度企画展示滋賀県チョウポスター	A1	1	19,000
びわはく第 6 号	A4	12	5,000
琵琶湖博物館「招待券」	78×145 mm	1	10,000
琵琶湖博物館「共通券」一般 琵琶湖博物館「共通券」高大	78×170 mm	1	10,000 2,000
琵琶湖博物館リーフレット	210×395 mm	8	100,000
2023 年度びわはくカレンダーポスター	A1	1	3,000
滋賀県立琵琶湖博物館 要覧第 12 版	A4	32	700
フィールドレポーター掲示板 100 号	A4	31	40
フィールドレポーター掲示板 101 号	A4	12	40
フィールドレポーター掲示板 102 号	A4	12	40
フィールドレポーター便り第 54 号	A4	20	40

5. 広報 PR 活動

2022 年度は、コロナ禍が緩和傾向にある中で、可能な限り年間を通して、様々なメディアを通じて、広報 PR 活動を展開した。

広報戦略としては、専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に継続的に委託することができたことから、リニューアルで一新した広報コンセプト「びわこのちからの博物館。」を軸として、訴求し

たいターゲットに伝えたい情報を、適切な手法で届けていくという方針のもと、様々なメディアへのアプローチをはじめとする情報発信を行った結果、Webでの掲載が前年度比3倍になるなど飛躍的な伸びを示すとともに、集中した形で、わかりやすく効果的な広報PR活動を継続的に展開することができた。

1) 各種広報媒体の活用による情報発信

コロナ禍の状況の中、各構成団体それぞれにおいて、各構成団体が発行する広報やリーフレットをはじめ、パブリシティ・Facebookの活用により烏丸半島の情報を発信した。(有料広告掲載4件、資料提供66件、テレビ・ラジオ86件、新聞461件、雑誌49件、インターネット3,678件)

2) 公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」の更新

学芸職員による研究発信や研究と展示室と関連づけた内容を公開した。

- ・40万年前の琵琶湖の森が分かる！？花粉の化石を調査！Lake Biwa's forests 400,000 years ago!? Investigation of fossil pollen!
- ・琵琶湖で厄介者になった鳥！？カワウがすむ「竹生島」を大調査！A bird that became a nuisance in Lake Biwa!? Survey of Chikubu Island.
- ・琵琶湖周辺に生息する日本一長いミミズ！ハッタミミズを大調査！Japan's longest worm lives around Lake Biwa! Hatta earthworms!
- ・100年ぶりに発見！滋賀では幻のエビ！？「ミナミヌマエビ」を大調査！
- ・大実験！江戸時代の製法で「ふなずし作り」に挑戦！！

3) SNS 発信回数

Facebook：108回、Instagram：14回、Twitter：59回

4) 一日館長

冬季の閑散期対策を目的に、滋賀県にゆかりがあり、「滋賀ふるさと観光大使」の西川貴教氏を一日館長に迎え、琵琶湖博物館の魅力などを発信した。

日時：令和5年2月11日（土）13:45～16:15

概要：一日館長就任式・「西川一日館長×高橋館長 対談」（ホール）

縄文土器の模様付け体験（アトリウム）

記念品贈呈・メディア囲み取材（おとなのディスカバリー）

※この行事の前日の2月10日に、水槽破損事故発生という状況であったが、ご本人の強い意向があり、事務所との協議等の結果、実施することとなった。

結果的に、琵琶湖博物館の魅力発信のみならず、水槽破損事故についてのお見舞いや応援メッセージをいただけることとなり、メディアへの対応を含め、当館にとっては、大変ありがたく有意義な行事となった。

5) 有料広告の掲載等

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
6月1日 発行	『フリーペーパー道の駅 Vol. 02・2022 夏号』	A4判	本文カラー2頁	県内	50,000
7月13日 発行	Lmaga MOOK 『滋賀の本 2022』	AB判	本文カラー1/2頁	京阪神	80,000

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
9月～3月 初旬	『京都観光コンシェルジュ vol. 13 秋冬号』	A4 判	本文カラー1 頁	京都	14, 000
3 月～	最新保存版『おでかけドライブ 2023-2024 中部版』	A4 判	本文カラー1 頁	中部	90, 000

6) 資料提供

	提供日	件 名
1	4 月 22 日	もっと知りたい、びわ湖のこと びわ湖の「ヨシ」って いいね！2 好評につき、第二弾を草津近鉄にて開催します！
2	4 月 27 日	コイ科魚類の一種「ツチフキ」日本で初繁殖認定 これを記念して、琵琶湖博物館生まれのツチフキのトピック展示の開催決定
3	5 月 19 日	第 30 回琵琶湖博物館企画展示 「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」開催のお知らせ
4	5 月 24 日	琵琶湖博物館の総合研究の成果が『自然・生業・自然観—琵琶湖の地域環境史—』として 発刊されました
5	6 月 9 日	琵琶湖で捕獲されたチョウザメの展示を始めます！
6	6 月 14 日	第 14 期滋賀県立琵琶湖博物館協議会委員を募集します
7	6 月 21 日	<記者向け> 大阪府淀川水系で新たな国内外来生物・ミナミアカヒレタビラを初確認
8	6 月 28 日	7 月 1 日（金）は琵琶湖の日！ 1 年に 1 度の自然現象「琵琶湖の深呼吸」をテーマとした夏にぴったりのひんやりメニ ュー「琵琶湖の深呼吸ソーダ」 琵琶湖博物館内レストラン「にほのうみ」にて販売開始
9	7 月 6 日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和 4 年度第 1 回会議を開催します
10	7 月 7 日	琵琶湖博物館へのご寄附にかかる目録贈呈式を開催します（Youtuber マーシー）
11	7 月 7 日	水族トピック展示 夏休み特別企画 2022 「滋賀にいる水生昆虫」展を開催します！
12	7 月 7 日	<滋賀県立琵琶湖博物館 B 展示室>第 12 回学芸員のこだわり展示 必見です！！ 大人気浮世絵師、歌川広重の描く大津
13	7 月 12 日	「7 月 16 日企画展示「チョウ展」オープン」に伴う報道関係者様向け内覧会 7 月 15 日 のご案内
14	7 月 13 日	日本最大、見えないミジンコ「ノロ」の生体展示を始めました
15	7 月 22 日	小学生向けのワークショップを開催～琵琶湖の小さな生きもの～ SCREEN と琵琶湖博物 館が共催
16	8 月 2 日	淡水にもクラゲがいる！「マミズクラゲ」を観察しよう
17	8 月 2 日	森林環境学習「やまのこ」の感想文を用いてプログラム効果を簡易に測定する方法を開 発しました
18	8 月 18 日	滋賀県立琵琶湖博物館 第 30 回企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」 の来場者数が 3 万人を突破しました！！
19	8 月 29 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（日本電気硝子(株)）

	提供日	件 名
20	9 月 9 日	〈情報解禁〉 大阪府淀川水系で新たな国内外来生物・ミナミアカヒレタビラを初確認
21	9 月 15 日	福井県年縞博物館にて琵琶湖博物館で実施されている企画展示「チョウ展」に関する所蔵品を展示します！
22	9 月 16 日	指定外来種・スクミリンゴガイの繁殖を滋賀県北部で初発見 発見者は長浜市木之本町の小学生
23	9 月 20 日	滋賀県立琵琶湖博物館 第 30 回企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」の 来場者数が 5 万人を突破しました！！
24	9 月 22 日	琵琶湖博物館ブックレット 16 『琵琶湖の森の 40 万年史 —花粉が語るものがたり—』を出版しました
25	9 月 22 日	ナガレモンイワナ（イワナ特殊斑紋集団）の常設展示を日本で初めて開始します！
26	10 月 5 日	琵琶湖博物館への協賛にかかる目録贈呈式を開催します（滋賀県環境保全協会）
27	10 月 13 日	滋賀県立琵琶湖博物館「びわ博フェス 2022」を開催します
28	10 月 14 日	琵琶湖博物館 10 月 18 日（火）より事前予約制を廃止
29	10 月 21 日	風景画家ブライアン・ウィリアムズ氏による絵画解説 『「琵琶湖の四季」を語る』を開催します！
30	10 月 26 日	第 30 回企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」来場者数 7 万人達成セレモニーを開催します！
31	10 月 31 日	滋賀県立琵琶湖博物館 第 30 回企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」の来場者数が 7 万人を突破しました！！
32	11 月 4 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（ダイフク）
33	11 月 14 日	琵琶湖地域の「地域の力」に視野においた研究成果『水といきる地域の力—琵琶湖・太湖の比較から』発刊されました
34	11 月 17 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（ブリヂストン彦根工場）
35	11 月 17 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（滋賀スバル自動車）
36	11 月 22 日	ナウマンゾウの 100 年に渡る研究成果のまとめが海外誌 Historical Biology (Online 版) に公表されました
37	11 月 22 日	第 30 回企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」が歴代最高来場者達成！あなたの「推しチョウ」はどれ？滋賀県の人気 No. 1 チョウを選ぶ B. S. P 総選挙の結果発表！
38	11 月 29 日	琵琶湖博物館 親子で楽しめる「謎解きクイズラリー」12 月 1 日（木）より開催！～正解者にはオリジナルグッズ「お魚ダジャレミニ便箋」をプレゼント～
39	11 月 29 日	淡海こどもエコクラブ 壁新聞コンクールを開催します！
40	12 月 1 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（ピクテ・ジャパン）
41	12 月 22 日	ナウマンゾウの 100 年に渡る研究成果のまとめが琵琶湖博物館研究報告第 35 号に公表されました
42	1 月 4 日	「ウサギギギ・ネコギギ」を水族トピック展示にて展示します！

	提供日	件 名
43	1 月 6 日	滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和 4 年度第 2 回会議を開催します
44	1 月 10 日	滋賀県立琵琶湖博物館令和 4 年度新琵琶湖学セミナー 「モノを観る・モノを分ける——なぜ分けることで世界を理解しようとするのか？」を開催します
45	1 月 13 日	“生物系エンターテイナー”が作成した LINE スタンプの売り上げを琵琶湖博物館にご寄付いただきます！
46	1 月 17 日	総重量約 5kg！琵琶湖の固有種「ビワマス」と外来種「ブラックバス」を使った「湖の幸の天井」特別デカ盛りメニューを琵琶湖博物館内レストラン「にほのうみ」にて販売開始
47	1 月 26 日	トピック展示「トンボ 100 大作戦～滋賀のトンボを救え！」を開催します
48	1 月 27 日	滋賀ふるさと観光大使を務める西川貴教さんが琵琶湖博物館の一日館長に就任！ 2 月 11 日（土）に特別イベントを開催
49	1 月 31 日	<滋賀県立琵琶湖博物館 B 展示室>第 15 回学芸員のこだわり展示 初公開！ 琵琶湖で使われたモロコザオ
50	1 月 31 日	琵琶湖博物館の収蔵資料データベース 考古資料の公開を開始しました
51	2 月 2 日	近年日本に侵入し分布を広げている外来種ミズタクチビルケイソウが近畿地方で初めて安曇川でみつけられました
52	2 月 9 日	琵琶湖岸の砂浜に 45 科 341 種の甲虫が 生息することが新たに分かりました
53	2 月 10 日	公益社団法人 滋賀県獣医師会／滋賀県立 琵琶湖博物館 共催 令和 4 年度 野生動物講演会「野生鳥獣の命との向きあいから～救護と駆除の現場から～」開催のご案内
54	2 月 10 日	大型水槽の破損による水族展示室閉室のお知らせ
55	2 月 11 日	水族展示室閉室に伴う観覧料の減免について
56	3 月 3 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（オーミック）
57	3 月 3 日	水族展示室ふれあい水槽における亀裂確認について
58	3 月 9 日	琵琶湖博物館に対する御寄附にかかる感謝状の贈呈式を開催します（4 社）
59	3 月 9 日	「100 年ぶりの再発見！滋賀県産ミナミヌマエビ」を水族トピック展示として展示します！
60	3 月 9 日	琵琶湖博物館学芸員の新著『伝承と現代－民俗学の視点と可能性』が刊行されました
61	3 月 9 日	「びわ湖の“ヨシ”って いいね！」を開催します！ 滋賀が誇るよし笛奏者：近藤ゆみ子氏によるコンサートも同時開催！
62	3 月 10 日	滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会を開催します
63	3 月 17 日	琵琶湖博物館収蔵資料の「北比良の石屋用具」が滋賀県の有形民俗文化財に指定されました。
64	3 月 22 日	立命館守山中学校の子どもたちよりびわ博にご寄附をいただきました！
65	3 月 27 日	滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会第 2 回会議をオンラインで開催します
66	3 月 29 日	ギャラリー展「プッカプカ 『美』 小生物展」を開催します！

7) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者	取材日
4	20	おうみ発 630 ニュース	ギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう。」	NHK 大津	美濃部	4 月 6 日
4	20	おうみ 845 ニュース	ギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう。」	NHK 大津	美濃部	4 月 6 日
4	25	アミンチュ TV「クイズ 滋賀道」	湖南省市 ゾウの足跡化石	びわ湖放送	里口	4 月 14 日
5	8	ニュース	びわこのちからチャンネル	NHK 大津	福井	
5	10	夕方のニュース	チョウザメ	びわ湖放送	田畑	5 月 10 日
5	10	「キャスト」内ニュース	チョウザメ	朝日放送	田畑	5 月 10 日
5	10	スーパー J チャンネル	チョウザメ	テレビ朝日	田畑	5 月 10 日
5	10	報道ランナー	チョウザメ	関西テレビ	田畑	5 月 10 日
5	10	「よんちゃん TV」内ニュース	チョウザメ	毎日放送	田畑	5 月 10 日
5	11	「よんちゃん TV」	琵琶湖まるわかり博物館	毎日放送	田畑	5 月 11 日
5	11	旅番組「宮川一朗太のおっ！さんぽ」	トンネル水槽、ビワマス、琵琶湖八珍	BS ジャパン ネクスト	川瀬	4 月 27 日
5	11	関西のニュース	チョウザメ	NHK 大阪		
5	16	「サスティナ！」	SDGs 番組	フジテレビ系	川瀬、福井	
5	17	ニュース滋賀いろ	「ツチフキ」 発繁殖認定	びわ湖放送	川瀬	5 月 14 日
6	6	「よんちゃん TV」内ニュース	バイカル湖との交流	毎日放送	田畑	5 月 24、 27 日
6	10 - 13	おうみ！かわら版（滋賀）	画になる汽船	ZTV	島本、川瀬	6 月 4 日
6	14	お昼のニュース	チョウザメ展示開始	NHK 大津	川瀬	6 月 14 日
6	14	おうみ発 630 ニュース	チョウザメ展示開始	NHK 大津	川瀬	6 月 14 日
6	14	夕方のニュース	チョウザメ展示開始	関西テレビ	川瀬	6 月 14 日
6	14	お昼のニュース	チョウザメ展示開始	毎日放送	川瀬	6 月 14 日
6	14	夕方のニュース	チョウザメ展示開始	毎日放送	川瀬	6 月 14 日
6	18	ほっと関西サタデー 「ココホレ！関西」のコーナー	とれたてを食べよう！びわ湖で漁師グルメツアー 写真提供：「びわ湖の固有種」	NHK 総合 近畿	川瀬	6 月 13 日
6	22	めざまし 8	チョウザメ展示開始	フジテレビ	川瀬	6 月 21 日
7	9	サスティナ！		フジテレビ		
	？	おうみ発 630 ニュース	企画展示「チョウ展」	NHK 大津	八尋	7 月 22 日
7	13	おうみ発 630 ニュース	「ツチフキ」繁殖に成功	NHK 大阪	金尾	6 月 16 日
7	17	BBC ニュース	企画展示「チョウ展」	びわ湖放送	八尋	7 月 17 日
7	19	ニュース滋賀いろ	水生昆虫展示	びわ湖放送	金尾、吉川	7 月 19 日

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者	取材日
7	22	おうみ発 630 ニュース	もくべい造船所のイベント るい君の魚解説	NHK 大津	福井	7 月 22 日
7	22	ニュース滋賀いろ	もくべい造船所のイベント るい君の魚解説	びわ湖放送	福井	7 月 22 日
7	29	かんさい情報ネット ten.	チョウザメ、外来種問題	読売テレビ	川瀬	7 月 20 日
7	26	おうみ発 630 ニュース	YouTuber マーシーさん	NHK 大津	川瀬	7 月 2 日
7	26	セブンルール	写真提供：「ビワコオオナマ ズ」	関西 TV・フジ テレビ系全 国ネット	川瀬	
7	27	ほっと関西	YouTuber マーシーさん	NHK 大阪	川瀬	7 月 2 日
7	28	ニュース LIVE! ゆう 5 時	YouTube チャンネル 土器・古代米、水族、フナズ シ、ハッタミミズ	NHK 総合（報 道部） 全国	妹尾、川 瀬、橋本、 大塚	7 月 22 日
		おうみ発 630 ニュース	企画展示「チョウ展」	NHK 大津	八尋	7 月 22 日
8	2	おうみ発 630 ニュース	「ツチフキ」繁殖に成功	NHK 大阪	金尾	
8	2	おうみ 845 ニュース	「ツチフキ」繁殖に成功	NHK 大阪	金尾	
8	5	おはよう関西				
8	8	かんさい情報ネット ten.	川ちゃんの水族館紹介	読売テレビ	川瀬	8 月 3 日
8	9	おうみ発 630 ニュース	マミズクラゲ	NHK 大津	鈴木	8 月 9 日
8	25		マミズクラゲ	NHK 関西ラジオ	鈴木	
8	10～ 12	おうみ！かわら版（滋 賀）	企画展示「チョウ展」	ZTV	八尋	8 月 6 日
9	1	巨大魚&幻の魚を追 え！関西の魚を大調 査 第3弾	ビワマス（情報の監修）	NHK 大阪		
10	1	オールナイトニッポ ン	イナズマロックフェス関連	ニッポン放 送ラジオ	福井	
10	11	沼にハマって聞いて みた	黒川琉伊君が琵琶湖の淡水魚 の魅力を紹介（情報の監修）	NHKE テレ	川瀬	
10	22	BBC ニュース	びわ博フェス 2022	びわ湖放送	楊平、川瀬	10 月 22 日
10	25	BBC ニュース	ブライアンさん絵画	びわ湖放送	川瀬	10 月 22 日
10	24	「Cheeky's a GoGo!」	水族展示室	BS よしもと	福井	
10	26	中部ネイチャーシリ ーズ 伊吹山「花と生 きものたちの楽園」	伊吹山	NHK 名古屋	中井、里 口	
10	25	かんさい情報ネット ten.	青いスジエビをるい君が発見 写真提供：「スジエビ」	読売テレビ	川瀬	10 月 25 日
11	8	ドラマ「科捜研の女」	A・C 展示室	朝日放送	福井	10 月 6 日

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者	取材日
11	16	報道ランナー	黒川琉伊君 魚の動画（高橋館長・金尾滋史主任学芸員のコメント）	関西テレビ	高橋館長 金尾	11 月 10 日
11	11	NHK ラジオ深夜便「日本列島くらしのたより」コーナー	企画展示「チョウ展」	NHK ラジオ第一	八尋	
11	2	ますおか岡田ええもん WOW！	琵琶湖の魚	BSJapanext	川瀬	
11	16	報道ランナー～田村淳とワガミチさん～	黒川琉伊君関連の琵琶湖の写真	関西テレビ		
1	5	BBC ニュース	ウサギギギ	びわ湖放送	田畑	1 月 4 日
1	5	京都新聞ニュース	ウサギギギ	FM 滋賀	田畑	
1	16	突然ですが占ってもいいですか？	写真提供：「ビワマス」	フジテレビ	川瀬	
1	30	おうみ発 630 ニュース	「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会」パネリスト亀田佳代子副館長	NHK 大津	亀田副館長	
1	30	おうみ 845 ニュース	「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会」パネリスト亀田佳代子副館長	NHK 大津	亀田副館長	
2	10	おうみ発 630 ニュース	水槽破損	NHK 大津		
2	10	おうみ 845 ニュース	水槽破損	NHK 大津		
2	10	よんちゃん TV	水槽破損	毎日放送		
2	10	ニュース	水槽破損	朝日放送		
2	10	ニュース	水槽破損	関西テレビ		
2	10	ニュース	水槽破損	読売テレビ		
2	10	ニュース滋賀いろ	水槽破損	びわ湖放送		
2	11	おうみ発 630 ニュース	西川貴教さん一日館長	NHK 大津		
2	11	おうみ 845 ニュース	西川貴教さん一日館長	NHK 大津		
2	20	おうみ発 630 ニュース	三日月知事水槽破損の原因究明を指示	NHK 大津		
2	20	おうみ 845 ニュース	三日月知事水槽破損の原因究明を指示	NHK 大津		
2	17	ニュースエブリイ	ヨーロッパオオナマズ	日本テレビ	米田	
3	1	おうみ発 630 ニュース	外来種ミズワタクチビルケイソウ	NHK 大津	大塚	
3	1	おうみ 845 ニュース	外来種ミズワタクチビルケイソウ	NHK 大津	大塚	
3	9	おうみ発 630 ニュース	水槽破損など追加補正予算案提案	NHK 大津		

放送日		番組名	内 容	媒 体	担当者	取材日
3	9	おうみ845 ニュース	水槽破損など追加補正予算案 提案	NHK 大津		
3	10	おうみ発 630「しがトク」	バス天井	NHK 大津	初宿	2月16日
3	11	特番「びわこ大図鑑：知っているようで知らないびわこのヒミツ」	針江のカバタ・フナズシ・外来植物・琵琶湖の魚	読売テレビ	楊平、橋本、中井、川瀬、福井	1月12日
3	13	BBC ニュース	第三者委員会	びわ湖放送		
3	13	おうみ発 630 ニュース	ミナミヌマエビ展示	NHK 大津	田畑	3月13日
3		関西ジャニ博	エリ・コアユ・ウキゴケ・ワカサギ	毎日放送	川瀬、加藤	2月20日
3	16	おうみ発 630 ニュース	ミナミヌマエビ展示	NHK 大津	田畑	
3	16	おうみ845 ニュース	ミナミヌマエビ展示	NHK 大津	田畑	
3	26	所さんの目がテン	琵琶湖博の資料	日本テレビ	島本	2月13日

8) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	2	琵琶湖博物館新たな動画続々 ユニークな研究発信 担当者のコメント	読売新聞
4	3	県友好都市と企画 オンラインで世界交流 琵琶湖博や甲賀忍者ツアー	読売新聞
4	5	[びわ博こだわり展示の裏話] <102>生き物の名前のラベル変更 灯台もと暗しな出来事も 金尾滋史主任学芸員	毎日新聞
4	8	[フィールドへびわ博いちおし] <1>天然記念物になったゾウ化石 全国でも貴重1体分の骨 高橋啓一館長	京都新聞
4	9	[湖岸より] <423>ムラ、ノラ、ヤマの暮らしと民俗 加藤秀雄学芸員	中日新聞
4	10	[琵琶湖の魚たち] カムルチー もう一つの外来生物問題 米田一紀主査	産経新聞
4	10	水草ガラスに青の輝き 大津の作家琵琶湖色の作品完成 琵琶湖博物館や県内外の百貨店などに作品を出品	読売新聞
4	13	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 新しい琵琶湖へ標本調査<1> 博物館というタイムマシン 川瀬成吾主任学芸員	朝日新聞
4	15	寒ぶなのふなずし食べたい!? 真冬に玄米漬け? 県立琵琶湖博物館・橋本さんら江戸時代の製法試し背景探る	中日新聞
4	17	学芸員「体当たり企画」好評 琵琶湖博物館動画再生数急増 福井ゆめ主任主事のコメント	産経新聞
4	19	[びわ博こだわり展示の裏話] <103>県面積の半分琵琶湖ではなく森 組合など協力魅力を紹介 美濃部諭子主任技師	毎日新聞
4	22	[フィールドへびわ博いちおし] <2>野洲川の河原を歩いて見れば ゾウ足跡や樹根の化石 山川千代美上席総括学芸員	京都新聞
4	22	[湖国_人・まち] 地産材で製作、各所でイベント 琵琶湖博物館のギャラリー一展示「森へ行こう、森と生きよう。」で机として活用	読売新聞(しが県民情報)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	23	[湖岸より] <424>弥生時代の炊飯方法 妹尾裕介主任学芸員	中日新聞
4	25	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 新しい琵琶湖へ標本調査<2> シーボルト固有種持ち帰り 川瀬成吾主任学芸員	朝日新聞
4	28	[遊・You・友] 講演会「トキもウナギも絶滅危惧種 湖国の生き物は大丈夫？」中井克樹特別研究員 開催案内	朝日新聞
4	29	生物のゆりかごにヨシ「びわ湖の『ヨシ』っていいね！2」草津市の近鉄百貨店で開催	読売新聞
4	30	[湖岸より] <425>「適正」な沈水植物の量とは 芳賀裕樹総括学芸員	中日新聞
5	1	ヨシ使い雑貨作り 環境学習の催し環境学習センターが企画	京都新聞
5	3	[びわ博こだわり展示の裏話] <104>樹冠トレイルで樹木観察 変わりゆく季節楽しんで 林竜馬専門学芸員	毎日新聞
5	5	琵琶湖博物館小冊子人気 自然、歴史、文化…研究成果楽しく	読売新聞
5	6	県立5施設 こどもの日にぎわう 18歳未満と保護者無料に	中日新聞
5	10	琵琶湖にチョウザメ 定置網に観賞用を放流か 担当者のコメント	読売新聞
5	10	琵琶湖にチョウザメ	北國新聞 神戸新聞
5	11	琵琶湖にチョウザメ	デーリー東北 秋田魁新報 福井新聞 大阪日日新聞 中国新聞 高知新聞 佐賀新聞
5	11	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 新しい琵琶湖へ標本調査<3> スウェーデンに驚く魚類相 川瀬成吾主任学芸員	朝日新聞
5	11	琵琶湖にチョウザメ 捨てられた？逃げた？ 米田一紀主査のコメント	中日新聞
5	11	琵琶湖にチョウザメ ペット巨大化で放流か 「生態系に悪影響も」 田畑諒一学芸員のコメント	産経新聞
5	11	チョウザメ1匹捕獲 琵琶博発表 体長約1メートルの成魚 放流か 生態系影響 注意を 米田一紀主査のコメント	京都新聞
5	12	[青鉛筆] チョウザメ捕獲 琵琶湖博物館が保護	朝日新聞
5	12	チョウザメ捕獲 ペットを放流か 琵琶湖体長1メートル 担当者のコメント	毎日新聞
5	12	[ひと往来] 多様な食文化調査尽きず 琵琶湖博物館への異動が転機 「滋賀の食事文化研究会」桑村邦彦会長	京都新聞
5	13	[フィールドへびわ博いちおし] <3>カワウがいた森のいま 共生目指し区分け対策 亀田佳代子副館長	京都新聞
5	13	県立琵琶湖博物館 4本投稿3カ月で計20万回超再生 学芸員の実践動画が人気 妹尾裕介主任学芸員の弥生時代のコメの炊き方再現出は投稿直後に人気急上昇 福井ゆめ主任主事のコメント	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	14	〔湖岸より〕〈426〉琵琶湖の湖面は灰色になったか？里口保文上席総括学芸員	中日新聞
5	15	〔琵琶湖の魚たち〕琵琶湖に暮らす2種のコイ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
5	17	〔びわ博こだわり展示の裏話〕〈105〉～あなたは植物化石の種類がわかるかな～ 太古の森復元地道な作業 山川千代美上席総括学芸員	毎日新聞
5	22	〔湖国の現場 2022〕希少魚で訴える環境 琵琶湖博物館のツチフキ「初繁殖認定」で記念展示	中日新聞
5	22	〔よし笛〕宇治川ラインを絵本に 北村美香特別研究員	京都新聞
5	23	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕新しい琵琶湖へ標本調査〈3〉ゼゼラ新種記載 石川の功績 川瀬成吾主任学芸員	朝日新聞
5	27	〔フィールドへびわ博いちおし〕〈4〉「はしかけ」と微小生物研究 日本新産ケイソウ発見 大塚泰介総括学芸員	京都新聞
5	28	〔湖岸より〕〈427〉融通無碍な自然観 橋本道範専門学芸員	中日新聞
5	31	〔びわ博こだわり展示の裏話〕〈106〉ボーリング調査と北湖 泥層明かす40万年の歴史 里口保文上席総括学芸員	毎日新聞
6	3	〔ニュース×子育て〕生態系乱す観賞魚放流 大きさ、寿命調べ飼育を 川瀬成吾主任学芸員のコメント	中日新聞 中日新聞(名古屋) 北陸中日新聞(金沢)
6	3	〔ニュース×子育て〕生態系乱す観賞魚放流 大きさ、寿命調べ飼育を 川瀬成吾主任学芸員のコメント	日刊県民福井
6	4	あす植樹祭 滋賀で47年ぶり えきまちテラス長浜、琵琶湖博物館、忍者の里プララをサテライト会場として中継	京都新聞
6	4	ふなずし仕込み昔は冬！？今は夏場が定番だけど… 実際にふなずしを作って実験、橋本道範専門学芸員	京都新聞(夕刊)
6	5	〔館物語〕〈6〉人と湖、関わり学ぶ 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員のコメント、企画展示「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」の紹介、「自然・正業・自然観-琵琶湖の地域環境史-」発刊のお知らせ	大阪日日新聞
6	5	琵琶湖にチョウザメ 定置網にかかり捕獲 ペットをを放流か 担当者のコメント	紀伊民報(田辺)
6	6	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕琵琶湖固有種の歴史〈1〉特有の環境魚の進化たどる 田畑諒一学芸員	朝日新聞
6	6	絶滅危惧ツチフキ 初繁殖認定 琵琶湖博物館で記念展示 担当者の話	産経新聞
6	6	〔全国植樹祭〕湖国の豊かな緑、次代へ 若い力が式典運営支え サテライト3会場(琵琶湖博物館など)で生中継	京都新聞
6	6	森・水育む心湖国から未来へ 47年ぶり滋賀で全国植樹祭 両陛下、オンラインで出席 琵琶湖博物館など各地で関連イベント	京都新聞
6	8	企業のトンボ保全活動紹介 竜王でパネル展示	京都新聞
6	10	〔フィールドへびわ博いちおし〕〈5〉琵琶湖は高い場所にある？ 標高差利用し水力発電 芳賀裕樹総括学芸員	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	11	[湖岸より] <428>化石林からメタセコイアの湿地林を復元 山川千代美上席総括学芸員	中日新聞
6	11	元はペット？捕獲のチョウザメ公開 琵琶湖博物館 14 日から展示	中日新聞
6	12	湖と人 関係性を出版 琵琶博が「地域環境史」橋本道範専門学芸員を編者に	毎日新聞
6	12	[琵琶湖の魚たち] ドンコ 動かざること山のごとし 川瀬成吾主任学芸員	産経新聞
6	12	[凡語] 琵琶湖博物館でユーチューバー・かほさん講演「自然をシェアしたい」	京都新聞
6	14	[びわ博こだわり展示の裏話] <107>野生のカヤネズミに会いに 時経ても感動忘れられず 中村久美子主任学芸員	毎日新聞
6	14	捕獲のチョウザメ展示 琵琶湖博物館飼育の大切さ訴える	読売新聞
6	14	琵琶湖に放した？逃げた？捕獲チョウザメ展示へ 琵琶博できょうから「飼う責任問いかけ」 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	京都新聞
6	14	[ガイド] 講演会「信濃川の淡水魚-知って、守ろう地域の自然」川瀬成吾主任学芸員	朝日新聞(新潟)
6	14	[かけ橋] 琵琶湖博物館が「ペステル」という品種のチョウザメを一般公開	神戸新聞(夕刊)
6	15	捕獲のチョウザメ展示 琵琶湖博物館「最後まで責任持つて」 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	産経新聞
6	15	[今日のノート] 魚に罪はない 捕獲のチョウザメは琵琶湖博物館に引き取られ 14 日から展示	読売新聞
6	15	本来いない琵琶湖で捕獲チョウザメ公開 琵琶湖博物館	山形新聞(山形)
6	15	チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	秋田魁新報(秋田)
6	15	チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	山梨日日新聞(甲府)
6	15	“棲息しないはずのチョウザメ” 一般公開 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	スポーツニッポン(東京)
6	15	チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館	千葉日報(千葉)
6	15	チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	紀州新聞(御坊)
6	15	チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	紀伊民報(田辺)
6	15	“棲息しないはずのチョウザメ” 一般公開 5 月琵琶湖で捕獲 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	新報スポニチ(那覇)
6	16	琵琶湖には生息しないはず… 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	信濃毎日新聞(長野)(夕刊)
6	18	琵琶湖で捕獲のチョウザメ琵琶湖博物館で展示 滋賀、外来種問題を啓発	福井新聞(福井)
6	18	琵琶湖に外来種放さんにとって～ 先月捕獲のチョウザメ、びわ博で公開 ペットだった？飼う責任見て考えて 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
6	19	[自然環境] 人間に押し寄せる獣 関わり手不足生物多様性の危機も 中井克樹特別研究員の話	毎日新聞
6	20	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖固有種の歴史<2> 個体増 多くが 40 万年前以降 田畑諒一学芸員	朝日新聞
6	20	千曲 ため池のクラゲ「珍しい個体」信大院生ら研究 長い生殖腺 泳ぎ方にも特徴 東北大、琵琶湖博物館、海洋研究開発機構、米スミソニアン博物館などとの共同研究	信濃毎日新聞 (長野)(夕刊)
6	22	チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	大阪日日新聞 (大阪)
6	23	利用者目線で魅力アップ 琵琶湖博協議会委員 2 人募る	読売新聞
6	24	[フィールドへびわ博いちおし] <6>みんなで調べるタンポポ 2600 点採取多様な成育環境学芸員 芦谷美奈子専門学芸員	京都新聞
6	25	[湖岸より] <429>農山漁村地域と観光 中川信次主任主査	中日新聞
6	25	中学生、琵琶湖の魚絵本に 大津・志賀中 3 年黒川さん色鉛筆で鮮やかに描く 2 歳の頃から琵琶湖博物館に通い始め幼少期はほぼ毎日通った	京都新聞
6	26	ペット遺棄 抑止策に期待 担当者の話	京都新聞
6	28	[びわ博こだわり展示の裏話] <108>琵琶湖大洪水展示 見上げ、見下ろす災害 島本多敬学芸員	毎日新聞
6	28	琵琶湖博物館 チョウザメを一般公開 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	奈良新聞(奈良)
7	1	琵琶湖の深呼吸シュワット 今日から販売 琵琶湖博物館 担当者のコメント	読売新聞
7	1	「琵琶湖の深呼吸」ソーダ再現、販売 琵琶博 担当者のコメント	京都新聞
7	2	琵琶湖の深呼吸ソーダに 「全層循環」再現 琵琶湖博物館で販売 担当者のコメント	産経新聞
7	3	[京都の動物園] イチモンジタナゴを守れ！京都市動物園が琵琶湖博物館の助言で今年度 100 尾を超える稚魚が孵化	産経新聞
7	4	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 琵琶湖固有種の歴史<3> 60 年代の標本群から新発見 田畑諒一学芸員	朝日新聞
7	5	あふれる魚愛 200 色で絵本 大津の黒川さん「琵琶湖の自然守りたい」	朝日新聞
7	5	特別展「化石ハンター展」開催広告 協力：琵琶湖博物館	日本経済新聞
7	6	琵琶湖の淡水魚紹介 滋賀のお魚博士黒川さん出版記念公園	中日新聞
7	8	[フィールドへびわ博いちおし] <7>心動かす植物と自然の香り 身近な薬草で生活を豊かに はしかけ「緑のくすり箱」代表 吉野まゆみ	京都新聞
7	9	[湖岸より] <430>バイカルアザランの血液検査 松岡由子主任学芸員	中日新聞
7	10	[琵琶湖の魚たち] 希少種？外来種？オヤニラミ 田畑諒一学芸員	産経新聞
7	13	3 代の広重描く「大津」見比べ琵琶博で学芸員こだわり展示 妹尾裕介主任学芸員のコメント	産経新聞
7	15	外来魚の実態 解剖で学ぶ 琵琶湖博物館で彦根東高生	中日新聞
7	16	希少なチョウ標本ずらり 琵琶湖博物館きょうから企画展 担当者のコメント	読売新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	16	不思議なチョウ大集合 きょうから琵琶博で企画展	産経新聞
7	17	[わたシガ名探偵!] 湖国の田んぼ「魚のゆりかご」なぜ? えさ豊富存続へ取り組み 金尾滋史主任学芸員の話	中日新聞
7	18	[列島北から南から] 「琵琶湖の深呼吸」をテーマにしたソーダを販売中	産経新聞
7	18	「琵琶湖の深呼吸」をテーマにしたソーダを販売中	産経新聞(山梨・長野) 大阪日日新聞(大阪)
7	19	県内のチョウ 多種多彩 琵琶湖博物館標本や大型模型を展示 八尋克郎総括学芸員の話	中日新聞
7	19	[美術館・博物館] 琵琶湖博物館催し物案内(「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」)	朝日新聞(大阪)(夕刊)
7	21	3人の広重見比べて 琵琶湖博物館	読売新聞
7	21	[列島北から南から] 「琵琶湖の深呼吸」をテーマにしたソーダを販売中	日刊県民福井(福井)
7	21	チョウ標本1万3千点 琵琶博企画展「布藤コレクション」中心に 湖国の生息種ほぼ網羅「分布域の変遷分かる」 八尋克郎総括学芸員の話	京都新聞
7	22	「ツチフキ」国内初繁殖 琵琶湖博物館 担当者のコメント	読売新聞
7	22	[フィールドへびわ博いちおし] <8>アサギマダラの長距離移動 台湾から比良山に飛来も 八尋克郎総括学芸員	京都新聞
7	22	5年ぶり盛大に! あす草津ヨシ松明まつり 琵琶湖博物館特設会場で開催	毎日新聞
7	22	[遊覧選] 「草津ヨシ松明まつり」琵琶湖博物館特設会場で開催	中日新聞
7	22	滋賀の魅力走って感じて びわ湖マラソンきょうからランナー募集 大津市皇子山陸上競技場をスタート琵琶湖博物館のある烏丸半島をゴール	産経新聞
7	23	[湖岸より] <431>滋賀県のチョウの分布の移り変わり 八尋克郎総括学芸員	中日新聞
7	24	見えないミジンコ 琵琶博で生体展示 博物館のコメント	産経新聞
7	24	「琵琶湖の深呼吸」をテーマにしたソーダを販売中	四国新聞(高松)
7	27	炎の祭典いきおいよく 松明まつり花火も上がり歓声 琵琶湖博物館特設会場で開催	毎日新聞
7	29	「お魚博士」黒川さん教えて!	中日新聞
7	30	[湖岸より] <432>ホンモロコの再生産を追って 米田一紀主査	中日新聞
7	31	青シロップ+ソーダ「琵琶湖の深呼吸」みたい… 琵琶湖博物館のレストラン「にほのうみ」の夏限定新メニュー 担当者のコメント	毎日新聞
8	1	[新近江百景] <224>高木の動植物を間近で観察 琵琶湖博物館「樹冠トレイル」(草津市)	中日新聞(びわこ新聞)
8	2	[びわ博こだわり展示の裏話] <109>多くの実物標本で伝えるチョウの魅力 本物迫る多様性と面白さ 八尋克郎総括学芸員	毎日新聞
8	2	専門家13人学術委員に川瀬成吾主任学芸員 MLGs 分析・評価へ初会合	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	4	[ひと往来] 琵琶湖の魚を紹介した本を出版した志賀中3年 黒川琉伊さん 湖に少しでも恩返しを	京都新聞
8	5	水族トピック展示夏休み特別企画 2022 「滋賀にいる水生昆虫」展 開催案内	読売新聞(福井)
8	5	夏休み特別企画「滋賀にいる水生昆虫」展 開催案内	京都新聞
8	6	ツチフキ初繁殖 琵琶湖博物館で記念展示	読売新聞(札幌・東京・高岡・大阪・福岡)(夕刊)
8	10	琵琶湖の魚僕にお任せ 好き高じて教室・絵本出版 魚にのめり込んだきっかけは2歳半から通った琵琶湖博物館 黒川君	読売新聞
8	11	[未来へつなぐ] 遺族の願い平和祈念館 琵琶湖博物館で総括学芸員を務めた前知事の嘉田由紀子参議院議員も「集めた資料は個人史、地域史として大変貴重」とその思いを継承	読売新聞
8	12	[フィールドへびわ博いちおし] <9>川は地域水環境のシンボル 水遊びや肥料暮らし支え 楊平専門学芸員	京都新聞
8	12	[まちかど] おおつ市民環境塾講座4「琵琶湖まわりの外来種のいま」講師 中井克樹特別研究員	京都新聞
8	13	[湖岸より] <433>森やヨシ原の花粉を数える 林竜馬専門学芸員	中日新聞
8	14	びわ博 美しきチョウの世界 彦根・布藤さん寄贈1万1000点標本など 八尋克郎総括学芸員の話	毎日新聞
8	14	県内で生息の水生昆虫展も 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	毎日新聞
8	14	珍しいよマミズクラゲ 涼感漂う展示 鈴木隆仁主任学芸員の話	中日新聞
8	14	[よし笛] 写真展でつながるご縁 北村美香特別研究員	京都新聞
8	19	食守る隠れた“伴走者” 「田んぼの生きもの調査」に脚光 琵琶湖博物館のコメント	日本農業新聞(東京)
8	23	[びわ博こだわり展示の裏話] <110>カイツブリの巣作りに隠された苦労 水中に材料 事前に準備 松岡由子主任学芸員	毎日新聞
8	24	淡水のクラゲ琵琶博で展示 鈴木隆仁主任学芸員のコメント	産経新聞
8	25	ツチフキ初繁殖 琵琶湖博物館で記念展示	読売新聞(広島・岡山・徳島)
8	26	[フィールドへびわ博いちおし] <10>身近な水の調査 地下水、水場 生活の中に はしかけ「水と暮らし研究会」寺澤孝之	京都新聞
8	26	国際シンポジウム「未来につなぐ湖沼の価値」会場：琵琶湖博物館	読売新聞
8	27	[湖岸より] <434>鵜飼いのウミウはオスが多い？ 亀田佳代子副館長	中日新聞
8	29	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水田地帯の生物多様性<1>田んぼで繁殖難しい時代に 金尾滋史主任学芸員	朝日新聞
8	30	水色のカエル みつけた！大事に飼育みんなで餌取り夢中 大津・保育園の畑 色素変異の個体 琵琶湖博物館に問い合わせ	朝日新聞
8	31	乗船60万人 うみのこカレー再販 6～26日セブンイレブン琵琶湖博物館で常設展示が始まるのに合わせ商品化	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	1	〔県版王プラス〕 魚好きはじける絵本を黒川君が出版 魚にのめり込んだきっかけは琵琶湖博物館	読売新聞
9	3	田んぼの生きものの調査 何種類がすんでいるか 琵琶湖博物館によると 6305 種	日本農業新聞 (東京)
9	4	祝！60 万人乗船うみのこカレー 海の子の常設展示が琵琶湖博物館でオープンするのを記念し店舗限定で販売	産経新聞
9	5	水色アマガエル発見 琵琶湖博物館に問い合わせ 金尾滋史主任学芸員のコメント	中日新聞
9	6	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 <111>プランクトンの浮き沈み ガス胞、殻の違いで見分け 鈴木隆仁主任学芸員	毎日新聞
9	6	ガチョウなぜ大津港に？ ガー子地域に愛され 琵琶湖博物館のコメント	読売新聞
9	6	〔美術館・博物館〕 琵琶湖博物館催し物案内（「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」）	朝日新聞(夕刊)
9	8	「命の木」防災の大切さ今に <写真資料提供：『室戸台風で倒壊した山田小学校』>	朝日新聞
9	9	〔フィールドへびわ博いちおし〕 <11>写真が繋ぐ過去・現在・未来 「今昔」様々な変化感じて 金尾滋史主任学芸員	京都新聞
9	10	〔湖岸より〕 <435>虫見板で田んぼの虫を観察 大塚泰介総括学芸員	中日新聞
9	10	青色アマガエル「きれい」 餌やりなど園児ら熱心に世話 琵琶湖博物館に問い合わせ	京都新聞
9	10	ミナミアカヒレタビラ 淀川で初確認 琵琶博「放流、絶対にやめて」琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	京都新聞
9	11	余呉湖での繁殖小学生が発見 稲の苗食べる指定外来種の貝 スクミリングガイ 中井克樹特別研究員の話	中日新聞
9	13	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕 水田地帯の生物多様性<2>魚が利用できるたんぼ減少 金尾滋史主任学芸員	朝日新聞
9	14	びわ湖放送「海と日本プロジェクト in 滋賀県」ツチフキの繁殖に取り組んだ琵琶湖博物館の思いとは？	毎日新聞
9	18	〔琵琶湖の魚たち〕 カワバタモロコ 名前は滋賀にもゆかり 金尾滋史主任学芸員	産経新聞
9	18	どんな生物が川にいるのかな 東近江市主催「おさかな調査隊」藤岡康弘特別研究員が説明	読売新聞
9	20	3 市町で倒木 県災害本部で報告 県の各部局情報を共有 琵琶湖博物館などの県立施設が閉館したことなどを報告	読売新聞
9	21	川の生物十数種類親子ら捕獲し観察 東近江でイベント「おさかな調査隊」藤岡康弘特別研究員が解説	中日新聞
9	21	滋賀の「こさかなクン」あふれる湖魚愛 1 冊の絵本に 琵琶湖博物館で魚愛が加速	毎日小学生新聞 (東京)
9	21	安藤忠雄さんもみとめたあふれる琵琶湖愛 魚 50 種 14 歳天然色絵本に 琵琶湖博物館で魚愛が加速	毎日新聞(夕刊) (大阪)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
9	21	あふれる魚愛絵本に 琵琶湖通い 4000 日 14 歳こごかなクン 琵琶湖博物館で魚愛が加速	毎日新聞(夕刊) (東京・名古屋)
9	23	[フィールドへびわ博いちおし] <12>琵琶湖流入河川の風景 多くの魚が遡上 ヤナ漁も 田畑諒一学芸員	京都新聞
9	24	[ニュースの門@滋賀] 生物多様性 琵琶湖と森 育む命 八尋克郎総括学芸員の話	読売新聞
9	24	[湖岸より] <436>湖流がもたらす湖岸動植物 大槻達郎主任学芸員	中日新聞
9	24	観光通じて環境保全 来月 15 日国際シンポを琵琶湖博物館で開催 ILEC が参加募る	中日新聞
9	26	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水田地帯の生物多様性<3>中山間地域 独自生物保全を 金尾滋史主任学芸員	朝日新聞
9	26	[ニュースの門@滋賀] 生物多様性 カヤネズミ ヨシ原と守る 中村久美子主任学芸員の話	読売新聞
9	26	指定外来種の貝初確認 余呉湖で小学生が発見 金尾滋史主任学芸員の話	産経新聞
9	26	すギョい魚愛絵本にギョ 琵琶湖通い 4000 日現場主義 琵琶湖博物館で魚愛が加速	毎日新聞(夕刊) (北九州)
9	27	[びわ博こだわり展示の裏話] <112>水くみ上げる龍尾車やバーチカルポンプ 人の力から機械化へ 加藤秀雄学芸員	毎日新聞
9	28	[ニュースの門@滋賀] 生物多様性 メダカ生息豊かさ象徴 金尾滋史主任学芸員の話	読売新聞
9	29	[ひと往来] 生物保全の思い広がれ 元飼育員関慎太郎さん	京都新聞
10	1	[湖岸より] <437>多様なつながり、大きな力 楊平専門学芸員	中日新聞
10	10	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水田地帯の生物多様性<4>魚のゆりかご つながり再生 金尾滋史主任学芸員	朝日新聞
10	12	[あちこち聖地] 琵琶湖 七色アーチ空と水面のアート 戸田孝特別研究員の話	読売新聞(夕刊)
10	12	琵琶湖ほとりに水族館を開いた 元飼育員関慎太郎さん	中日新聞(名古屋)
10	13	持続可能な湖沼管理 総会で活動方針議論 草津で国際環境委員会を琵琶湖博物館で開催	中日新聞
10	13	詠む人も、読む人も 野洲の歌人・馬淵兼一前副館長 結社創設へ	毎日新聞
10	14	[フィールドへびわ博いちおし] <13>微生物はどこにいる? 方法次第で簡単に観察 鈴木隆仁主任学芸員	京都新聞
10	14	NEC 我孫子事業所 絶滅危惧種ゼニタナゴ放流 企業緑地で生物多様性保全 琵琶湖博物館が霞ヶ浦で採取したゼニタナゴを保護この関東タイプの子孫を飼育	日刊工業新聞 (東京)
10	14	滋賀の MLG s 取り組み 専門家漁業や生物環境に厳しい評価 「よい」 13 項目中 1 つ 琵琶湖博物館のリニューアルや学習船「うみのこ」の新造などを通じ、多くの学習機会が確保されているとしている点が高評価	京都新聞
10	15	[湖岸より] <438>琵琶湖魚類学術研究の幕開け 川瀬成吾主任学芸員	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	15	琵琶湖博物館が事前予約廃止 18日から	中日新聞
10	15	県、警戒レベル1に引下げ琵琶湖博物館、事前予約廃止へ	朝日新聞
10	15	滋賀コロナ警戒レベル「1」に 琵琶湖博物館は18日から事前予約不要に	京都新聞
10	16	〔琵琶湖の魚たち〕 ぼてじゃこ代表 やりタナゴ 川瀬成吾主任学芸員	産経新聞
10	16	学生ら琵琶湖生かす エコソールズ提案 草津で国際シンポ琵琶湖博物館で開催	中日新聞
10	18	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 <113>石斧、伐採痕…ジオラマで暮らし体感 縄文の森細部まで「本物」 妹尾裕介主任学芸員	毎日新聞
10	18	琵琶湖博物館が事前予約廃止 コロナ感染者減少で	産経新聞
10	20	〔地域プラス〕 <4>土砂流出・水害の悩み 「砂の川」対策“奉行”設置 島本多敬学芸員の話 『瀬田川筋絵図』の写真資料提供	京都新聞
10	24	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕 昆虫の分布と変遷<1>県内のチョウが示す環境変化 八尋克郎総括学芸員	朝日新聞
10	28	〔フィールドへびわ博いちおし〕 <14>知られざる身近な自然 まだ見つかる淡水魚の新種 川瀬成吾主任学芸員	京都新聞
10	29	〔湖岸より〕 <439>生活様式は姿に出る 鈴木隆仁主任学芸員	中日新聞
10	29	滋賀県と伊藤忠、社会貢献で連携 琵琶湖博物館や県立図書館と希少淡水魚の増殖や外国語絵本の寄贈などに取り組む	日本経済新聞 (大阪)
10	30	創業の地で「三方よし」 伊藤忠、県と連携 これまでも琵琶湖博物館や県内教育機関への支援	毎日新聞
11	1	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 <114>みんなのお堂―「惣」に不可欠な村堂― 中世の自治や学びの場 橋本道範専門学芸員	毎日新聞
11	3	琵琶湖博物館チョウ展超ヒット 7万人突破、歴代1位射程 初宿文彦課長補佐と企画展担当の八尋克郎総括学芸員の話	産経新聞
11	5	〔データで読む地域再生〕 動物・魚・虫…見せ方磨く 琵琶湖博物館古代湖象徴アザラシ	日本経済新聞
11	6	琵琶湖美しい姿ずっと 琵琶博ウィリアムさん風景画「琵琶湖四季彩」寄贈	読売新聞
11	7	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕 昆虫の分布と変遷<2>トンボの宝庫 湖国に異変 八尋克郎総括学芸員	朝日新聞
11	7	環境保全や地域貢献 伊藤忠商事と県協定 これまでも琵琶湖博物館への寄付や県立学校へのタブレット機器の寄贈	中日新聞
11	11	〔フィールドへびわ博いちおし〕 <15>琵琶湖のアユの世代交代 照明長時間点灯成熟抑える 米田一紀主査	京都新聞
11	12	〔湖岸より〕 <440>変化を続ける南湖の沈水植物 芦谷美奈子専門学芸員	中日新聞
11	13	〔琵琶湖の魚たち〕 ムギツク子育ては他魚まかせ 田畑諒一学芸員	産経新聞
11	13	〔ご当地ランキング〕 琵琶湖博物館おいでや（滋賀県草津市）アザラシぬいぐるみで「運試し」	日本経済新聞 MJ
11	15	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 <115>日本で2番目に大きな湖は？ 霞ヶ浦と支笏湖の二つ 芳賀裕樹総括学芸員	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
11	16	観覧数 チョウ展が頂点に 琵琶博 推しランキングも注目 八尋克郎総括学芸員の話	産経新聞
11	17	見上げた思い出 琵琶湖文化館「大トンボ」オブジェをテーマに琵琶湖博物館などが保存する写真も展示	毎日新聞
11	20	外来植物オオバナミズキンバイ 県自然環境保護課の中井克樹元専門学芸員の話	毎日新聞
11	21	「ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより」昆虫の分布と変遷<3>甲虫 広大な砂浜に多種多様 八尋克郎総括学芸員	朝日新聞
11	24	例外の常態化 バス釣り考 中井克樹特別研究員の話	朝日新聞(夕刊)(東京)
11	24	バイカル湖の魚琵琶湖博が繁殖 田畑諒一学芸員の話	読売新聞(夕刊)
11	25	「フィールドへびわ博いちおし」<16>草地の生き物 多様な生物実は絶滅の危機 中村久美子主任学芸員	京都新聞
11	25	琵琶湖の魚愛する中学生 手書き観察ノート絵本に 2歳の頃から琵琶博に通う	産経新聞(夕刊)(大阪)
11	26	「湖岸より」<441>木を使って植える時代へ 美濃部諭子主任技師	中日新聞
11	27	チョウ展来場者8万人超で最多 琵琶博企画展	読売新聞
11	29	「チョウ選挙」1位はアオスジアゲハ琵琶湖博物館 八尋克郎総括学芸員のコメント	朝日新聞
11	29	「びわ博こだわり展示の裏話」<116>はしかけの活動を展示し、来館者と共有 身近な薬草で生活豊かに 大槻達郎主任学芸員	毎日新聞
12	1	琵琶湖と太湖で環境分析 琵琶博楊さんと嘉田さん共著 楊平専門学芸員と元琵琶湖博物館総括学芸員の嘉田由紀子参議院議員の話	毎日新聞
12	3	博物館学芸員の楊平専門学芸員と嘉田参議院議員が著書出版 琵琶湖と中国の湖を比較	中日新聞
12	5	「ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより」水草とヨシ原の多様性<1>湖岸の変化 生育環境に影響 芦谷美奈子専門学芸員	朝日新聞
12	5	「人あり」多様な生物学ぶ場作る 小さな水族館「びわこベース」開館 元飼育員の関慎太郎さん	読売新聞
12	9	「フィールドへびわ博いちおし」<17>琵琶湖に集まる冬鳥と出会う 観察した種類剥製で分かる 榎永一宏総括学芸員	京都新聞
12	10	「湖岸より」<442>自然観察会がもつ力 金尾滋史主任学芸員	中日新聞
12	11	「琵琶湖の魚たち」「浮くハゼ」の代表格 ウキゴリ 米田一紀主査	産経新聞
12	11	「わたシガ名探偵」琵琶湖のウナギは「天然」か!!湖の恵みで長く育つから? 米田一紀主査と金尾滋史主任学芸員の話	中日新聞
12	13	「びわ博こだわり展示の裏話」<117>水場ー自然との暮らしに身近で大切な存在 多様なつながり読み解く 楊平専門学芸員	毎日新聞
12	18	「湖国の現場 2022」13の目標達成は一つ 昨年7月策定MLGs 専門家が評価まとめる	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	19	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水草とヨシ原の多様性<2>図鑑にない 繁茂 魅力の塊 芦谷美奈子専門学芸員	朝日新聞
12	23	[フィールドへびわ博いちおし] <18>菅浦とフナズシ 寒鮒漬け 地域で多様 に変化 橋本道範専門学芸員	京都新聞
12	24	[湖岸より] <443>100年ぶりの再発見 田畑諒一学芸員	中日新聞
12	26	[湖国この一年 2022] 琵琶湖でチョウザメ捕獲琵琶湖博物館で展示 博物館の コメント	京都新聞
12	27	手作り新聞で地元の生き物紹介	中日新聞
12	29	[回顧 2022] 琵琶湖博物館がロシアなどに生息するチョウザメ 1 匹が琵琶湖で 定置網にかかったと発表 担当者のコメント	読売新聞
12	29	[湖国の出来事 2022 年] 琵琶湖で体長約 1 メートルのチョウザメが捕獲 琵 琶湖博物館で保護 博物館のコメント	朝日新聞
1	1	[ぐるっと「食」見聞録] ○○天井 白身魚の正体は？琵琶湖博物館内のレス トランで提供 中井克樹特別研究員のコメント	朝日新聞(滋 賀・大阪・京 都・兵庫・奈 良・和歌山)
1	8	今年の干支「うさぎ」ちなみ「ウサギギギ」標本国内初展示 琵琶博韓国に すむ淡水魚 担当者のコメント	京都新聞(滋 賀・京都)
1	9	名前は似てるけど!?「ウサギギギ」標本琵琶博展示 田畑諒一学芸員のコメ ント	毎日新聞
1	11	絵本「へこきむしのおなら」八尋克郎総括学芸員の指導を得て刊行	京都新聞
1	12	琵琶博今年のえとにちなみ「ウサギギギ」標本展示 田畑諒一学芸員のコメ ント	毎日新聞(京都)
1	12	県立琵琶湖博物館和名に干支淡水魚の標本 国内初ウサギギギ展示 姉妹種 「ネコギギ」も同時に 田畑諒一学芸員のコメント	中日新聞
1	12	琵琶湖博物館オンラインセミナー開催 観る・分けるテーマ	朝日新聞
1	13	[フィールドへびわ博いちおし] <19>近江の三大淡水産貝塚巡り 縄文人の食 生活実は豊か 妹尾裕介主任学芸員	京都新聞
1	14	いのち守る大役 小さな水族館 自然写真家・元飼育員関慎太郎さん運営 「びわこベース」	朝日新聞
1	14	手作り「小さな水族館 びわこベース」自然写真家・元飼育員関慎太郎さん	毎日新聞
1	14	[湖岸より] <444>少しの配慮で草地保全 中村久美子主任学芸員	中日新聞
1	14	歳出 6590 億円過去 2 番目規模 県 23 年度当初予算見積額 琵琶湖博物館の 資料・標本のデジタル化など新規事業を盛り込む	中日新聞
1	16	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 水草とヨシ原の多様性<3>希少種アサ ザ群落守りたい 芦谷美奈子専門学芸員	朝日新聞
1	16	ウサギギギ？いえ淡水魚です 琵琶湖博物館標本展示は国内初 琵琶湖博物 館 川瀬成吾主任学芸員の話	産経新聞
1	17	[びわ博こだわり展示の裏話] <118>楽しく観察、自分だけのお気に入りを入りを 標本・剥製の世界感じて 桒永一宏総括学芸員	毎日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
1	17	生き物に触れて、守る「小さな水族館」びわこベース 写真家・元飼育員関さん運営	毎日新聞(京都)
1	18	琵琶湖の幸 5キロどんっ！琵琶湖博物館のレストラン「にほのうみ	毎日新聞
1	18	湖の幸ふんだん特大天井 琵琶湖博物館 レストラン、予約販売	読売新聞
1	21	生物・人工物から見えてくる事実 琵琶湖博物館がセミナー参加者募集	朝日新聞(京都)
1	22	〔琵琶湖の魚たち〕 周りにいるのはメスばかり？ギンプナ 金尾滋史主任学芸員	産経新聞(滋賀・京都)
1	26	ウサギギギ、魚です 琵琶湖博物館で展示	日刊県民福井(福井)
1	27	〔フィールドへびわ博いちおし〕 <20>湖上交通ー110年前の水路整備 住民・物資の移動に活躍 島本多敬学芸員	京都新聞
1	28	〔湖岸より〕 <445>在来種か、それとも外来種なのか ロビン・スミス専門学芸員	中日新聞
1	28	〔列島きたみなみ〕 「ウサギギギ」名前の由来は、琵琶湖博物館で展示	信濃毎日新聞(長野)(夕刊)
1	29	学生科学賞中央審査 守山中科学部「ミジンコをいかに繁殖させるか」琵琶湖博の学芸員のアドバイスが役立つ	読売新聞
1	29	「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会 琵琶湖博物館で開催	中日新聞
1	29	琵琶湖などで撮影 水鳥の写真ずらり 福森弘二元嘱託職員が伊賀で作品展	中日新聞
1	30	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕 水草とヨシ原の多様性<4>湖岸の風物詩利用と保全模索 芦谷美奈子専門学芸員	朝日新聞
1	30	〔旬〕 ウサギギギ魚です 国内で初めて琵琶湖博物館で展示	大阪日日新聞(大阪)
1	30	〔列島ニュース〕 ウサギギギ魚です 国内で初めて琵琶湖博物館で展示	大分合同新聞(大分)
1	31	〔びわ博こだわり展示の裏話〕 <119>農作業や昔暮らし体験 よみがえる在りし日 田園空間屋外出てみよう 中川信次主任主査	毎日新聞
2	1	ふなずしにする固有種 ニゴロブナ 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	伊勢新聞(津)
2	1	和名にウサギ 唯一の淡水魚ウサギギギ 国内で初めて琵琶湖博物館で展示	奈良新聞(奈良)
2	4	外来の珪藻安曇川に近畿初 県は注意喚起琵琶湖学芸員ら論文発表	朝日新聞
2	4	〔ワクワク生きもの大好き〕 ニゴロブナ 琵琶湖に生息する「固有種」 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	大分合同新聞(大分)
2	7	トンボに学ぶ環境保全 琵琶湖博で企画展 写真や生息調査パネル並ぶ	京都新聞
2	7	〔美術館・博物館〕 琵琶湖博物館催し物案内 (「琵琶湖のすごいつりざお」)	朝日新聞(夕刊)
2	9	外来種の珪藻を発見県立大生ら発表 大塚泰介総括学芸員らの論文掲載	朝日新聞(福井)
2	9	県新年度予算案一般会計 6583 億円 琵琶湖博物館の「デジタルミュージアム推進事業」 (5 千万円)	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	9	[ぶんぶんジュニア] ニゴロブナ ふなずしにする固有種 川瀬成吾主任学芸員の話	北日本新聞(富山)
2	10	外来ケイソウ近畿初確認 大塚泰介総括学芸員らが論文を発表	毎日新聞
2	10	ゾウをアートで表現 <アケボノゾウ化石発掘物語>高橋啓一館長らが対談	毎日新聞
2	10	[フィールドへびわ博いちおし] <21>フィールドで学ぶ琵琶湖の漁業 沖島に伝わる独自の漁具 加藤秀雄学芸員	京都新聞
2	10	琵琶湖博物館ナマズ水槽破損	京都新聞(夕刊) 京都
2	11	水槽破損水 100 トン流出 琵琶湖博物館オオナマズは無事 西村武副館長と金尾滋史主任学芸員の話	朝日新聞
2	11	琵琶湖博物館水槽破損 100 トン流出 62 センチ浸水 展示室閉鎖 西村武副館長の話	毎日新聞
2	11	ナマズあわや 大型水槽破損琵琶湖博物館開館前けが人なし 西村武副館長の話	読売新聞
2	11	大型水槽破損ビワコオオナマズ無事 金尾滋史主任学芸員の話	産経新聞(大阪)
2	11	ビワコオオナマズの水槽破損 琵琶湖博物館当面水族展示室を閉鎖	京都新聞(滋賀・京都)
2	11	ビワコオオナマズの水槽破損 琵琶湖博物館水族展示室水浸し、閉鎖に 西村武副館長と金尾滋史主任学芸員の話	中日新聞
2	11	[湖岸より] <446>ドローンで川の地形を 3D 化 片山大輔主査	中日新聞
2	11	滋賀の博物館 ナマズ展示の大型水槽破損	山形新聞(山形)
2	11	琵琶湖博物館の大型水槽が破損 開館前、けが人なし	大阪日日新聞(大阪)
2	11	[生きもの大好き] 記念切手のモデルになった アムールイトウ 川瀬成吾主任学芸員	デーリー東北(八戸)
2	12	博物館の楽しみ方発信 西川貴教さん、琵琶湖博物館一日館長、高橋啓一館長と対談 水槽修繕協力呼びかけ	京都新聞
2	12	水槽破損の琵琶湖博物館入館料を一時減額	京都新聞
2	12	[週間ニュースファイル] ビワコオオナマズの水槽破損 琵琶湖博物館	京都新聞(京都)
2	12	西川さん、琵琶湖博物館一日館長、高橋啓一館長と対談 水槽破損「少しでも早く復旧を」	読売新聞
2	12	琵琶湖博物館観覧料を減免 水族展示室閉鎖で	毎日新聞
2	12	西川さんが一日館長で PR 活動 琵琶湖博物館「何度も通って」 任命書を受け取り高橋啓一館長と懇談	中日新聞
2	12	観覧料減免を発表 水槽破損による水族展示室閉鎖で	中日新聞
2	12	「大津こども環境探偵団」琵琶湖博物館で修了式 1 年の活動振り返る	中日新聞
2	14	[びわ博こだわり展示の裏話] <120>明治 29 年の大洪水 浸水 37 日続く 片山大輔主査	毎日新聞
2	14	琵琶湖博物館水槽破損 知事、原因究明指示	京都新聞(滋賀・京都)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	14	観覧料で水槽修繕にご協力を 一日館長、西川さん PR	産経新聞
2	15	生態系に影響外来ケイソウ 琵琶湖博物館が発表 大塚泰介総括学芸員らが論文にまとめ学術誌に掲載	読売新聞
2	15	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕 生き物と人がにぎわう草地生態系<1> 多様性維持人の手が貢献 中村久美子主任学芸員	朝日新聞
2	17	滋賀といえば西川貴教さんなぜ？あふれる故郷愛イメージ定着の理由探る 琵琶湖博物館のもよおしに応募殺到 高橋館長との対談で魅力をアピール	朝日新聞
2	15	記念切手のモデルになったアムールイトウ 琵琶博の水族展示室で展示	伊勢新聞(津)
2	17	〔生きもの大好き〕 ニゴロブナ 川瀬成吾主任学芸員の話	高知新聞(高知)
2	17	〔生きもの大好き〕 記念切手にも登場 琵琶湖博物館水族展示室のアムールイトウ	東奥日報(青森)
2	18	県内のトンボ何種いる？26日まで琵琶博保全活動を紹介	毎日新聞
2	18	〔生きもの大好き〕 プロコッタスマジョー 浮袋のないカジカの仲間 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	デーリー東北(八戸)
2	18	〔ワクワク生きもの大好き〕 プロコッタスマジョー 浮袋がなく水の底にいる 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	大分合同新聞(大分)
2	19	〔琵琶湖の魚たち〕 侵略的外来種ブルーギル 米田一紀主査	産経新聞(滋賀・京都)
2	19	〔生きもの大好き〕 ゆったりと泳ぐアムールイトウ 川瀬成吾主任学芸員の話	福島民友(福島)
2	20	〔列島北から南から〕 ウサギギギ国内で初めて展示	産経新聞(茨城・栃木・群馬・新潟)
2	20	「ウサギギギ」琵琶湖博物館で初展示	産経新聞(静岡・長野)
2	20	「まちかど」座談会「アケボノゾウ化石発掘物語」高橋啓一館長	京都新聞
2	21	外来ケイソウ近畿に琵琶湖博物館が発表 繁殖拡大を警戒 大塚泰介総括学芸員の話	毎日新聞(福井)
2	21	ふなずしの魅力深く知って 橋本道範専門学芸員が講演	読売新聞
2	21	琵琶湖で異常繁殖-水草を活用 堆肥県民に無料配布 26日琵琶湖博物館東側で配布他	毎日新聞
2	22	「近江のなれずし製造技術」登録記念講演会 橋本道範専門学芸員	毎日新聞
2	22	種のちがいは形に表れる ホンモロコ 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	伊勢新聞(津)
2	23	〔生きもの大好き〕 アムールイトウ 記念切手のモデルに 川瀬成吾主任学芸員の話	北日本新聞(富山)
2	24	「自然大学」環境学ぶ 琵琶湖博物館でプランクトンなどを顕微鏡で観察	読売新聞(大阪)
2	24	〔フィールドへびわ博いちおし〕 <22>はじめての湖の湖岸 地層観察当時の環境推定 里口保文上席総括学芸員	京都新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	24	[いきものだいすき] アムールイトウ 記念切手のモデルになった 川瀬成吾主任学芸員の話	高知新聞(高知)
2	25	[湖岸より] <447>村の古地図と Eco-DRR 島本多敬学芸員	中日新聞
2	25	[生きもの大好き] 種のちがいは形に表れる ホンモロコ	デーリー東北(八戸)
2	26	アムールイトウ ピンクのせなか 切手のモデルに 川瀬成吾主任学芸員の話	愛媛新聞(松山)
2	26	[生きもの大好き] ホンモロコ 種のちがいは形に表れる 川瀬成吾主任学芸員の話	佐賀新聞(佐賀)
2	27	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 生き物と人がにぎわう草地生態系<2> 枯れ草で越冬最小ネズミ 中村久美子主任学芸員	朝日新聞
2	27	[凡語] 琵琶湖博物館の大型水槽、危機一髪・間一髪	京都新聞(京都)
2	28	[びわ博こだわり展示の裏話] <121>TNB (TaNBō) 48 第2期メンバー決定 大塚泰介総括学芸員	毎日新聞
3	1	コアユ 海のかわりに琵琶湖で生活 川瀬成吾主任学芸員の話	伊勢新聞(津)
3	3	[生きもの大好き] プロコッタスマジョー 浮袋のないカジカの仲間 川瀬成吾主任学芸員の話	高知新聞(高知)
3	3	[生きもの大好き] ニゴロブナ ふなずしにする固有種 川瀬成吾主任学芸員の話	東奥日報(青森)
3	4	体験室の水槽に亀裂 琵琶湖博物館水漏れや破断はなし	中日新聞
3	4	琵琶博未公開水槽に亀裂	読売新聞
3	4	亀裂 別の水槽にも 琵琶博点検で確認、水漏れなし	産経新聞
3	4	琵琶博展示室の水槽に亀裂確認	毎日新聞
3	4	水槽に長さ1.5メートルの亀裂 琵琶湖博物館水漏れ被害なし	朝日新聞
3	4	琵琶博水族展示室別の水槽にも亀裂	京都新聞(滋賀・京都)
3	4	外来種ケイソウ安曇川で初確認 アユ、水生昆虫の育成に悪影響恐れ 大塚泰介総括学芸員の話	京都新聞
3	4	[ワクワク生きもの大好き] コアユ 琵琶湖の沖合でくらす 川瀬成吾主任学芸員の話	大分合同新聞(大分)
3	4	[生きもの大好き] コアユ 海のかわりの琵琶湖で生活 川瀬成吾主任学芸員の話	デーリー東北(八戸)
3	5	よし笛 遊覧船の思い出 北村美香琵琶湖博物館特別研究員	京都新聞
3	5	[生きもの大好き] ニゴロブナ 琵琶湖固有種 ふなずしに 川瀬成吾主任学芸員の話	産経新聞(東北・宮城・茨城・群馬・栃木・新潟・山梨・神奈川・静岡)
3	8	三日月知事 コロナ県指標 レベル1に引き下げ 琵琶湖博物館水槽破損事故に関して陳謝	読売新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	8	〔生きもの大好き〕ニゴロブナ ふなずしにする固有種 川瀬成吾主任学芸員の話	福島民報(福島)
3	9	滋賀県 47 億円の補正予算案発表 琵琶湖博物館の破損した水槽の復旧などに	京都・中日・毎日新聞
3	10	滋賀県補正予算案を上程 琵琶湖博物館の水槽破損の原因究明など	朝日・中日新聞
3	10	〔フィールドへびわ博いちおし〕〈23〉西の湖に残る原風景ヨシ原 森林並みのCO2回収量 林竜馬専門学芸員	京都新聞
3	10	〔いきものだいすき〕ホンモロコ 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	高知新聞(高知)
3	11	滋賀県議会 琵琶湖博物館水槽破損事故の原因究明などの補正予算案可決	京都・中日・読売新聞
3	11	〔湖岸より〕〈448〉生物の分布限界を調べる 榊永一宏総括学芸員	中日新聞
3	12	大型水槽の破断面確認 琵琶湖博物館第三者委が初会合	中日新聞
3	12	水槽破損 経緯や構造検証 琵琶博 第三者委は初会合	毎日新聞
3	12	ねんてん先生の575 オオナマズがけが	京都新聞(京都)
3	12	〔生きもの大好き〕プロコッタスマジョー 浮袋なく水の底に 川瀬成吾主任学芸員の話	山陽新聞(岡山)
3	12	〔生きもの大好き〕ニゴロブナ 琵琶湖にすむ固有種 川瀬成吾主任学芸員の話	上毛新聞(前橋)
3	12	〔生きもの大好き〕ニゴロブナ ふなずしにする琵琶湖の固有種 川瀬成吾主任学芸員の話	熊本日日新聞(熊本)
3	12	〔生きもの大好き〕アムールイトウ 記念切手のモデルになった 川瀬成吾主任学芸員の話	産経新聞(神奈川・栃木・茨城・群馬・長野・新潟・山梨・静岡)
3	14	〔ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより〕生き物と人がにぎわう草地生態系〈3〉景観から見た生物保全策 中村久美子主任学芸員	朝日新聞
3	14	〔びわ博こだわり展示の裏話〕〈122〉ナガレモンイワナ初展示に向けて 移送後の健康管理入念に 米田一紀主査	毎日新聞
3	15	〔生きもの大好き〕アムールイトウ 記念切手のモデルになった 川瀬成吾主任学芸員の話	福島民報(福島)
3	15	琵琶博水槽破損 検証へ第三者委 県設置、初会合開く	京都新聞
3	17	米、魚、森 湖と生きる ニゴロブナ写真提供	読売新聞(大阪)
3	17	〔いきものだいすき〕コアユ 琵琶湖博物館 川瀬成吾主任学芸員の話	高知新聞(高知)
3	17	〔生きもの大好き〕コアユ 海に出ず琵琶湖で生活 川瀬成吾主任学芸員の話	東奥日報(青森)
3	18	ヨシを題材に展示 共生考える契機に 琵琶湖博物館	中日新聞
3	19	〔琵琶湖の魚たち〕清流に棲むアジメドジョウ 川瀬成吾主任学芸員	産経新聞(滋賀・京都)
3	19	〔生きもの大好き〕プロコッタスマジョー 浮袋のないカジカの仲間 川瀬成吾主任学芸員の話	産経新聞(神奈川・栃木・茨城・群馬・長野・新潟・山梨・静岡)

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
3	19	[生き物大好き] アムールイトウ 記念切手のモデル 川瀬成吾主任学芸員の話	山陽新聞(岡山)
3	19	[生きもの大好き] アムールイトウ 2メートルこえることも 川瀬成吾主任学芸員の話	上毛新聞(前橋)
3	23	[遊・You・友] 「びわ湖の“ヨシ” っていいね！」開催案内	朝日新聞
3	24	[フィールドへびわ博いちおし] <24>あなたのいちおしフィールド 身のまわりに目を凝らし 高橋啓一館長	京都新聞
3	25	[湖岸より] <449>一つの体験から得る力 由良嘉基 主査	中日新聞
3	26	[生きもの大好き] ホンモロコ 種の違いは形に表れる 川瀬成吾主任学芸員の話	産経新聞(東北・宮城・茨城・群馬・長野・新潟・山梨・静岡)
3	26	[生き物大好き] コアユ 海にくみならず湖で生活 川瀬成吾主任学芸員の話	山陽新聞(岡山)
3	26	[生きもの大好き] プロコッタスマジョー 湖底のあなにひそむ 川瀬成吾主任学芸員の話	上毛新聞(前橋)
3	27	[ビワハツ 琵琶湖博物館研究だより] 生き物と人がにぎわう草地生態系<4> 人の変化で生まれるニーズ 中村久美子主任学芸員	朝日新聞
3	27	琵琶湖水槽破損 原因追究始まる	読売新聞
3	27	[生きもの大好き] ニゴロブナ ふなずしにする固有種 川瀬成吾主任学芸員の話	福井新聞(福井)
3	28	[びわ博こだわり展示の裏話] <123>西の湖産昔ながらのヨシ製品に注目 茎に艶波模様美しく 芦谷美奈子専門学芸員	毎日新聞
3	29	[生きもの大好き] プロコッタスマジョー バイカル湖の固有カジカ 川瀬成吾主任学芸員の話	福島民報(福島)
3	30	琵琶湖博物館水槽破損第三者委員会合 アクリル板施工 確認へ	中日新聞
3	30	談論風発 災害を思い起こす	京都新聞(京都)

5) 雑誌等掲載記録

件	月	記事テーマ	掲載雑誌社名
1	4	烏丸エリア 約6年越しのリニューアルが完成し2020年10月グランドオープン 琵琶湖博物館の紹介	びわこくさつ(びわ湖・草津観光ガイドマップ) 2021
2	4	琵琶湖博物館常設展示ペア招待券プレゼント	教育しが No.86 4月号
3	4	イチモンジタナゴ	日本の「絶滅危惧」動物がわかる本
4	5	湖と人をテーマにした多彩な展示で琵琶湖の偉大さを伝える 琵琶湖博物館の紹介	地域人 第81号
5	5	「全国植樹祭しが2022」サテライト会場：琵琶湖博物館	滋賀プラス1(県広報誌) 5・6月号 vol.197
6	5	1996～2005年建築建物 環境への配慮が随所に施されているされている琵琶湖博物館	大津生コンクリート協同組合 50周年記念誌

件	月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	6	企画展示「「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」 / イベント紹介	れいかる（湖国文化情報） 7・8 月号 vol. 127
8	6	面白いだけじゃない！博物館&水族館ゾウ、微生物、オオナマズ。琵琶湖の神秘に心打たれる 琵琶湖博物館の紹介	momo vol. 25
9	6	今、行きたい滋賀の旅 揺れる水面に癒やされるびわ湖の畔の博物館	チェキポン vol. 183
10	6	古代湖に生まれ生きる 高橋啓一館長	烏梅 2022 夏 vol. 40
11	6	幸運もたらす？白いスポン捕獲 米田一紀主査の話	滋賀夕刊 (6/15)
12	6	松喜屋発日帰りバスツアー 2020 年にリニューアルオープンした琵琶湖博物館めぐり	松喜屋リーフレット
13	6	ギャラリー展「森へ行こう、森と生きよう」の紹介	博物館研究 vol. 57 No. 6 (No. 649 号)
14	6	令和 4 年度前期市民講座一覧 「鵜飼のウミウ 野生のカワウ」 亀田佳代子副館長	長良川うかいミュージアム市民講座チラシ
15	7	2022 年度体験プログラムの紹介 様々なプログラムにチャレンジしよう	しがこども体験学校
16	7	滋賀の美術館・博物館 博物館と企画展紹介	リビング滋賀 1814 号
17	7	博物館の中に魚屋があるー！？ 琵琶湖博物館の紹介	全国クセすご水族館図鑑
18	7	2020. 10 RENEWAL パワーアップした琵琶湖ラボ 琵琶湖博物館の紹介	滋賀の本
19	7	鵜と人間の関わりを考える 琵琶湖のカワウ今昔 亀田佳代子副館長 関連書籍の紹介「カワウが森を変える」	野鳥（7・8 月号）第 87 巻第 4 号
20	7	恵みをもたらす鵜 亀田佳代子副館長	月刊みんぱく 7 月号
21	7	琵琶湖博物館企画展示「チョウ展」イベントの紹介	広報烏丸 第 53 号 草津北部街づくり協議会
22	7	大人も子どもも自由研究に没頭する！琵琶湖博物館の紹介 読者プレゼント	労金情報誌 vol. 54
23	7	大人も子どもも自由研究に没頭する！琵琶湖博物館の紹介 読者プレゼント	シニア通信 vol. 6
24	8	小学生向け WS SCREENHD 琵琶湖博物館で開催	化学工業日報（東京）7/28
25	8	企画展示「「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」 / びわ博フェス 2022 イベント紹介	れいかる（湖国文化情報） 9・10 月号 vol. 128
26	8	初代、二代、三代の歌川広重が描く大津 琵琶湖博物館	教育家庭新聞（東京）8/15
27	8	夏休みの美術館」琵琶湖博物館は第三日曜日を「家庭ふれあいサンデー」として県内在住者は無料	新美術新聞（東京）8/21
28	8	琵琶湖の生態系観察ワークショップを琵琶湖博物館で開催 SCREEN	日本印刷新聞（東京）8/1
29	10	企画展示「「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」の紹介	博物館研究 vol. 57 No. 10 (No. 653 号)
30	10	博物館発！鳥のお宝ツアー ～研究で集めたカワウ標本～ 滋賀県立琵琶湖博物館 亀田佳代子副館長	湖国ドライブガイド（トヨタモビリティ）

件	月	記事テーマ	掲載雑誌社名
31	10	得意の絵を使い環境保護訴える 黒川琉伊さん 高橋啓一館長推薦「はじめてのびわこの魚」	週間朝日 10/7
32	10	多彩な公園環境が魅力 一新した琵琶湖博物館も	(SUUMO 新築マンション関西版)
33	10	企画展示「「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」/イベント紹介	れいかる (湖国文化情報) 11・12号 vol.129
34	11	企画展示「チョウ展」招待券プレゼント	パリッシュ vol.286
35	11	“ぼてじゃこ”の湖 琵琶湖知られざる水中百花 川瀬成吾主任学芸員	烏梅 2022 冬 vol.41
36	11	企画展示「「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」紹介	電車&ウォーク 2021.7月
37	11	[新食材紀行]第59回滋賀県琵琶湖「外来魚を食べて駆除する」プロジェクト 川瀬成吾主任学芸員	ヘルシスト 276
38	11	第46回関西環境管理者交流会 樹冠トレイルサポーター登録に伴う寄付金の贈呈式	碧い湖 (滋賀県環境保全協会広報誌) vol.75
39	11	[11月12月の特別展] 企画展示「「チョウ展-近江から広がるチョウの世界-」の紹介	全科協 NEWS vol.51 No.5 (No.300号)
40	11	琵琶湖博物館の紹介	わくわく理科滋賀県ぐるっと Map
41	12	トピック展示「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」/イベント紹介	れいかる (湖国文化情報) 1・2・3月号 vol.130
42	12	[国政刻々]「水と生きる地域の力-琵琶湖・太湖の比較から」を楊平専門学芸員と共著で出版 嘉田由紀子参議院議員	滋賀報知新聞 (12/8)
43	1	「水と生きる地域の力-琵琶湖・太湖の比較から」楊平専門学芸員と嘉田由紀子参議院議員が共著で出版の紹介	Duet 2023 冬 vol.144
44	1	「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会 パネリスト亀田佳代子副館長	琵琶湖開発施設および瀬田川洗堰操作規則制定30周年記念イベント チラシ
45	2	雲の上からのぞく海のような琵琶湖 琵琶湖博物館の紹介	ノジュール
46	3	琵琶湖博物館の紹介	ポイントバケーション近江びわ湖会報誌
47	3	ギャラリー展示「ぶっかぶか美小生物展-ミクロでアートな生きものたち」/イベント紹介	れいかる (湖国文化情報) 4・5・6月号 vol.131
48	3	[動物園・水族館]琵琶湖博物館の紹介	電車&ウォーク 2023.3月
49	3	[ぶらり散策魅力発見]琵琶湖博物館の紹介	スマイリー通心 2023 春 vol.17

4 資料整備活動

琵琶湖博物館では、博物館のテーマである「湖と人間」に関係する自然・人文・社会科学など多分野の資料を収集し、整理・保管・活用している。資料を収集する地域は、琵琶湖とその集水域および淀川流域を中心として、日本やアジア、世界の湖沼とその周辺地域まで広範囲にわたる。実物資料のほか、魚などの生体資料、映像資料、図書資料などの多種多様な資料を、博物館職員や参加型調査による収集、受贈、受託、提供、交換、購入、製作などの方法によって受け入れている。

資料を必要な時に利用できるよう、各資料分野の体系に従って整理し、次世代へ引き継ぐために、長期間にわたって安全に良好な状態で保管する活動を行っている。各資料に関する専門の学芸職員が、会計年度任用職員や委託による資料整理員とともに対応に当たっている。図書資料については、司書資格をもった会計年度任用職員が対応にあたっている。

以下に、2021 年度の資料整備および利活用の状況を示す。

1. 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微小生物標本、水族資料（生体資料）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の 11 分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの収蔵品データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2022 年度末現在で、博物館登録資料は 722,592 で、収蔵概数は 1,467,935 となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

(1) 収蔵資料数

2023 年 3 月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2022 年度登録数	2022 年度受入総数
地学	97,986	120,520	1,282	2,653
動物	218,811	371,276	26,434	3,133
植物	91,349	202,828	740	126
微生物	16,357	77,885	3,225	3,225
水族（生体）	12,665	16,692	10,871	14,136
考古	1,004	1,473 箱と 872	0	0
歴史	461	239	0	0
民俗	10,112	11,418	3,317	1,303
環境	0	1,515	0	0
図書	152,787 と 7,247 タイトル	158,000	2,450	5,589
映像	113,813	505,217	0	252
合計	715,345 と 7,247 タイトル	1,466,462 と 1,473 箱	48,319	30,417

【各分野別の詳細】

地学標本	2022 年度						整理状況・作業内容・公開など	累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数		登録資料数	収蔵概数
化石	43	0	1,758	0	0	2,366	データベースの各アイテムへの入力作業中	43443	53,450
岩石・鉱物	947	0	20	0	0	20		14757	23,920
堆積物	289	0	267	0	0	267		38,526	40,490
プレパラート	3	0	0	0	0	0		1,260	2,660
小 計	1,282	0	2045	0	0	2,653		97,986	120,520

動物標本		2022 年度						累 積		
		登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物（魚類除く）		35	9	0	0	9	18		3,724	4,081
内 										

植物標本	2022 年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	740	0	126	0	0	126	同定・登録・ラベル貼付・収蔵・ 管理・低温処理・燻蒸庫燻蒸	91, 348	190, 450
コケ植物標本	0	0	0	0	0	0		0	11, 037
植物液浸標本	0	0	0	0	0	0		1	1
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
プレパラート標本	0	0	0	0	0	0		0	1, 162
小 計	740	0	126	0	0	126		91, 349	202, 828

微生物標本	2022 年度							果 積	
	登録数	作成・撮影	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	3, 183	0	3, 103	0	37	3, 183	後藤敏一氏珪藻コレクションの大口寄贈あり；ラベルは未貼付	10, 904	10, 904
微小生物プレパラート	22	0	0	0	0	22		4, 019	4, 049
珪藻プレパラート	20	0	0	0	20	20		1, 434	1, 439
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25, 324
珪藻顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25, 251
微小生物顕微鏡写真デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	10, 052
微小生物動画ファイル	0	0	0	0	0	0		0	866
小 計	3, 225	0	0	0	0	3, 225		16, 357	77, 885

水族資料 (生体)		2022 年度							果 積	
		登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物		10, 130	1, 163	41	5, 033	4, 185	10, 422		11, 924	14, 352
内 訳	哺乳類	27	0	0	0	0	0		27	27
	魚類	10, 029	1, 157	41	5, 033	4, 185	10, 416		11, 823	14, 251
	両生類	51	5	0	0	0	5		51	51
	爬虫類	17	1	0	0	0	1		17	17
	鳥類	6	0	0	0	0	0		6	6
無脊椎動物		741	431	2, 524	759	0	3, 714		741	2, 340
内 訳	昆虫類	0	85	0	0	0	85		0	0
	貝類	565	62	0	759	0	821		565	664
	甲殻類	174	284	2, 500	0	0	2, 784		174	1, 634
	扁形動物	2	0	24	0	0	24		2	42
小 計		10, 871	1, 594	2, 564	5, 792	4, 185	14, 136		12, 665	16, 692

考古資料	2022 年度			果 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0	資料写真のデジタル化 考古データベース公開	0	1, 394(箱)
松原内湖遺跡木器等	0	0		1, 004	44(箱)と 847
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	19
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21(箱)と 3
小 計	0	0		1, 004	1, 473(箱)と 872

歴史資料	2022 年度						果 積	
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	461 点	0	0	0	0	破損が大きかった資料 1 件の修理の実施。館蔵品紹介コーナー「学芸員のこだわり展示」で計 5 回、延べ実物 11 点、複製 3 点を展示公開。なお、目録公開されている東寺文書 169 点を登録資料数としてカウントした。	461 点	174 件
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	0	0	0	0		0	46 件
その他	0	0	0	0	0		0	19 件
小 計	292 点	0	0	0	0		292 点	239 件

民俗資料	2022 年度				果 積	
	登録数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	3,031	1,136	1,136		7,187	8,323
漁撈用具(船関係用具を含む)	286	167	167		2,925	2,987
二次資料	0	0	0		0	108
小 計	3,317	1,303	1,303		10,112	11,418

環境資料	2022 年度					果 積	
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
民具・生活用具類	0	0	0	0		0	1,072
二次資料(食品等レプリカ)	0	0	0	0		0	436
その他	0	0	0	0		0	7
小 計	0	0	0	0		0	1,515

※収蔵資料の整理を行い、分類方法・件数記載方法を見直した。

図書資料	2022 年度					果 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	974	25	1,387	1,412	書籍レファレンス、コピーサービス(有料)、フィジカル・ポスター管理。資料整理として蔵書点検 11,549 点、図書装備約 1,000 冊。その他、文献複写依頼 35 件、相互貸借借受 2 件、デジタル化資料送信サービスの利用は 6 件。	95,025	98,000
文献	851	0		851		57,762	60,000
雑誌	625	185	3,141	3,326		7,247 (タイトル)(※)	
小 計	2,450	210	4,528	5,589		152,787 と 7,247(タイトル)	158,000

※雑誌は総タイトル数を表示(雑誌の総冊数は算出不可)。ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む。

Nacsis-Cat 目録所在情報サービス	2022 年度 登録数	累積 登録資料数
図書	194	21,185
雑誌	669	1,121
小 計	863	23,306

映像資料	2022 年度							果 積	
	登録数	撮影	移管数	寄贈・寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	252	252	大橋コレクション(平成時代写真)登録準備。画像一覧冊子作成(製本 9 冊が完成し 35%完了)。3.3 万点の登録画像データ作成が完了し次年度に登録作業予定。	113,813	495,611
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	9,858
小 計	0	0	0	0	252	252		113,813	505,469

(2) 寄贈者および提供者 敬称略(点数)

【地学資料】

化石：西出 忠(1157) 北林栄一(1) 馬越仁志(800) 杉山國男(373) 小林圭介(35)

岩石・鉱物：中野聰志(20)

堆積物：京都市(267)

【節足動物標本】

トビズムカデ液浸標本：金尾滋史・大塚泰介 琵琶湖博物館(3)

カイミジンコプレパラート：Robin J. Smith 琵琶湖博物館(22)

スジエビ液浸標本：中井克樹 琵琶湖博物館（1）

ミジンコ液浸標本：田中晋 富山大学（39）

【微小生物標本】

Cladocera など混合液浸標本：田中晋 富山大学（35）

ビワタマモ液浸標本：辻彰洋 国立科学博物館（2）

ケイソウプレパラート：辻彰洋 国立科学博物館（20）

ケイソウ綱など混合液浸標本：後藤敏一 近畿大学（3103）

【動物標本】

哺乳類（その他）：アクアトトギス（1）

鳥類乾燥標本：井上茂（1） 大津林業事務所（1）

魚類液浸標本：マーシーの獲ったり狩ったり（1） 伊藤玄（1） 太下蓮（12） 谷口倫太郎（3） 田和康太（1） 藤田宗也（1） 北川淳一・谷口倫太郎（1）（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センター（2） 谷口倫太郎（22） 長田智生（1） 内田大貴（13）

昆虫液浸標本：なし

昆虫乾燥標本：谷野晴哉（2） 山本毅也（61） 久野妙子（2235） 外村泰朗（563） 灰谷輝雄（150） 石田未基（1） 片岡佳孝（1） 虫架け（1） 中川優・武田滋（3） 高石清治・武田滋（1） 武田滋（11） 野一式麻人（2）

貝類液浸標本：スクミリンゴガイ：上田幸之助・上田外志幸（1）

【植物標本】

さく葉標本：大野葵（1） 藤井伸二（125）

【民俗資料】

生活生業用具：國分政子（4） 辻川智代（2） 成田昭（1） 比良岡七郎（1128） 藤本康夫（1）

漁撈用具：田中政章（14） 藤岡康弘（3） 山口一夫（150）

【図書資料】

小松原琢（409） 川那部浩哉（35） 高橋啓一（9） 辻川智代（3） 山本毅也（3） マツシマススム（3） 石田未基（2） 用田政晴（1） 北村美香（1） 菊池睦子（1） 石橋弘之（1） 桑原雅之（1） 布谷知夫（1） 金尾由恵（1） 白石雄治（1） 黒川琉伊（1） 磯部利彦（1） 上川道夫（1） 北川徹（1） 佐久間大輔（1） 服部泰三（1） 草津古文書学習会（1） 伊吹山ネイチャーネットワーク（1） 合計 479

【映像資料】

なし

(3) 移管資料

なし

(4) 購入資料

なし

(5) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	156

種 名	学 名	個体数
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	106
アカヒレタビラ	<i>Acheliognathus tabira erythropterus</i>	85
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	171
カゼトゲタナゴ	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	175
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	46
スイゲンゼニタナゴ	<i>Rhodeus atremius suigensis</i>	90
ミヤコタナゴ	<i>Tnakia tanago</i>	181
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	44
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	25
ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pugnax</i>	5
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	222
ヒナモロコ	<i>Aphyocypris chinensis</i>	230
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	398
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	300
デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>	250
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	96
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	199
ヨドゼゼラ	<i>Biwia yodoensis</i>	170
ドジョウ科		
オオガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis magnostriata</i>	208
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	173
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	100
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	200
外国産魚類		
カダヤシ科		
カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	46
カワスズメ科		
オレオクロミス・タンガニカエ	<i>Oreochromis tanganyicae</i>	75
レピドランプロログス・アテヌアータス	<i>Lepidolamprologus attenuatus</i>	164
ゴールデンゼブラシクリッド	<i>Maylandia lombardoi</i>	50
リコマパールシクリッド	<i>Labidochromis textilis</i>	30

2. 資料の活用

* 月日は許可日

(1) 資料の貸出（研究依頼を含む） 計 12 件 183 点

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	13	大東市立歴史民俗資料館	カヤネズミ剥製 1 点	春季展での展示
5	4	余呉小中学校	オオセンチコガネ標本 75 点	環境学習での使用
5	28	国立科学博物館	ヒッパリオン頭骨化石 1 点	特別展での展示
5	30	京都大学動物生態学研究室	1990 年代琵琶湖魴採集標本 33 点	学術研究

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
6	20	読売新聞大阪本社	オオムラサキ頭部拡大模型 1点	昆虫展での展示
7	6	水族寄生虫研究室	エラオ類標本 24点	学術研究(延伸)
7	14	サケのふるさと千歳水族館	オオクチバス等魚類標本 2点	企画展での展示
9	9	京都フィッシュントラック社	古琵琶湖層群火山灰資料 2点	学術研究
9	22	山梨大学宮崎研究室	ナガレホトケドジョウ等魚類標本 7点	企画展での展示
10	1	国立科学博物館	琵琶湖ボーリングコア資料 2点	企画展での展示
10	12	京都大学動物生態学研究室	カワヨシノボリ標本 20点	学術研究
10	12	京都大学動物生態学研究室	イタセンパラ標本 15点	学術研究

(2) 資料の譲与 計11件47点

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	17	神戸市立須磨海浜水族園	イチモンジタナゴ 5点 ニッポンバラタナゴ 10点	展示
6	22	井の頭自然文化園	カイツブリ雄 1点	展示および繁殖
7	8	龍谷大学先端理工学部	ハリヨ飼育水 20	学術研究
8	2	サケのふるさと千歳水族館	オオクチバス 2点	展示
9	30	神戸大学大学院	スイゲンゼニタナゴ飼育水 20 カゼトゲタナゴ飼育水 20	学術研究
10	15	筑波大学大学院	ミサゴ仮剥製標本体羽 3点	学術研究
12	6	龍谷大学先端理工学部	ハリヨ飼育水 20	学術研究
11	7	氏家 太	ミサゴ3体の体羽 計21点	学術研究
2	18	読売新聞大阪本社	オオムラサキ頭部拡大模型 1点	展示

(3) 特別観覧

<映像資料・静止画> 計27件163点

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
5	15	びわこ成蹊スポーツ大学	動画資料 2点	教養科目での使用
6	8	岩脇区町づくり委員会	ビワマス写真 1点	岩脇区区史への掲載
6	14	滋賀県知事公室広報課	琵琶湖水害写真 1点	広報誌への掲載
6	14	NHK 大津放送局	フナ類写真 2点	情報番組での使用
6	19	滋賀県琵琶湖環境科学研究所センター	化石樹写真1点	ブックレットへの掲載
8	15	びわ湖芸術文化財団 「湖国と文化」編集室	前野隆資氏撮影写真 2点 大橋宇三郎氏撮影写真 3点	「湖国と文化」81号への掲載
8	17	近江八幡市田中江町	琵琶湖洪水写真 1点	展示での使用
9	14	讀賣テレビ放送株式会社	沖島石材採掘場写真 1点	情報番組での使用
9	18	彦根市立教育研究所	大橋コレクション 3点 魚類写真 4点	小学校副読本および教職員データベースへの掲載
9	22	フジテレビ湾岸スタジオ	滋賀県古写真 7点	映画「翔んで埼玉Ⅱ」での使用
10	15	株式会社童夢	花粉化石写真 1点	『(仮)気候のしくみ大研究』への掲載
11	1	龍谷大学生物多様性科学	魚類写真 51点	講演および学会発表での使用
11	20	滋賀県立びわ湖フローティングスクール	水草写真 9点 貝類写真 8点 魚類写真 23点	「学習のしおり」への掲載
11	27	丸善出版株式会社	メタセコイア化石林写真 1点	『古生物学の百科事典』への掲載
12	12	NHK エンタープライズ近畿 総支社	水生生物写真 3点	「生物多様性の理解を助ける動画教材」での使用

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
1	3	京都先端科学大学	滋賀県管下近江国六郡物産図	卒業論文での使用
2	1	長浜み～な編集室	漁撈関連写真 13 点	「み～なびわ湖から」151 号への掲載
2	15	瀬田南歴史文化研究会	湖南地域古写真 2 点	「瀬田南の碑」15 への掲載
2	18	NHK エデュケーショナル	前野隆資氏撮影写真 2 点 藤村和夫氏撮影写真 2 点	放送大学授業番組での使用
2	26	千葉県立中央博物館	伏竜骨図写真 6 点	特別展での展示および関連出版物・印刷物への掲載
3	7	アテネ株式会社	断層はぎ取り標本写真 1 点	動画教材での使用
3	9	松ヶ崎小学校 PTA	魚類写真 12 点	PTA による教材での使用

＜映像資料以外・館内熟覧・撮影＞ 計 27 件 5012 点

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	16	ふじのくに地球環境史ミュージアム	植物さく葉標本 1134 点	学術研究
5	15	京都大学大学院	スミレ類さく葉標本 3 点	学術研究
6	28	京都先端科学大学	石材加工整形・家事用具 5 箱・1 点	学術研究
7	13	国立科学博物館	ナマズ目標本 131 点	学術研究
8	5	京都大学大学院	ムカデ類標本 23 点	学術研究
8	13	小谷 誠氏	伏龍骨図並序 1 点	学術研究
8	18	滋賀県立大学環境科学部	イブキカモジグサさく葉標本 38 点	学術研究
9	8	滋賀県立大学環境科学部	掘與曾市採集植物標本 601 点	同定作業
9	13	齋藤 葵氏	八日市新地「清定楼」関係資料 294 点	学術研究
9	19	地域とアートプロジェクト実行委員会	魚類写真 19 点 貝類写真 1 点 水草写真 4 点	ワークショップでの使用
9	9	佐々木 賀治氏	モロコ類標本 14 点	学術研究
10	3	青木 貴史氏	東寺文書写真 1 点	「日本歴史」2022 年 12 月号への掲載
10	17	滋賀県立大学環境科学部	掘與曾市採集植物標本 601 点	同定作業
10	18	株式会社京都新聞社	瀬田川筋絵 1 点	紙面およびウェブ版への掲載
10	22	滋賀県植物研究会	掘與曾市採集植物標本 601 点	同定作業
12	20	九州大学総合研究博物館	江本コレクション 約 150 点	学術研究
12	21	滋賀県立大学環境科学部	掘與曾市採集植物標本 601 点	整理作業
12	23	滋賀県立大学環境科学部	掘與曾市採集植物標本 601 点	整理作業
12	23	国立科学博物館	ゾウ化石レプリカ 5 点 アナグマ骨格 3 点	学術研究
12	27	城西大学	魚類化石標本 65 点	学術研究
1	20	京都大学	琵琶湖ボーリングコア資料 1 点	学術研究
2	10	株式会社 CN インターボイス	草野川実測平面図 1 点	科学番組での使用
3	15	大津市歴史博物館	大津町絵図 2 点	学術研究
3	15	高橋 大樹氏	居初家文書 110 点	学術研究

(4) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2022 年度には以下の論文・書籍が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名または 出版物	巻号頁	種 別	活用資料
楊 平・嘉田由紀子	2022	水と生きる地域の力ー琵琶湖・太湖の比較から		272 pp.	書籍	民俗資料・環境資料
林 竜馬	2022	琵琶湖の森の40万年史ー花粉が語るものがたりー		110 pp.	書籍	地学標本
辻 彰洋・中川 恵・溝渕 綾・大塚泰介	2022	淡水棲プランクトン珪藻 <i>Fragilaria longifusiformis</i> ssp. <i>euofusiformis</i> の本邦における近年の出現.	Diatom	38: 14-17	論文	微生物標本
青木 繁	2022	イブキトボシガラ	伊吹山レッドデータプランツ 未来に残したい伊吹山の植物	86	書籍	植物さく葉標本
青木 繁	2022	チョウセンミズヒキ	伊吹山レッドデータプランツ 未来に残したい伊吹山の植物	118	書籍	植物さく葉標本
牧 喜裕	2022	武庫川河川（西宮市戸崎町）でハマデラソウ（ヒユ科）の自生を確認	兵庫県植物誌研究会・会報	131: 1	論文	植物さく葉標本
細川真理子	2022	お客さん、時間ですよー琵琶湖博物館所蔵清定楼の民具ー	淡海文化財論叢	14: 266-271	論文	民俗資料
加藤秀雄	2022	神を助けた俵藤太と猿丸太夫（1）ー「田原藤太竜宮入りの譚」における南方熊楠の視点ー	淡海文化財論叢	14: 277-282	論文	歴史資料
渡部圭一	2022	近代琵琶湖の堅釜 後編	民具マンスリー	55: 13948-13960	論文	民俗資料
渡部圭一・落合知帆	2022	比良山麓の石工の仕事と資源管理	日本各地につたわる伝統知・地域知	88-95	論文	民俗資料
Hashimoto, S., Kakehashi, R, Mori, T., Kambayashi, C., Kanao, S & Kurabayashi, A.	2022	The complete mitochondrial genome of a bagrid catfish, <i>Tachysurus nudiceps</i> , and its phylogenetic implications for the classification of the bagrid genera	MITOCHONDRIAL DNA PART B	7: 606-608	論文	動物標本
Sawada, N. & Fuke, Y.	2022	Systematic revision of the Japanese freshwater snail <i>Semisulcospira decipiens</i> (Mollusca: Semisulcospiridae): implications for diversification in the ancient Lake Biwa	Invertebrate Systematics	36: 1139-1177	論文	動物標本
Sawada, N. & Fuke, Y.	2022	Diversification in ancient Lake Biwa: integrative taxonomy reveals overlooked species diversity of the Japanese freshwater snail genus <i>Semisulcospira</i> (Mollusca: Semisulcospiridae)	Contributions to Zoology	92: 1-37	論文	動物標本

(5) 水族飼育員による生体資料の利用による成果

当館では、水族資料として生物の生体を飼育しており、その飼育管理技術の向上に水族飼育員が取り組んでいる。今年度は、その成果を下記の通り発表および出版した。また、当館で系統保存を行っている1種の魚類（ズナガニゴイ）について日本動物園水族館協会より初繁殖認定を受けたほか、学芸員資格審査認定に3名が、飼育技師資格認定試験に1名が合格した。

南條花菜子, 長田智生, 吉川真一郎 (2022年6月16日) 抽水植物ヨシの継続した展示に向けた取り組み. 日本動物園水族館協会第88回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 城崎マリンワールド, [口頭発表].

鈴木崇大, 中務裕子, 杉野潤, 金尾滋史 (2022年6月16日) バイカル湖産ヒメハヤの水槽内における自然繁殖と仔稚魚の成長. 日本動物園水族館協会第88回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 城崎マリンワールド, [口頭発表].

中務裕子, 鈴木崇大, 杉野潤, 鈴木隆仁 (2022年12月18日) 飼育下におけるマミズクラゲの餌に関する研究.

第16回 NCB (日本刺胞動物腔腸動物研究談話会) 清水大会, オンライン, [口頭発表].

武富鷹矢 (2022) ツチフキの繁殖技術確立を目指して. *どうぶつと動物園*, 728: 14.

安川浩史 (2022年12月1日) ズナガニゴイ *Hemibarbus longirostris*. 初繁殖認定, 日本動物園水族館協会.

武富鷹矢, 安川浩史, 鈴木崇大 (2023年2月20日) 学芸員資格審査認定合格. 文化庁.

山口久瑠実 (2023年3月10日) 飼育技師資格認定 (水族飼育), 日本動物園水族館協会.



初繁殖認定書

(6) 資料の利用 (その他)

図書資料については、資料所蔵情報を館外に広く発信するため、2018年度よりデータベースを新システムに移行し、目録所在情報サービス (NACSIS-CAT) への所蔵登録を推進している。2022年度には、閲覧冊数が1,011冊、相互貸借による資料の貸出が5冊、文献複写サービスの受託が124件であった。

3. 資料の保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸 (エキヒューム燻蒸、二酸化炭素燻蒸) および冷凍処理など、防虫・防霉対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行っている。さらに収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物環境調査 (昆虫トラップ調査)、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

収蔵庫内の温湿度については、クラウドサーバー上でリアルタイムに監視するシステムを導入しており、常時 Web 上でその推移を確認、記録している。また湿度の不安定要因として考えられる機械室の加湿器の交換を行った。

(1) 収蔵空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。ほとんどの収蔵庫で、データロガーを使用し、クラウドサーバー上でリアルタイム監視を実施。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月 1 回原則として第 1) 金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週 1 回実施
特別清掃等	生物環境調査の結果から、特別清掃の実施(害虫の増加場所を対象とした一部展示室内)
生物環境調査	年 3 回の生物環境調査 ・2022 年 6 月 10 日～6 月 24 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析) ・2022 年 10 月 28 日～11 月 11 日 昆虫トラップ調査 252 カ所(設置・回収・分析) ・2023 年 1 月 27 日～2 月 10 日 昆虫トラップ調査 252 ヶ所(設置・回収・分析) *当館の IPM 基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種（チャタテムシ）の個体数（捕獲指数）が 1

(2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップの結果を踏まえて、害虫の発生源となりやすい箇所等について、今後の対策の検討を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を 5 回、エキヒューム燻蒸を 2 回実施した。また、密閉テント方式のエキヒューム燻蒸を 1 回実施した。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。また 2022 年 12 月に旧式化した燻蒸庫の制御盤の交換を行った。

5 展示

1. 展示活動

新型コロナウイルス感染症対策のため、前年度から引き続き、年度当初から入館人数を制限しながらの展示公開となった。しかし、ワクチン接種の回数の増加や世界的な緩和の方向性を受け、10月16日をもって予約システムの運用を中止し、新型コロナ前と同じ入館方法に戻った。ただし、展示室での感染症対策は基本的に継続しており、飛沫感染のリスクを下げるための対策をおこない、においの展示、布製の展示物などは引き続き利用を制限した。例年冬季に行う展示交流員による「展示交流員と話そう」は再開したものの、質問コーナー担当者が担当日に行うフロアトークは、前年度に引き続いて中止した。

2020年10月にリニューアルオープンしたA展示室では「地域の人びとによる展示」、同じくB展示室では「学芸員のこだわり展示」のコーナーをそれぞれ設けることにより、定期的に新しい情報を発信できるよう工夫している。C展示室や水族展示室では、小さな展示更新を複数実施し、あるいは準備した。水族展示室、ディスカバリールーム、おとなのディスカバリーでは、主として季節に合わせた展示更新を行った。さらに現在、すでに導入されている「ポケット学芸員」の活用による音声ガイドの増強と多言語化、QRコードなどを活用した展示とインターネットコンテンツとの連携などを構想し、一部を試行している。

第30回企画展示「チョウ展」は、人気の昆虫がテーマだったからか、琵琶湖博物館の企画展示史上最多入場者85,291人を記録した。また、1件のギャラリー展示および10件のトピック展示が行われた。ギャラリー展示1件およびトピック展示のうち8件は、琵琶湖博物館以外の主催あるいは共同主催であり、展示を通じた地域の様々な団体との連携が進んだ。

特筆すべき大きな出来事としては、2023年2月10日に、水族展示室のビワコオオナマズ水槽が破損したため、翌11日より水族展示室が全面的に閉鎖したことがあった。今後の水族展示のあり方も含めて、展示空間の安全性について多様な視点で再考する機会となった。

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

・ 地域の人びとによる展示

展示室の出口付近にあるこのコーナーでは、地域で調査をされている方が自らの標本を使った展示を、当館の職員と相談をしながら行っている。おおよそ半年ごとに展示する人や内容を替えている。

1. 宇治田原の植物化石

展示した人：馬越仁志さん

期間：2021年10月2日～2022年4月3日

2. 私たちと化石の出会い

展示した人：杉山國雄さん、杉山育代さん

期間：2022年4月4日～2022年9月30日

3. 夏休み大人の自由研究（化石編）これはきっと〇〇の〇〇に違いない

展示した人：飯村 強さん

期間：2022年10月1日～2023年3月31日

・ 地域の人々による展示コーナーの展示交流

展示に合わせて、展示コーナー前での標本採集や調査の話や、標本の解説、標本を触る体験など展示している方やその関係者による展示交流を実施した。

2023年3月19日：飯村強

2) B 展示室

・収蔵資料展示「学芸員のこだわり展示」

B 展示室では、2020 年 10 月のリニューアルオープンを機に、展示室内の館蔵品紹介コーナーにおいて「学芸員のこだわり展示」と題した展示を実施することとした（毎回の会期 1～2 か月程度、年間 6～10 回程度の実施を予定）。当館の歴史系分野（考古、歴史、民俗）における資料の収集・保存・整理・公開活動または研究成果に関わる資料を、トピック展示として順次紹介する。これは、展示リニューアル前の B 展示室「蔵ケース」で開催していた展示を継承して行うものである。

期 間	タイトル・展示資料名
3 月 15 日～5 月 22 日	第 10 回学芸員のこだわり展示「描かれた瀬田川の砂州」 ・瀬田川筋絵図 ・大津瀬田川流域絵図
5 月 24 日～7 月 10 日	第 11 回学芸員のこだわり展示「画になる汽船」 ・二番丸錦絵 ・金亀丸錦絵 ・琵琶湖観光絵はかき
7 月 13 日～8 月 26 日	第 12 回学芸員のこだわり展示「三人の歌川広重―伝統と個性―」 ・広重五十三次名所図会大津 複製 ・二代広重 東海道大津 複製 ・三代広重 東海道名所改正道中記大津 複製
9 月 27 日～11 月 20 日	第 13 回学芸員のこだわり展示「重要文化財・琵琶湖博物館所蔵東寺文書展 写された鎌倉時代の古文書―手継証文―」 ・上桂庄重書案、館蔵「東寺文書」6(4) 南北朝時代・14 世紀 重要文化財 ①正和 2 年 (1313) 後宇多上皇御起請符案 6-1 (4-1) ②嘉暦 3 年 (1328) 関東施行状案 6-2 (4-2) ③建武 3 年 (1336) 光厳上皇院宣案 6-3 (4-3) ④文保元年 (1317) 後宇多院院庁下文案 6-4 (4-4) ⑤康永 4 年 (1345) 光厳上皇院宣案 6-5 (4-5) ⑥貞和 4 年 (1348) 足利直義施行状案 6-6 (4-6)
11 月 22 日～1 月 22 日	第 14 回学芸員のこだわり展示「琵琶湖真景図でさがそう―湖西編―」 ・琵琶湖真景図
1 月 28 日～3 月 12 日	第 15 回学芸員のこだわり展示「琵琶湖のすごいつりざお」 ・モロコザオ ・馬井助浮子 ・魚籠 ・琵琶湖周辺の釣り場地図 ・モロコ釣り指南書
3 月 15 日～5 月 22 日	第 16 回学芸員のこだわり展示「鳥の眼から見たように―琵琶湖観光鳥瞰図―」 ・吉田初三郎画「琵琶湖名所鳥瞰図」(『琵琶湖遊覧御案内』太湖汽船株式会社、1926 年)《3 月 14 日～4 月 16 日展示》 ・吉田初三郎画「琵琶湖名所鳥瞰図」(『琵琶湖遊覧御案内』太湖汽船株式会社、1927 年)《3 月 14 日～4 月 16 日展示》 ・『比叡山ケーブル案内』1927 年以降《3 月 14 日～4 月 16 日展示》

期 間	タイトル・展示資料名
3月15日～5月22日	(※第16回学芸員のこだわり展示、のつづき) ・西村宇一画「琵琶湖鉄道汽船交通鳥瞰図」(『びわ湖遊覧御案内』太湖汽船、昭和時代)《3月14日～5月21日展示》 ・吉田義人(表紙)・西村宇一(鳥瞰図)画『びわ湖島めぐり』太湖汽船、昭和時代《4月18日～5月21日展示》 ・吉田義人画「びわ湖を中心とする遊覧地交通鳥瞰図」(『伊勢より びわ湖へ』太湖汽船ほか、昭和時代)《4月18日～5月21日展示》

3) C 展示室

①「ヨシ原に入ってみよう」ゾーン

ヨシトンネルのカヤネズミ生体展示において、中止していたマグネットボードの運用を2023年3月10日より再開した。

②「田んぼへ」ゾーン

TNB48 第二期メンバー(アメリカザリガニ、ナゴヤダルマガエル、カブトエビ、ヒメガムシ)への入れ替えを7月5日に行った。11月1日に「中池見湿地のドジョウ」を追加して第二期の展示がそろった。

③「川から森へ」ゾーン：「琵琶湖の川と森を守る人々」コーナー

A) このコーナーでは、川を守る活動をしている人びとや団体を紹介しており、11月26日に玉一アクアリウムのポスター「明石川と共に生きる～神戸市絶滅危惧Bランク ヒラテテナガエビ～」の前で、児童(小学校2名)が活動内容について口頭で発表し、来館者と交流を行った。

B) 2023年2月2日より、やまのこ施設「森の未来館」のチラシを設置した。

④「これからの琵琶湖」ゾーン：「研究スタジアム」コーナー

毎年更新する「これからの琵琶湖コーナー」にある研究スタジアムは、12月19日に第7期に更新された。各ブースの展示担当は、川瀬・島本(1巡目)、山川・楊・八尋(2巡目)である。

⑤「これからの琵琶湖」ゾーン：オピニオンボード

オピニオンボードに掲示されているカードを四半期ごと(6月30日、9月30日、12月25日、3月31日)に回収した。これらのオピニオンカードを期間別、内容別に分類したものをファイリングして館内部で閲覧できるように副館長室前に下記の通り設置した。

2022年11月27日：2021年12月から2022年9月分について設置

2023年2月23日：2022年9月から12月分について設置

4) 水族展示室

常設展示では、琵琶湖から川に遡上してくる魚種の季節ごとの入れ替え、一部の水槽において展示種の追加や入れ替えを実施し、季節を通じた琵琶湖周辺の魚類を見てもらえるよう工夫した。また、2022年5月に琵琶湖で採捕されたチョウザメ(ベステル)の展示を常設展示で開始し、飼育している魚類の安易な放流防止を呼び掛けた結果、多くのメディアにも取り上げられた。さらに、夏休みには水生昆虫をテーマとしたトピック展示を行ったほか、また9月には水族展示では初となるイワナの特種斑紋集団であるナガレモンイワナの展示も開始した。新たな取り組みとして、今年度より保護増殖センター前のスペースを活用して水族飼育員の繁殖技術成果の紹介や話題にあわせた水族トピック展示を企画し、2022年度は3回実施したほか、アトリウムでも滋賀県で100年ぶりに再発見されたミナミヌマエビを紹介する水族トピック展示を開催した。マイクロアクアリウムでは当館で繁殖を行ったノロ(大型のミジンコの仲間)の生体展示を初めて行ったほか、マミズクラゲなど毎年実施している展示も行った。このほか、一部の水槽についてLED照明の更新、魚

名板の更新、親水フィルムの施工、水槽裏作業エリアの安全壁の設置などの更新を実施した。

2023年2月10日の午前中にビワコオオナマズ水槽が破損し、水族展示室を閉鎖することとなった。ビワコオオナマズ水槽周囲のみならず、水族展示室の約半分のエリアが浸水するなど大きな被害となったが、現場の復旧作業を行うと共に、その他の水槽の安全点検を実施している。また、この閉鎖期間中においても、水槽の改良や魚の移動などを行っており、部分再開後の展示にむけて、スタッフ一丸となって準備を行っている。

4月28日～	よみがえれ！日本の淡水魚	水族トピック展示「初繁殖認定ツチフキ」開始
5月9日～	下流域の魚たち水槽	アユの展示開始
6月14日～	連れてこられた生き物たち	琵琶湖で捕獲されたチョウザメ（ベステル）の展示開始
5月23日～	トンネル水槽	アユの展示開始
7月2日～	マイクロアクアリウム	ノロの展示開始
7月12日～	水鳥の水槽前	水族トピック展示「滋賀にいる水生昆虫」開始
7月31日～	下流域の魚たち水槽	ハスの展示開始
9月6日～	古代湖の世界	マラウィ湖水槽の底質交換
9月6日～	アブラヒガイ水槽	擬岩設置
9月6日～	イワトコナマズ水槽	擬岩設置
9月27日～	よみがえれ！日本の淡水魚	ナガレモンイワナの展示開始
10月4日～	よみがえれ！日本の淡水魚	水族トピック展示「スジシマドジョウ類の繁殖」開始
10月17日～	よみがえれ！日本の淡水魚	アユモドキ水槽の底質交換
10月25日～	連れてこられた生き物たち	オヤニラミの展示開始
11月7日～	下流域の魚たち水槽	ビワマスの展示開始
11月11日～	下流域の魚たち水槽	ビワマスの卵展示開始
11月28日～	下流域の魚たち水槽	「アユ、ビワマス採捕禁止」のぼり旗設置
12月11日～	下流域の魚たち水槽	オイカワの展示開始
12月12日～	下流域の魚たち水槽	ウグイ未成年、ハス未成年、アユ、ウツセミカジカの展示開始
1月4日～	よみがえれ！日本の淡水魚	水族トピック展示「ウサギギギ・ネコギギ」開始
1月9日～	古代湖の世界	バイカル湖水槽（小）にカイメン模型設置
1月26日～	下流域の魚たち水槽	ワカサギの展示開始
2月6日～	よみがえれ！日本の淡水魚	アユモドキ水槽の底質交換
2月10日～	ビワコオオナマズ水槽破損に伴い水族展示室を閉鎖	
2月16日	連れてこられた生き物たち	外来種水槽釜場の改良
2月18日	古代湖の世界	マラウィ湖水槽下部循環釜場の改良
2月20日	湖底の生き物水槽	バックスクリーン設置
3月1日	内湖・ヨシ原水槽	ヨシ帯植栽部分改良、ヨシ植栽
3月2日	ふれあい体験室	ふれあい水槽破損
3月18日	古代魚水槽	琵琶湖で捕獲されたベステル収容
3月14日～	アトリウム	水族トピック展示100年ぶりの再発見！滋賀県産ミナミヌマエビ」開始
3月19日	ホンモロコ水槽	スゴモロコ収容（トンネル水槽より）
3月20日	ニゴロブナ水槽	ニゴロブナ、ハス収容（トンネル水槽より）
3月20日	カイツブリ水槽	ゲンゴロブナ、ニゴロブナ収容（トンネル水槽より）

3月20日	ワタカ水槽	コイ（野生型）、ニホンウナギ収容（トンネル水槽より）
3月20日	下流域の魚たち水槽	ニゴイ、ウグイを収容（トンネル水槽より）
3月20日	バイカル湖水槽	ビワマスを収容（トンネル水槽より）
3月20日	内湖・ヨシ原水槽	ニゴロブナを収容（トンネル水槽より）
3月21日	ビワヒガイ水槽	バックスクリーン設置
3月25日	スゴモロコ水槽	バックスクリーン設置
3月26日	ウツセミカジカ水槽	バックスクリーン設置
3月27日	連れてこられた生き物たち	チャネルキャットフィッシュ収容

5) D展示室 ディスカバリールーム

「子どもと大人が一緒に楽しむ体験と発見」をテーマに、2018年7月6日リニューアルし、新しい展示構成となった（展示構成は以下の表のとおり）。「琵琶湖博物館の入口」となる展示室という方針のもと、五感や実物標本を使った体験型展示により学び発見する喜びを知ってもらえる場となっている。具体的には、五感を使う展示、だれもが楽しめる展示、本物を体験する展示、身近なものをテーマにした更新展示を軸に構成し、小さなころから博物館に親しむことでミュージアムマナーも身につけられるような場を目指している。

	コーナータイトル	内 容	概 要
1	さわってみよう	化石・レプリカ・石	触覚を使い、材質による手触りの違いを知る
2	聞いてみよう	コオロギ、アマガエル、コウモリの模型	聴覚を使い、生き物が音を出す仕組みを知る
3	におってみよう	季節の植物の匂い抽出液、オオサンショウウオの匂い（人工）	嗅覚を使い、生き物が出す匂いや意味を知る（2021年度コロナ対策のため休止）
4	大きくしてみよう	昆虫類、植物、鳥のハネ、アザラシのひげなど	視覚を使い、普段と違う視点で拡大して見る
5	さがしてみよう	カラス・フクロウ・スズメ・カワセミを双眼鏡で探す	発見する楽しみを知る導入として、室内の生き物を探す
6	見つけてみよう ー生き物のすみかー	キツネ、タヌキ、ネズミ、モグラの剥製など	空間的に配置した剥製を体感しながら生き物のすみかを知る
7	見つけてみよう ー生き物のかたちー	タヌキの剥製、骨格標本、信楽焼きのタヌキ	目線近くに配置した剥製をじっくり観察し、頭の中のイメージとの違いに気づく
8	のぞいてみよう ー魚の世界ー	ナマズ、コイ、ニゴロブナ	間近でじっくり観察し、さらに人それぞれの見え方の違いに気づく
9	人形げきじょう	季節ごとのパペット	人形劇を通じて、琵琶湖や滋賀の昔話を知る
10	おばあちゃんの台所	井戸、いろり、かまどなど	昭和の古民家を再現
11	ザリガニになろう	ザリガニ大型模型	ザリガニになった気持ちでエサを獲り、外来種の問題を知る
12	ディスカバリーコーナー	季節ごとのディスカバリーボックス	館内の多様なテーマごとに詰め込んだボックス
13	イノシシの歯、コウモリの歯	2種のアゴの動き方模型	歯の役割、仕組みを知る
14	みんなのたからもの	来館者が見つけた宝物	参加型の展示コーナー
15	ブックコーナー	図鑑類	学芸員が子どもの頃読んでいた本の紹介
16	糸描きコーナー	毛糸で絵を描くボード	

各コーナーで季節に合わせた展示物の入れ替えを次の表の通り実施した。

【季節展示】

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	夏 version	6月23日～9月12日

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	七夕	7月5日～7月7日
	お月見	8月31日～9月13日
	秋 version	9月13日～11月4日
	冬 version	11月5日～12月3日
	冬至	12月6日～12月22日
	お正月	12月23日～1月17日
	七草	1月6日～1月7日
	節分	1月18日～2月4日
	ひな祭り	2月7日～3月4日
	春 version	3月5日～3月31日
ブックコーナー	春 version	5月12日～6月17日
	夏 version	6月21日～9月9日
	学芸員の紹介本	7月～1月
	秋 version	9月13日～12月8日
	冬 version	12月9日～2月22日
生きものの展示	ナマズ	常設
	コイ	常設
	フナ	常設
	カイコ	8月2日～9月30日
みつけてみよう	ライトボックス、ハウチワカエデ、カラスエンドウ	5月10日～5月20日
	ライトボックス、ハンカチノキ	5月24日～8月5日
	ライトボックス、カヤネズミのレントゲン	8月8日～8月12日
	ライトボックス、コイ・ニゴロブナ・ナマズのレントゲン	8月15日～3月31日
ディスカバリーコーナー	ボックスとんぼトンボ追加	8月10日～3月31日
	ボックスならしてみよう追加	10月18日～3月31日

【常設展示】今年度、制作・追加・変更した展示物

新規作成

「赤飯」レプリカ製作委託

「びわこのいきものパズル」ブルーギル、ゲンゴロウブナ

ディスカバリー型顕微鏡を置くための机、椅子の製作委託

更新

ザリガニになろう 内側ライトつける

ボックス さおばかり 内容物の交換

【期間展示】

・お正月 1月4日から21日 お琴 双六

【その他】

・視察対応 1月7日 多摩六都科学館より3名

日時：4月21日 14:40～15:10

対象：新任職員、新規展示交流員、委託業者

内容：ディスカバリールームの概要説明、各コーナーとディスカバリーイベントの紹介をした。

【ディスカバリールームのイベント】

今年度は、11 月ごろからコロナ対策が緩和され、後半にイベントが集中した。既存のイベントに加え、以下の通り、新規のイベントを 3 本行った。「スタンプでかざろう！かがみもち」は、対象年齢を問わない形にした為、入室した人のほとんどが参加した。気軽に参加できるだけではなく、かがみもちの各種飾りにまつわる説明をしたり、B 展示室の学芸員が鏡餅の歴史について分かりやすく説明したパネルを掲示したりするなど、正月およびかがみもちという文化への興味・関心を幅広い層の利用者が抱けるようなイベントとした。

「大津絵の鬼になってみよう！」と「おひな様の扇をつくろう」は製作の難易度のため、対象を 6 歳以上にした。由来を話したり、参加者同士で展示を見たり、クイズを行ったりすることで、それぞれの行事への理解が深まるようなイベントとした。

【イベント実施一覧】

イベント開催日	イベント名	参加人数
11 月 26 日	森の宝物をさがそう！	21 人
12 月 20 日～1 月 7 日	スタンプでかざろう！かがみもち	494 人
1 月 4 日～1 月 6 日	おたからさがしくじ 2023	約 300 人
2 月 4 日	大津絵の鬼になってみよう！	45 人

6) E 展示室 おとなのディスカバリー

おとなの好奇心を刺激し、おとなが心から楽しめる展示室として、第2 期リニューアルにより2018 年7月6 日に新しく誕生した。より体験的な展示と、博物館で活動している人たちの出会い・集いの場、そしてフィールドへ出たくなるような空間で、繰り返し利用されることを目指した部屋で、しらべるゾーン、質問コーナー、オープンラボ、交流コーナー、滋賀県本コーナーの5 つのゾーンから構成されている。

「しらべるゾーン」の展示更新と交流活動は以下の通りである。

【スケッチテーブル】

2020 年11 月24 日からスケッチテーブルにて「冬の琵琶湖に集まるカモたち」として、ホシハジロ(♂♀)、スズガモ(♂♀)、ハシビロガモ(♂♀)、ヒドリガモ(♂)、オオバン(♂)の剥製を展示した。

【植物】

今年度は第 72 回全国植樹祭しが 2022 のワークショップ(6 月 5 日に開催)やびわ博フェス 2 のワークショップ 022(10 月 23 日)で作成したものを展示することができた。特に、はしかけ「緑のくすり箱」が精力的に展示更新に関わってくれたため、植物を利用した展示物が多くなった。

・植物標本

4 月 イブキフウロ フウロソウ科

・植物細密画

6 月 植物細密画の世界(スイレン、ノアザミ他 16 作品) はしかけ「湖(こ)をつなぐ会」杉野由佳さん

11 月 植物細密画の世界(晩秋の植物ノブドウ、サネカズラ、ジュズダマ他 20 作品)

はしかけ「森人」矢原 功さん

1 月 樹冠トレイル虹景 出口武洋さん

3 月 山桜 出口武洋さん

・植物写真(大型)

4 月 桜とヒヨドリ

7 月 湖岸の夏風景

9 月 初期の紅葉

10 月 紅葉終盤

12 月 冬の太古の森

2 月 琵琶湖の雪景色（ケヤキ）

3 月 博物館に生えるタンポポ

37

・植物（映像）

6 月 夏の植物 36 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

9 月 秋の植物 24 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

12 月 冬の植物 39 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

3 月 春の植物 37 点 はしかけ「森人」福岡敏雄さん、はしかけ「温故写真」村山和夫さん

・ハンズオン

7 月 キカラスウリ、ハス、ヘクソカズラ、ドクダミ、オニグルミ

10 月 キンミズヒキ、ハウチワカエデ、カツラ、イチイガシ、ツユクサ

1 月 ヤツデ、サザンカ、ロウバイ、ナンキンハゼ、オニグルミ、クズ、ヌルデ

3 月 セイオユタンポポ、カラスノエンドウ、コメツブツメクサ、シロツメクサ、クスノキ、
ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、ヤツデ、カツラ、ハウチワカエデ、フウ、メタセコイア

・正面展示

6 月 ホタルに関係する草花、ホテイアオイ

10 月 コイブキアザミ、ムラサキシメジ、バカマツタケ

1 月 羽子板と羽根（ムクロジ）

3 月 セイヨウタンポポとカンサイタンポポ（レプリカ）

・正面展示周辺

10 月 藍の叩き染めのエコバック、藍の生葉染めのストール、はしかけ「緑のくすり箱」かとうみゆきさん

12 月 クリスマスリース はしかけ「緑のくすり箱」吉野千栄子さん

・棚（季節の植物：博物館に生える植物・生物）

6 月 アロマウォーター展示 はしかけ「緑のくすり箱」

11 月 植物から抽出した色（ナス、アオバナ、コーヒー、クチナシ、ハイビスカス、マメ）、はしかけ「緑のくすり箱」

【岩石・鉱物・化石】

2022 年 7 月 16 日：コーナーにある中サイズボックスに「三葉虫類の化石」を追加した。

2022 年 8 月 14 日：コーナーにある中サイズボックスに、はしかけグループ「大津の岩石調査隊」のグループ員が企画・製作した『花崗岩は白っぽい』って本当？！』を追加した。

「オープンラボ」での実演や交流活動等の使用実績は118 件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
4 月 5 日	標本観察	川瀬
4 月 7 日	液浸魚類打ち合わせ	田畑・川瀬
4 月 9 日		はしかけ ほねほねくらぶ
4 月 10 日	標本観察	川瀬
4 月 12 日	標本観察	松岡
4 月 13 日	プランクトン観察	鈴木

日付	内容	担当
4月16日	たんぽぽの観察	はしかけ たんぽぽ調査はしかけ 中野
4月17日	標本作成	榊永
4月19日	標本作成	榊永
5月1日	標本計測計数	川瀬
5月11日	プランクトン観察	鈴木
5月15日		はしかけ ほねほねくらぶ
5月21日	標本観察	大槻
5月25日	標本観察	大槻
5月28日	オンライン会議	島本
6月5日	標本観察	川瀬
6月14日	耳石研磨	米田
6月15日	プランクトン観察	鈴木
6月20日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
6月21日	標本観察	
6月21日	サンプル作成	松岡・中村
6月21日	Zoom 取材	
6月22日	昆虫観察	はしかけ 大槻
6月28日	企画調整打ち合わせ	大槻
7月1日	企画調整打ち合わせ	島本
7月6日	酵母の観察	はしかけ 緑のくすり箱
7月13日	プランクトン観察	鈴木
7月17日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
7月23日	酵母の観察	はしかけ 緑のくすり箱
7月25日	打ち合わせ	松岡
7月26日	取材対応	松岡
7月28日	保全関連	はしかけ 海浜植物守りたい
8月1日	企画調整打ち合わせ	島本
8月2日	保全関連	はしかけ 海浜植物守りたい
8月4日	打ち合わせ	楊
8月4日	オンライン	楊
8月8日	標本観察	川瀬
8月9日	標本観察	川瀬
8月13日	ムカデ観察	鈴木
8月14日	ムカデ観察	鈴木
8月15日	オンライン会議	武政
8月17日	プランクトン観察	鈴木
8月27日	オンライン会議	金尾
9月1日	標本調査	川瀬
9月10日	標本観察	川瀬
9月11日	花粉観察	フィールドレポーター中野

日付	内容	担当
9月14日	プランクトン観察	鈴木
9月14日	会議	
9月22日	植物化石観察（同志社大学）	山川
9月28日	京都府大	大塚
9月29日	京都府大	大塚
10月2日	持ち寄り植物観察	はしかけ 植物観察の会
10月4日	保全関係	大槻
10月4日	保全関係	はしかけ 海浜植物守りたい
10月5日	水草観察、ソーティング	芦谷
10月6日	水草観察、ソーティング	芦谷
10月7日	総合研究会議	亀田
10月7日	標本観察	川瀬
10月10日	地域連携打ち合わせ	島本
10月12日	プランクトン観察	鈴木
10月19日	びわ博フェス準備	はしかけ 大津の岩石調査隊
10月23日	びわ博フェス	中川
11月5日	フィールドレポーター定例会	鈴木
11月5日	Web 会議	鈴木
11月7日	Web 研究会	金尾
11月10日	標本観察	川瀬
11月16日	プランクトン観察	鈴木
11月18日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
11月22日	プランクトンのソーティング	
11月24日	Web 会議	
11月29日	多賀町四手産植物化石同定作業	はしかけ 古琵琶湖発掘調査隊
12月1日	生態観察池調査	鈴木
12月3日	Web ミーティング	中川
12月4日	持ち寄り植物観察	はしかけ 植物観察の会
12月6日	顕微鏡の使い方	鈴木
12月7日	Web ミーティング	
12月9日	魚類の感丘観察	川瀬
12月13日	顕微鏡観察	林
12月15日	オンライン会議	大槻・島本
12月17日	オンライン打ち合わせ	田畑
12月18日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
12月20日	オンライン取材	田畑
12月20日	生態観察池調査	鈴木
12月24日	プランクトン調査	鈴木
1月4日	Zoom 会議（伊藤忠商事）	川瀬
1月6日	来客対応	島本

日付	内容	担当
1月8日	冬の植物観察	はしかけ 植物観察の会
1月8日	顕微鏡観察	BCK
1月10日	Zoom 会議	八尋
1月13日	情報誌「びわはく」打ち合わせ	美濃部
1月15日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
1月17日	生態観察池のプランクトン観察	鈴木
1月17日	耳石摘出	米田
1月23日	標本撮影	榊永
1月25日	プランクトン観察	鈴木
1月28日	質問対応	中川
1月29日	標本観察	川瀬
1月30日	標本撮影	榊永
2月1日	Web 会議・研修	金尾
2月6日	Web 研究会	金尾
2月7日	Web 講演	金尾
2月10日	Web 会議	金尾
2月14日	標本観察	川瀬
2月14日	Web 会議	大槻・島本
2月15日	プランクトン観察	鈴木
2月19日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
2月21日	プランクトン観察	鈴木
2月22日	研究打ち合わせ	片山
2月25日	標本観察	川瀬
2月28日	Web 会議	金尾
3月1日	学会（オンライン）	大槻
3月10日	科研費会議	大槻
3月10日	プランクトン観察	鈴木
3月15日	Web 会議	金尾
3月19日	剥製のスケッチ	はしかけ 淡海スケッチの会
3月26日	現代民俗学会	加藤
3月28日	DX 事業打ち合わせ	亀田・大塚・大槻・加藤

「交流コーナー」での使用実績は1件あり、詳細は以下の通りである。

日付	内容	担当
2020 年12 月2 日～	「冬の琵琶湖に集まるカモたち」として、オナガガモ(♂)、ヨシガモ(♂)、キンクロハジロ(♂)、コガモ(♂)の剥製を展示した。	榊永・天野

7) 屋外展示

- ・樹冠トレイルと屋外展示の森を活用した展示交流活動

樹冠トレイルと屋外展示の森を活用していくことを目的に、はしかけグループ「森人（もりひと）」とと

もに、つる植物の管理をはじめとした屋外展示の整備活動を行った。また、展示交流活動として「森人」メンバーを対象にした植物観察を実施した。

展示交流活動では、びわ博フェス 2022 の中で森のガイドツアーを「子供向けのクイズラリー」形式で実施した。クイズラリーは、問題用紙と現場に設置するための A4 ラミネート加工版の問題パネルを作成した。参加者の受付は、アトリウム外で問題用紙を配布して、当日参加形式とした。本年のクイズラリー参加者は、クイズ記入者とその家族などを合わせると延べ約 200 人であり、従来の事前受け意識のガイドツアー(20 人前後)と比較して大幅に増加した。

(2) 企画展示

第 30 回企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」The world of butterflies in Ohmi

① 主旨

近年、滋賀県のチョウをとりまく環境は大きく変化している。琵琶湖博物館の共同研究「滋賀県のチョウ類の分布」の研究成果から、滋賀県に分布する 128 種のチョウのうち、分布域を縮小している種が 10 種、分布域を拡大している種が 7 種いることが分かっている。チョウは身近な昆虫であるが、知っているようで知らない面白い形態や生態を持っている。本展示では、滋賀県のチョウの分布の移り変わりやチョウの不思議な形態や生態を多くの実物標本をもとに紹介した。

また、琵琶湖博物館に寄贈された滋賀県最大級のチョウのコレクションである布藤美之コレクションを公開した。標本の価値のほか、このような標本を博物館が収集、整理し、保管する意義を紹介した。

カイコは人との関わりが深い昆虫である。滋賀県の湖北地方には、伝統的な養蚕の文化がある。人と養蚕との関係の展示を行った。

② 概要

主催：滋賀県立琵琶湖博物館

期間：令和 4 年 7 月 16 日（土）～11 月 20 日（日）＊実質開催日数 113 日

7 月 16 日～10 月 17 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一日の入館者数が制限された。

開館時間：9:30～17:00（16:00 最終入館）

観覧料金：小・中学生 150 円（120 円）、高・大学生 240 円（190 円）、大人 300 円（240 円）

※（ ）は団体料金

※企画展示を観覧するには、常設展示の観覧券が必要

観覧者数：85,291 人、入場率：37.6%、一日最大入場者数：1,681 人

展示企画・製作：八尋克郎（主担当）、榊永一宏（副担当）、松岡由子（副担当）、出口武洋（デザイン）

展示施工：株式会社 本庄

展示協力：岩田政利、上田昇平、内田明彦、遠藤真樹、大槻達郎、奥田香菜、奥山清市、小野克己、梶田聡子、梶田智嗣、金尾滋史、北方健作、神保宇嗣、坂本昇、高石清治、武田滋、寺本憲之、中井克樹、中川優、中邨徹、長崎二三夫、西田謙二、野村哲郎、平井規央、布藤美之、細井正史、八尋由佳、山本毅也、山本由里子、杠隆史、ロビン・ジェームス・スミス

いをぎ・まゆっこ倶楽部、大音養蚕の里づくり協議会、大音糸取り工房、海洋堂（株）、サンライズ出版、滋賀県立大学、西川（株）、丸三ハシモト（株）、むし社、（株）山脇源平商店

③ 展示内容

【概要】

琵琶湖博物館の共同研究「滋賀県のチョウ類の分布」の研究成果を基礎に、滋賀県のチョウの分布の移り

変わりやチョウの不思議な形態や生態について、8つのコーナーに分けて多くの実物標本をもとに紹介した。また、寄贈された布藤コレクション約 11,000 点を展示した。展示に参加できるコーナーとして滋賀県のチョウ 128 種の中で推しチョウを投票してもらう「B. S. P. 総選挙」のコーナーを設けた。集計結果の月別のランキングを展示室内に貼りだすとともに琵琶湖博物館 Facebook で発表した。今回の展示を通して、滋賀県のチョウの分布の移り変わりやチョウの多様さ、不思議さ、面白さを改めて知っていただき、身近なチョウについて関心を持って、フィールドで調べてもらうことを目指した。滋賀県のチョウに関心をもってもらうために、滋賀県に分布する 128 種のチョウのポスターを配布した。企画展示の展示点数総数約 12,000 点。

【各コーナー】

第1章 チョウの不思議

知っているようで知らないチョウの形態や生態の面白さ、不思議さを紹介した。

- 1-1 チョウとガの違い
- 1-2 チョウの鱗粉
- 1-3 チョウの擬態
- 1-4 チョウの生活史
- 1-5 チョウの口
- 1-6 チョウの飛ぶ力

第2章 地域の人たちのチョウの研究

ミドリシジミ類の飛翔の研究、オオムラサキやコムラサキの累代飼育の研究など地域で昆虫を研究している人たちの研究、また、はしかけ「虫架け」の活動を紹介し、チョウの魅力やチョウ研究の面白さを紹介した。

- 2-1 はしかけ「虫架け」の活動
- 2-2 ミドリシジミ類の飛翔の研究
- 2-3 コムラサキの累代飼育の研究
- 2-4 オオムラサキの累代飼育の研究

第3章 滋賀県のチョウ類の分布の移り変わり

滋賀県チョウ類分布研究会の研究成果をもとに、滋賀県には 128 種のチョウが生息していることや、県内で分布域を拡大している種が 7 種、分布域を縮小している種が 10 種いることなど県内のチョウの分布の移り変わりを紹介した。

- 3-1 滋賀県チョウ類分布研究会の活動
- 3-2 滋賀県のチョウ
- 3-3 分布域が縮小しているチョウ
- 3-4 分布域が拡大しているチョウ
- 3-5 絶滅したチョウ

・B. S. P. (Butterflies in Shiga Prefecture)総選挙

第4章 世界のチョウ

世界のチョウ類の多様性を標本で紹介した。ウラモジタテハなど面白い、けったいなチョウも紹介した。

- 4-1 世界のチョウ
- 4-2 けったいなチョウ

第5章 夜のガの世界

チョウと同じ鱗翅目の仲間であるガ類の多様性と夜行性の生態を標本とともに紹介した。

- 5-1 ガの多様性

5-2 なぜ、ガは夜に光に飛んでくるのか

第6章 布藤コレクション

博物館に寄贈された布藤コレクションの価値を標本とともに紹介した。また、コレクションの整理、登録など博物館の資料整理活動の重要性を紹介した。

6.1 布藤氏の略歴とコレクションの価値

6.2 布藤氏の研究業績

6.3 コレクションの整理・登録

第7章 湖北地方の養蚕

湖北地方の伝統的な養蚕文化からカイコと人との関係を紹介した。また、三味線糸、琴糸などカイコの繭を利用した商品を紹介した。

7-1 カイコとは？

7-2 湖北地方の養蚕

第8章 フィールドへ出かけよう

チョウの採集の方法、標本の作り方、飼育の方法などフィールドでの調査方法を紹介した。

8-1 チョウの採集の方法

8-2 チョウの標本の作り方

8-3 チョウの飼育の方法



入りロケート



布藤コレクション



オオムラサキ巨大模型



イモムシベンチ

④ 印刷物

・展示解説書

編集責任者：八尋克郎

著者：八尋克郎、内田明彦、山本毅也、長崎二三夫、北方健作、梶田智嗣

デザイン・イラスト：出口武洋

仕様：A4 サイズ 56 ページ 総カラーページ 1,000 部 7 月 10 日発行 販売価格 400 円 印刷：モリワキ印刷

・企画展示ポスター A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 6 月 20 日発行

デザイン：出口武洋 印刷：柳印刷

・企画展示チラシ A4 サイズ 両面カラー 30,000 枚 6 月 20 日発行

デザイン：出口武洋 印刷：柳印刷

・企画展示滋賀県のチョウポスター A1 サイズ 表カラー 19,000 枚 6 月 20 日発行

デザイン：出口武洋 印刷：柳印刷

⑤ 関連事業

○オープニングセレモニー

7 月 16 日（土）9 時 45 分から企画展示室前にて開催。展示にご協力いただいた方（内田明彦、山本毅也、寺本憲之、梶田智嗣）を招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による内容紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸員による展示の案内を実施した。

○関連イベント

昆虫の標本作り

8 月 7 日（日）10 時 30 分～12 時 30 分 実習室 2 定員 20 名

内容：屋外展示で昆虫を採集し、甲虫とチョウの標本作りを行った。

○来場者 3 万人記念式典

8 月 17 日に来場された方が 3 万人目となり、高橋館長の挨拶、展示解説書および企画展示のオリジナルグッズなど記念品の贈呈などの式典を行った。

○来場者 5 万人記念式典

9 月 20 日に来場された方が 5 万人目となり、西村副館長の挨拶、展示解説書および企画展示のオリジナルグッズなど記念品の贈呈などの式典を行った。

○来場者 7 万人記念式典

10 月 26 日に来場された方が 7 万人目となり、高橋館長の挨拶、展示解説書および企画展示のオリジナルグッズなど記念品の贈呈などの式典を行った。

○コラム

7 月 23 日、湖岸より 滋賀県のチョウの分布の移り変わり、中日新聞、八尋克郎

7 月 22 日、フィールドへ びわ博いちおし⑧ アサギマダラの長距離移動、京都新聞、八尋克郎

8 月 2 日、びわ博こだわり展示の裏話 109 多くの実物標本で伝えるチョウの魅力、毎日新聞、八尋克郎

10 月 24 日、県内のチョウが示す環境変化、滋賀県の昆虫の分布と変遷 1「ビワハツ－琵琶湖博物館研究だより」朝日新聞、八尋克郎

⑥ 取材対応

2022 年 7 月 16 日、読売新聞、希少なチョウ 標本ずらり（7 月 15 日）

2022 年 7 月 17 日、産経新聞、第 30 回琵琶湖博物館企画展示「チョウ展－近江から広がるチョウの世界－」開催のお知らせ（7 月 15 日）

2022 年 7 月 19 日、中日新聞、県内のチョウ多種多彩（7 月 15 日）

2022 年 7 月 17 日、びわ湖放送、企画展示「チョウ展－近江から広がるチョウの世界－」（7 月 16 日）

2022 年 7 月 21 日、京都新聞、チョウ標本 1 万 3 千点 琵琶博企画展「布藤コレクション」中心に（7 月 15 日）

2022 年 7 月 22 日、びわこ大津経済新聞、琵琶湖博物館で「チョウ展」1 万点の標本、県内のチョウ分布移り変

わりなどを展示（7月20日）

2022年8月10日、11日、12日、ZTV、企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」（8月6日）

2022年9月7日、NHK、おうみ発630、企画展示「チョウ展—近江から広がるチョウの世界—」（7月22日）

2022年11月11日、NHKラジオ深夜便「日本列島くらしのたより」コーナー、チョウ展について（10月8日）

2022年10月30日、滋賀民報、琵琶湖博物館で開催中 チョウ展—近江から広がるチョウの世界（10月21日）

2022年11月3日、産経新聞、琵琶湖博物館チョウ展超ヒット（11月1日）

2022年11月15日、産経新聞、琵琶湖博物館の観覧客数「チョウ展」が頂点に（11月14日）

2022年11月24日、びわ湖大津経済新聞、琵琶湖博物館「推しチョウ」総選挙1位にアオスジアゲハ 身近なチョウに栄冠（11月24日）

2022年11月29日、朝日新聞、「チョウ選挙」1位は アオスジアゲハ琵琶湖博物館（11月25日）

⑦ 目標達成度

本企画展示は、2003年から2007年に実施した、地域で昆虫を研究している人たちと琵琶湖博物館の共同研究「滋賀県のチョウの分布の移り変わり」の研究成果の発信と、2017年に彦根市在住の布藤美之さんから寄贈いただいた県内最大級のチョウのコレクションの整理登録が終わり、公開が可能となったことが開催するきっかけである。

7月16日～10月17日まで入館者数を制限していることもあり、当初の目標来場者数は7万人であった。実際の来場者は、85,291人で過去の企画展示の中で最高であった。博物館全体の来場者に対する来場率は37.6%であった。入場率が高いことと、何回も来場する親子連れがあり、リピーターが多いのも特徴であった。

展示期間中に行ったアンケート調査から、チョウという身近なテーマであったことのほか、壁面いっぱいに並ぶ布藤コレクションの展示を代表に、約12,000点という圧倒的な量の滋賀県や世界のチョウの実物標本を中心にしながら、イモムシベンチや日本の国蝶「オオムラサキ」の30倍巨大模型、B.S.P.総選挙の参加型展示など子供でも楽しめるよう展示を工夫したことが多くの来場者の要因であると考えられる。また、今回の展示が「チョウ」という子供に人気のあるテーマであるため、県内のすべての小学生にチラシ配布を行い、広報を強化したことも多くの来場者となった一因と考えられる。なお、滋賀県のチョウの中であなたの推しチョウを選ぶB.S.P総選挙は投票数19,526で多くの方の参加があった。一位アオスジアゲハ、二位ミヤマカラスアゲハ、三位サツマシジミであった。

(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① 森へ行こう、森と生きよう。

期間：2022年3月20日（日）～6月5日（日）

主催：滋賀県琵琶湖環境部全国植樹祭推進室、滋賀県立琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館企画展示室

内容：第72回全国植樹祭の開催を記念して、滋賀県の面積の約半分を占める森をテーマに、森のすごさ、森へ行く楽しさ、木のすごさを紹介した。県内のおすすめの森の紹介パネルや木製品の展示なども活用し、森や木を身近に感じるとともに、これからの森と人との関わりを考えるきっかけとなるような展示とした。

○関連事業

オープニングセレモニー、全国植樹祭開催直前イベント

日時：令和4年（2022年）3月20日（日）10：00から

会場：琵琶湖博物館アトリウム（企画展示室前）

主催：滋賀県琵琶湖環境部全国植樹祭推進室

共催：滋賀県立琵琶湖博物館

内容：展示のテープカットを行うとともに、全国植樹祭に使用する苗木を育てた小学校、および協賛企業へ感謝状の贈呈を行った。セレモニー後は全国植樹祭開催直前イベントとして、企画展示室にて展示に関連したクイズラリーを実施した。また、うみっこ広場にて木製ブロック(ズレンガ)の体験を行った。



ギャラリー展示入り口



森の妖精ゴズーの展示



展示の様子

2) トピック展示等

①第46回「ごはん・お米とわたし」図画の部 入賞作品展示

期間：2022年3月25日（金）～4月10日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品の中から選ばれた入賞作品を展示した。

②「春の近江百景 2022 フォトコンテスト写真展」

期間：2022年6月1日（水）～15日（水）

主催：株式会社フリーペーパー道の駅滋賀

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：フリーペーパー道の駅滋賀がSNSで募集し選ばれた春の写真を展示した。

③「夏の近江百景 2022 フォトコンテスト写真展」

期間：2022年9月13日（火）～25日（日）

主催：株式会社フリーペーパー道の駅滋賀

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：フリーペーパー道の駅滋賀がSNSで募集し選ばれた夏の写真を展示した。

④「秋の近江百景 2022 フォトコンテスト写真展」

期間：12月1日（木）～15日（木）

主催：株式会社フリーペーパー道の駅滋賀

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：フリーペーパー道の駅滋賀がSNSで募集し選ばれた秋の写真を展示した。

⑤「しがCO2 ネットゼロを学ぼう！」

期間：12月1日（木）～18日（日）

主催：滋賀県総合企画部CO2 ネットゼロ推進課

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県が推進するCO2削減の取り組みを紹介した。関連ワークショップも開催した（12月18日）。

⑥2022年こどもエコクラブ絵日記、壁新聞展示

期間：2022年12月1日（木）～2023年1月10日（火）

主催：琵琶湖博物館環境学習センター

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：淡海こどもエコクラブの活動でつくられた絵日記と壁新聞を展示した。

⑦「トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え！」

期間：2023年1月31日（火）～2月26日（日）

主催：生物多様性びわ湖ネットワーク、

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀のトンボを守り環境を保全する企業の取り組みを紹介した。

⑧「冬の近江百景 2022 フォトコンテスト写真展」

期間：2023年3月1日（水）～15日（水）

主催：株式会社フリーペーパー道の駅滋賀

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：フリーペーパー道の駅滋賀がSNSで募集し選ばれた冬の写真を展示した。

⑨「ヨシっていいね！」

期間：2023年3月14日（火）～3月28日（火）

主催：琵琶湖博物館環境学習センター

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：ヨシやヨシが生育する環境を知り守るために、風景や祭り、ヨシ製品などを紹介した。

⑩第47回「ごはん・お米とわたし」図画の部 入賞作品展示

期間：2023年3月23日（木）～4月9日（日）

主催：滋賀県農業協同組合中央会

場所：琵琶湖博物館アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品の中から選ばれた入賞作品を展示した。

(4)展示室における新型コロナ対策

常設展示においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、一部の展示物の撤去、変更などをしながら、来館者に楽しんでもらえる展示を心がけてきた。2021年度に、目鼻口を近づける展示物および布製で消毒が困難な部分を除いて制限緩和を行ったが、それ以降 2022 年度には展示室での大規模な制限緩和は行わなかった。各展示室での展示物の制限と状態は以下のとおりである。

・ A展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
琵琶湖と生き物のものがたり	ものがたりがねむるところ	調査なりきり（作業着・ヘルメット）	制限を継続（撤去中）
うつり変わる生き物	ワニの展示	マレーガビアルの頭骨レプリカ	制限を緩和
うつり変わる気候と森	くり返す気候と森	コーナー閉鎖用カーテン	制限を継続（撤去中）
うつり変わる気候と森	くり返す気候と森	冬の気温体験	制限を継続（休止中）

・ B展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
私たちの暮らしのはじまり	フォトスポット	なりきり体験（考古学者、縄文人）	制限を継続（布製のため撤去中）
森ゾーン	森にくらす	みわけよう（5種類の木の実を分ける展示）	制限を継続（木の実を入れた容器に透明のフタ設置）
森ゾーン	森をつくる	におってみよう（マツタケ入りのすき焼き）	制限を継続（におい体験休止中）
水辺ゾーン	水辺でかせぐ	におってみよう（シジミ汁）	制限を継続（におい体験休止中）

・ C展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
ヨシ原にはいってみよう	ヨシトンネル	におってみよう（ヨシ）	制限を継続（におい体験休止中）
ヨシ原にはいってみよう	人とヨシとのつきあい	ヨシズ編みハンズオン	制限を継続（撤去中）
川から森へ	カワウのすむ森	持ってみるカワウ	制限を継続（布製のため撤去中）
川から森へ	カワウのすむ森	カワウのすむ森のにおい	制限を継続（におい体験休止中）
川から森へ	スギ林・ヒノキ林を見にいこう	なりきりスポット	制限を継続（手袋・メガネ・ヘルメット・服を撤去）
川から森へ	スギ林・ヒノキ林を見にいこう	におってみよう（スギ・ヒノキ）	制限を継続（におい体験休止中）
生き物コレクション	植物コーナー	ドングリをみわけろ	制限を継続（撤去中）
これからの琵琶湖	研究スタジアム	各ブースのイス	制限を継続（一部撤去中）
これからの琵琶湖	オピニオンボード	カード記入テーブルのイス	制限を継続（一部撤去中）

・ 水族展示室

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
湖の主、ビワコオオナマズ	ビワコオオナマズ水槽	ビワコオオナマズ模型	制限の継続（幼魚展示に変更中）

ゾーン名	コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
湖魚を食べる暮らし	川魚屋	におってみよう（フナズシ）	制限の継続（におい体験休止中）
湖魚を食べる暮らし	川魚屋	トロ箱展示	制限の継続（アクリルのフタを設置）
古代湖の世界	バイカルアザラシ水槽	バイカルアザラシ水槽	制限の継続（ローピング）
ふれあい体験室	ふれあい体験室	タッチングプール	制限の継続（閉鎖中）
マイクロアクアリウム	マイクロバー	マイクロバーの運用	制限の継続（土日のみ運用）
マイクロアクアリウム	マイクロバー	バーカウンター上の顕微鏡	制限の継続（来館者が接眼レンズを除くことを制限）

・ディスカバリールーム

コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
全体	全体	ディスカバリー券を発行して入室人数を調整中
におってみよう	オオサンショウウオ、ヨモギ、クスノキ	制限の継続（撤去中）
さがしてみよう	双眼鏡	制限の継続（撤去中）
見つけてみようー生き物のすみかー	タヌキのトンネル	制限の継続（閉鎖中）
のぞいてみようー魚の世界ー	スケッチ	制限の継続（撤去中）
人形げきじょう	舞台、人形	制限の継続（舞台閉鎖中、人形撤去中）
おばあちゃんの台所	アメノイオご飯のにおい	制限の継続（におい体験休止中）
おばあちゃんの台所	着物、食品レプリカ	制限の継続（撤去中あるいは触れないように展示中）

・おとなのディスカバリー

コーナー名	制限中の展示	年度末の状態
文書	老眼鏡	制限の継続（撤去中）
スケッチテーブル	スケッチの体験	制限の継続（水鳥の展示中）
調べるコーナー	紙と鉛筆	制限の継続（撤去中）
交流コーナー	イス	制限の継続（一部撤去中）

2. 展示交流

(1) コロナ禍における展示交流の構築

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアトーク」を行ってきた。今年度も新型コロナウイルス感染症対策（コロナ対策）のために中止された。展示交流員は本来毎年12月から3月の間には、来館者との交流の充実をはかるために「展示交流員と話そう」という展示解説・交流を実施していたが、こちらも中止となった。一方、ハンズ・オン展示が多用されている当館では、飛沫感染の恐れのない展示に関しては随時展示を通常時の展示に戻し、ウィズコロナを見据えた展示転換を行った。

(2) 展示交流員のコロナ対策

展示交流員は、来館者が密閉、密集、密接といった3密状態にならないように展示誘導を行うとともに、展示物の清掃・消毒を行うことでコロナ対策をしている。また、フェイスシールドを装着し、コロナ対策を徹底している。さらに、エントランスには事前決済のWebチケットを導入し、チケットブースにはキャッシュレス決済を取り入れた。これらのシステムを導入することで、来館者と交流員の物理的な接触を減らし、コロナ感染症リスクの軽減につとめた。

(3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における1) 安全確保、2) 快適な環境の提供、3) 展示室での発見のサポート（展示交流）といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素である。そのいっそうの充実をはかるために「展示交流員と話そう」を実施している。新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度と2021年度は「交流員と話そう」は実施しなかったが、本年度は従来通り12～3月にかけて実施した。

展示交流員が普段の展示交流にある「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで行った。実施前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備をした。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫をした。

実施期間：2022年12月1日～2023年3月20日

実施人数：展示交流員 28名

実施回数：展示室での来館者の状況により随時実施

【実施内容】

展示室	名前	実施テーマ	実施場所
アトリウム	斉藤 文子	「琵琶湖四季彩」	アトリウム
B展示室	奥村 恵子	琵琶湖の漁具	琵琶湖の漁具の前
	木下 睦司	焼畑の見直し	森をひらく
	木村 寿枝	芋競べまつり	芋競べまつり前
	西村 尚代	丸小船	丸小船前
	藤村 美佐子	エリ漁法	エリ
	大原 幸子	ハナバイ	ハナバイ前
C展示室	今泉 美保	「持続可能」な暮らしを見つけよう	富江家のくらし
	片岡 典子	～滋賀限定～比叡山と琵琶湖のコラボ～ローター雲～	空ビワ

	福本 嘉子	私のルリタテハ	生き物コレクション
	満田 千秋	内湖の今昔	データベースにみる内湖の今昔モニター前
	古澤 朋枝	カヤネズミ	カヤネズミ
	安藤 慶子	田んぼのマイクロワールド	田んぼのマイクロワールド
	川崎 明美	富江家のくらし カワヤ・風呂を中心に	富江家
水族展示	林 克子	トンネル水槽の魚たち	トンネル水槽
	坂上 麻理	古代魚と魚の進化	チョウザメ水槽前
	佐野 絢	もう1匹の主？オオサンショウウオ	中流域水槽前
	阪路 美津子	バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽
	西村 典子	ビワコオオナマズ	オオナマズ前
	西 美咲希	ビワマス	トンネル水槽
	橋本 友美	カイツブリ	水鳥
	目片 純子	ノロ	マイクロバー
	石塚 幸子	チョウザメ	チョウザメ水槽前
	深川 理恵	バイカルアザラシ	バイカルアザラシ水槽
	熊谷 明美	マミズクラゲ	マイクロバー
ディスカバリールーム	田中 美紀	どんぐりころころ	ディスカバリールーム
おとなのディスカバリー	板垣 真由美	カモかも？ 琵琶湖の水鳥たち	水鳥の剥製前
	柳原 徳子	植物のたねの戦りやく（紙フィギュアをとばそう）	おとなのディスカバリー内

(4) 展示交流員おすすめ展示資料 WEB 図鑑の作成

中長期基本計画の事業目標 4 では「もっと使いやすい博物館へ」を目指して、多くの展示へのアクセシビリティを確保するための、新たな ICT 技術を用いたガイド手法の導入を事業目標としている(4-1. 誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長)。

そのため、個別の展示資料に関するガイドコンテンツ拡充を目指した、新たな「展示資料 WEB 図鑑」システムの構築を計画している。「展示資料 WEB 図鑑」の構築については、事業目標 2 の「資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備」の中でも課題とされており(2-3. ICT を利用し、だれでも・どこでも・いつでも使える博物館を創出)、新システム構築により双方の事業の進展が望まれる。

2022 年度には、展示室内のさまざまな展示物の魅力について多様な発信を推進するため、展示交流員によるおすすめ展示のポイントを紹介した「展示資料 WEB 図鑑」のコンテンツ作成を進めた。2023 年 3 月 13 日の交流員研修の中で、18 名の交流員による 48 点のおすすめ展示資料紹介コンテンツを作成した。

6 館外連携

1. 博物館連携

当館は、滋賀県博物館協議会、日本博物館協会、全国科学博物館協議会、日本動物園水族館協会（JAZA）、烏丸半島活性化連携事業に加盟、参加し、各館と連携しながら活動している。各団体の総会等について、令和4年度は下記の通り出席した。また、各団体において、下記の委員会の委嘱を受けた。

滋賀県博物館協議会 研修委員会・幹事（橋本）

滋賀県博物館協議会 広報委員会（加藤）

滋賀県博物館協議会 記念事業委員会（中村）

JAZA 生物多様性委員会保全政略部員（川瀬）

JAZA 生物多様性委員会種別計画管理者（川瀬）

(1) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の68館（2023年3月末現在）で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。当館は研修委員会、広報委員会、記念事業委員会に各1名が参画し、活動の一翼を担っている。

会議名	日程	場所
令和4年度滋賀県博物館協議会理事会	2022年6月1日	草津市立市民総合交流センター
令和4年度滋賀県博物館協議会総会	2022年6月29日	滋賀県立琵琶湖博物館
令和4年度情報交換会「かわる、かかわるミュージアム 地域と多様性」	2022年10月13日	滋賀県立美術館
第1回幹事会	2022年5月19日	草津市草津宿街道交流館
第2回幹事会	2023年2月9日	草津市草津宿街道交流館
第1回研修委員会	2022年4月27日	日野町役場
第2回研修委員会	2022年8月18日	滋賀県立美術館
第3回研修委員会	2022年10月13日	滋賀県立美術館
第4回研修委員会	2023年2月14日	長浜城歴史博物館
第1回広報委員会	2022年4月26日	観峰館
第1回記念事業委員会	2022年5月11日	MIHO MUSEUM

(2) 烏丸半島魅力向上活性化事業

琵琶湖博物館をはじめ、烏丸半島に関連する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会の事業として、コロナ禍の状況の中、各構成団体それぞれにおいて、可能な限り各構成団体が連携・協力し烏丸半島への誘客を促進する取組を行った。

・ウォーキングマップの配布

烏丸半島をめぐる一周約3.3kmのウォーキングマップを配布し、半島内の施設や見どころ、自然等を紹介した。

配布先：琵琶湖博物館来館者

(3) 日本博物館協会

会議名	日程	場所
令和4年度参与会	2022年7月5日	黒田記念館
令和4年度全国博物館長会議	2022年7月6日	オンライン
日本博物館協会近畿支部第25期前期総会	2022年11月4日	和歌山県立近代美術館
全国博物館大会	2022年11月16～18日	高知県民文化ホール、オーテピア

(4) 全国科学博物館協議会

会議名	日程	場所
令和4年度第1回全国科学博物館協議会総会	2022年7月7日～8日	国立科学博物館
令和4年度第2回全国科学博物館協議会総会、 第30回研究発表大会	2023年2月15～16日	浜松科学館

(5) 日本動物園水族館協会（JAZA）

会議名	日程	場所
令和4年度第1回近畿ブロック園館長会議	2022年4月7、8日	鳥羽水族館
令和4年度第1回日本動物園水族館協会通 常総会	2022年5月26、27日	那須どうぶつ王国
近畿ブロック水族館飼育係研修会	2022年6月16、17日	城崎マリンワールド
令和4年度第2回近畿ブロック園館長会議	2022年10月24、25日	ニチイ神戸ポートアイランド センター
生物多様性魚類作業部会	2022年10月5、6日	滋賀県立琵琶湖博物館
第48回海獣技術者研究会	2022年12月14日	宮島水族館（委託水族飼育員）
2022年度水族館参加型研修会	2022年12月15、16日	のとりま臨海公園水族館
令和4年度近畿ブロック事務主任者会議	2022年10月28日	神戸市立須磨海浜水族園
飼育技師資格認定試験	2023年1月13日	海遊館（委託水族飼育員）
動物園水族館大学	2023年3月12日	キャンパスプラザ京都

(6) その他

会議名	日程	場所
第28回自然史系博物館館長懇談会	2023年2月3日	群馬県立自然史博物館

2. 企業連携

今後の博物館の運営を行っていくためには、企業・団体との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動への協力を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会となるよう活動し、また学術的な観点から最新の情報を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつとも位置づけ、これまで企業連携の強化を図ってきた。2020年度以降、新型コロナウイルスの影響により制約の多い中で非常に限定的な連携となっていたが、2022年10月以降、県内でのレベルが緩和されて以降、徐々にではあるが、連携事業が戻りつつある。

2022年度は、次のような連携事業を展開した。

月 日	企業・団体名	連携内容
7月8日	草津市観光物産協会	館内見学（グッドウィルナー草津研修）
7月25日	株式会社 SCREEN ホールディングス・成安造形大学	ワークショップ（琵琶湖の小さな生き物観察）
7月25日	第一生命保険株式会社	館内見学（新入社員研修）
7月29日	滋賀県住環境ディベロッパー協会	館内見学（協会会員研修）
8月9日	ダイハツ工業株式会社	環境学習会（企画展示講演・案内・館内見学）
8月9日	びわこビジターズビューロー	館内見学（関西国際大学留学生）
10月7日	滋賀県環境保全協会	館内見学・館長による講演・事例発表他
3月29日	ダイハツ工業株式会社	環境学習会（プランクトン観察・わら細工実習、館内見学）

3. 研修・実習

(1) 国際交流・視察（海外）

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により海外からの視察・研修は比較的少なかったが、国内のさまざまな団体からの視察件数は概ね以前の状況に戻った。

*JICA；(独法) 国際協力機構 ILEC；(公財) 国際湖沼環境委員会

月 日	視察者	依頼者	人数	対応者
10 27	インドネシアディニヤブトリパダンパンジャン校中高生対象のオンライン学習	一般社団法人 構想日本	300	里口・橋本・大塚
11 11	JICA 草の根技術協力事業	滋賀県商工労働部	7	鈴木
12 24	台湾原住民族委員会	台湾原住民族委員会	4	高橋(館長)・亀田・里口・楊
1 12	JICA 課題別研修	ILEC	9	スミス・鈴木
1 31	日系社会研修個別短期環境教育リーダー養成研修	京都市環境保全活動推進協会	2	由良
2 19	インド総領事館	滋賀県総合企画部国際課		高橋(館長)・初宿
3 3	JICA 研修（オンライン配信）	ILEC		スミス・中村

(2) 視察（国内）

月 日	視察者	人数	対応者
5 25	大阪市自然史博物館外来研究員（北村美香氏）	6	ディスカバリールームスタッフ
6 16	千葉市動物公園	2	金尾
6 15	国土交通省都市局都市政策課	3	滋賀県保全再生課
6 16	国連食糧農業機関（FAO）現地調査員	1	大塚
7 6	三重県総務部財政課長・滋賀県総務部管理監	3	西村・里口・初宿
7 12	埼玉県鶴ヶ島市議会「新政クラブ」	5	初宿
7 21	茨城県県民生活環境部・霞ヶ浦環境科学センター	5	里口
7 21	公明党豊田市議団	2	山川・初宿

7	22	大阪・関西万博におけるパビリオン展示検討ワーキングメンバー（滋賀県職員）	8	里口・島本
8	10	ここ滋賀・農業ジャーナリスト（小谷あゆみ氏）	1	初宿
8	23	同志社大学人文科学研究所	9	大塚・中川
9	7	琵琶湖保全再生推進協議会幹事会	22	芳賀・金尾
9	19	熊本県自然観察指導員熊本県連絡会・嘉田参議院議員	4	山川・片山
10	26	独立行政法人 造幣局総務部広報官博物館	2	里口
11	15	大分県副知事・大分県西部振興局・大分大山町農業協同組合・日田漁業協同組合	6	米田・県水産課
11	16	仙台市博物館	1	林
11	24	池袋サンシャイン水族館	2	金尾
12	7	東京都環境局自然環境部	6	山川・里口
2	2	青森県立郷土館	6	高橋(館長)・山川
2	14	大阪市立自然史博物館	8	里口・榊永・芦谷・妹尾・大槻
2	16	北九州市立いのちのたび博物館	2	初宿・島本
2	16	大崎市産業経済部世界農業遺産推進課	3	中川
3	2	郡山市歴史情報・公文書館設置準備室	1	山川・里口
3	15	彦根城世界遺産登録推進協議会	8	妹尾
3	24	瀬戸内海歴史民俗資料館	2	橋本・島本

(3) 博物館実習

・期間：8月22日（月）～8月26日（金）までの5日間

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内11大学、15名を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、広報、展示などの活動について、講義および実習を行った。

・実習日程と内容

月日	内容（午前）	内容（午後）
8月22日(月)	・開講式 ・実習ガイダンス・諸注意 ・実習生自己紹介 ・講義「琵琶湖博物館の研究活動」 ・講義「琵琶湖博物館の事業活動」	・施設見学
8月23日(火)	・講義「博物館の展示：意義・制作・評価」 ・講義「博物館とユニバーサルデザイン」 ・実習「展示キャプションを作る」1 準備	・実習「展示キャプションを作る」2 制作 ・実習「展示キャプションを作る」3 発表 ・全体の講評、質疑応答
8月24日(水)	・講義「博物館資料とその整理について」 ・講義「IPM について」 ・収蔵庫見学	・実習「各資料分野に分かれて資料整理」（考古・歴史・民俗、魚類液浸、微小生物）
8月25日(木)	・講義「企画調整課の業務」 ・実習「移動博物館キットを組み立ててみよう」 ・講義・見学「企画展示について」	・講義「琵琶湖博物館の広報PR活動について」 ・実習「WEB発信コンテンツ作成『WEBライターになろう！』」 ・WEB発信コンテンツの発表と意見聴取、講評

月日	内容（午前）	内容（午後）
8月26日（金）	・講義「環境学習センターについて」 ・実習「環境学習プログラムを作る」	・講義「交流事業について」 ・講義「フィールドレポーターおよびはしかけ制度」 ・講義・実習「学校連携（講義と体験学習）」 ・修了証書授与・閉講式

・実習生の大学と人数：11大学・15名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
追手門学院大学	1	京都芸術大学	4
京都橘大学	1	京都文教大学	1
近畿大学	1	成安造形大学	2
東海大学	1	東京農業大学	1
奈良女子大学	1	龍谷大学	2
		合 計	15

4. 共催事業

日時	タイトル	依頼者	人数	担当	内容
2022/4/8 - 4/25	Earth Week 2022	ピー・アンド・ジー株式会社滋賀工場		島 本 / 鈴木	移動博物館キット貸出
2022/5/18 - 5/31	ビワイチ啓発の展示	滋賀県観光振興局ビワイチ推進室		島本	移動博物館キット貸出
2022/5/29	琵琶湖外来魚駆除の日	琵琶湖を戻す会	132	里口	烏丸半島周辺外来魚釣り大会
2022/7/24	MLGs ライター講座	マザーレイクゴールズ推進委員会	12	芳賀	ワークショップ
2022/7/25	プランクトン観察	株式会社 SCREEN ホールディングス	24	鈴木 / 横山	プランクトン観察
2022/8/6	第3回びわ湖まるっと親子セミナー	公益財団法人国際湖沼環境委員会・近畿労働金庫	50	鈴木 / 里口	ワークショップ
2022/8/27	ブライアン・ウィリアムズに学ぶ 水辺の写生	認定NPOびわ湖トラスト	30	山川	写生教室（うみっこ広場）
2022/9/23-11/20	企画展「石と植物」	滋賀県立美術館		山川 / 大槻	展示協力／資料貸出
2022/10/2	令和4年度景観づくりチャレンジ隊	びわこ大津草津景観啓発推進協議会	30	島本	ワークショップ
2022/10/15	国際シンポジウム2022 “未来につながる湖沼の価値”	公益財団法人国際湖沼環境委員会		里口 / 島本	シンポジウム
2022/10/22・23	びわ博フェスワークショップ	滋賀県獣医師会		中村	ワークショップ

日時	タイトル	依頼者	人数	担当	内容
2022/11/21－ 12/23	滋賀県小学校理科教育研究発表協議会	東近江市立蒲生北小学校		島 本 / 横山	移動博物館キット貸出
2022/12/1－ 12/18	パネル展示「しが C02 ネットゼロを学ぼう！地球温暖化と琵琶湖、できることからやってみよう～」	総合企画部 C02 ネットゼロ推進課		初宿	パネル展示
2022/12/8	しが C02 ネットゼロムーブメント推進強化期間のイベント「みんなで考えよう！C02C02（コツコツ）ゲーム」	総合企画部 C02 ネットゼロ推進課		初宿	ワークショップ
2023/1/28	「琵琶湖の水」へのメッセージ発表会	独立行政法人水資源機構		亀田	パネリスト
2023/1/31－ 2/26	トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え！～	生物多様性びわ湖ネットワーク		八 尋 / 環境学習センター	展示会、フォトコンテスト
2023/2/11	大津市子ども環境探偵団	大津市環境政策課	50	島 本 / 金 尾 / 大槻	講義・館内見学
2023/2/26	野生動物市民公開講座	滋賀県獣医師会		中村	公開講座
2023/3/3	JICA 関西 2022 年度地域理解プログラム「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」	独立行政法人国際協力機構	20	中 村 / スミス	会場準備／展示案内

5. 地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011 年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。

開催日	イベント名	会場	運営者
2022/5/17～6/1	ビワイチ啓発の展示	近鉄百貨店草津店	滋賀県観光振興局ビワイチ推進室
2022/7/22～7/24	びわ湖のヨシっていいね！	読売テレビ本社	環境学習センター
2022/8/24～8/30	びわ湖のヨシっていいね！	読売テレビ本社	環境学習センター
2022/11/19～ 12/24	令和 4 年度滋賀県小学校理科教育研究発表協議会	東近江市立蒲生北小学校	東近江市立蒲生北小学校

6. 第 72 回全国植樹祭しが 2022 サテライト会場

令和 4 年 6 月 5 日（日）に行われた第 72 回全国植樹祭しが 2022 は、甲賀市の鹿深夢の森を式典会場とし、県内のいくつかの場所を会場として様々な行事が行われた。琵琶湖博物館は、県内 3 会場で行われたサテライト会場の一つとして、式典の中継のほか、様々なイベントを行った。運営にあたっては、当館職員のほか、植樹祭サテライト会場琵琶湖博物館班の県庁職員、各イベント実施団体によって行われた。

また、令和 4 年 3 月 20 日から 6 月 5 日に企画展示室で行ったギャラリー展示「森へ行こう、森と生きよう」は、全国植樹祭開催記念展示として実施された。

- ・実施日：令和 4 年 6 月 5 日（日）
- ・実施場所：琵琶湖博物館館内および屋外の各イベント実施場所にて
- ・実施内容：以下のとおり

イベント名	場所	内容	実施団体
記念公演	ホール	YouTuber「かゝの登山日記」かゝ氏、滋賀県山岳遭難防止対策協議会竹村喜一郎氏による講演	全国植樹祭推進室
式典中継	ホール	鹿深夢の森で行われる式典の様子の中継映像をホールにて映写した	全国植樹祭推進室
木育ミニパーク	うみっこ広場	木でつくった遊具を使ったイベント、親子木工教室	東近江市あらゆる場面で木を使う推進協議会
記念切手シート販売	エントランス	植樹祭記念切手シートの販売	郵便局
苗木の配布	博物館前広場	苗木 100 個の配布	全国植樹祭推進室、琵琶湖博物館
ドローン操縦体験	屋外展示	業務用ドローンの動画映像と操縦体験	東洋エンジニア株式会社
屋外展示の森ガイドツアー	樹冠トレイル	屋外展示にある森のはしかけグループ「森人」によるガイドツアー	はしかけグループ「森人」
花粉でビンゴ	実習室 1	野外観察による花粉の採取と顕微鏡での観察・撮影	琵琶湖博物館（由良、安達）
樹木を使ってアロマウオーターをつくろう	生活実習工房	アロマウオーターづくり体験	はしかけグループ「緑のくすり箱」

・実施方法：ホールで実施した記念公演は全国植樹祭しが 2022 が設定した方法による事前申し込みした人のみの参加で、その後に行われた式典中継は当日にホール前で受付を行った。木育ミニパークは、うみっこ広場にて実施団体が当日受付にて行った（有料）。記念切手シート販売は、エントランスにて郵便局の方によって実施された。苗木の配布は、博物館前広場に設置した琵琶湖博物館植樹祭サテライト総合受付において希望者に配布した。ドローン操縦体験、屋外展示の森ガイドツアー、花粉でビンゴ、樹木を使ってアロマウオーターをつくろう、の各イベントについては、博物館前広場に設置した琵琶湖博物館植樹祭サテライト総合受付において実施時間を設定している各イベントについて、希望者へ整理券を配布し、各イベント実施場所で行った。

Ⅱ 利用状況

1 令和4年度入館者数

(1) 総入館者数

期 間：2022年4月1日～2023年3月31日

合 計：415,931 人

開館日数：307 日

一日平均：1,346 人

月 平均：34,661 人

入館者区分別内訳

区分	個人 (人)	団体 (人)	合計 (人)	構成比 (%)
未就 学児	70,145	383	70,528	17.0
小学生・中学生	61,719	51,545	113,264	27.2
高校生・大学生	11,295	5,643	16,938	4.1
一般	203,990	11,211	215,201	51.7
合計	347,149	68,782	415,931	100.0

年 月	開 館 日 数	有料入館 (人)				無料入館 (人)									総 計 (人)	1 日 当 り 平 均 (人)
		一 般	高 大 学 生	小 中 学 生 (企画展示)	有 料 計	65 歳 以 上	障 害 者	サ ン デ ー 家 族 ふ れ あい	体 験 学 習	こ の ち の 日	学 校 行 事	小 中 学 生	そ の 他	無 料 計		
2022.4	27	8,296	1,306	0	9,602	676	568	528	5	0	9	4,969	6,865	13,620	23,222	860
5	27	11,763	1,108	0	12,871	759	636	623	5	369	425	9,754	8,290	20,861	33,732	1,249
6	26	10,452	924	0	11,376	707	827	1,007	9	0	192	9,628	9,041	21,411	32,787	1,261
7	29	19,128	1,538	2,846	23,512	1,013	1,144	947	19	0	152	8,456	13,034	24,765	48,277	1,665
8	29	27,974	2,820	5,627	36,421	1,599	1,706	979	28	0	148	13,000	16,581	34,041	70,462	2,430
9	23	14,765	1,741	2,177	18,683	718	900	773	9	0	2,096	8,002	9,706	22,204	40,887	1,778
10	27	14,205	1,917	2,061	18,183	907	1,144	982	9	0	3,918	11,665	11,106	29,731	47,914	1,775
11	26	12,713	1,157	2,029	15,899	796	1,067	3,680	3	0	2,786	12,127	9,203	29,662	45,561	1,752
12	22	6,599	662	0	7,261	339	394	620	11	0	274	3,144	4,930	9,712	16,973	772
2023.1	21	7,993	663	0	8,656	590	497	872	3	0	46	3,872	8,208	14,088	22,744	1,083
2	24	6,640	745	0	7,385	420	407	507	10	0	82	2,684	5,446	9,556	16,941	706
3	28	6,634	1,075	0	7,709	577	495	429	19	0	23	3,062	4,117	8,722	16,431	587
計	307	147,162	15,656	14,740	177,558	9,101	9,785	11,947	130	369	10,151	90,363	106,527	238,373	415,931	1,346

(2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2022 4	全 体	4	393	10	1,266	4	835	0	0	1	20	19	2,514
	県 内	0	0	1	101	0	0	0	0	1	20	2	121
5	全 体	38	3,537	17	2,969	3	575	5	117	1	173	64	7,371
	県 内	6	476	1	155	2	353	1	29	0	0	10	1,013
6	全 体	59	4,453	24	3,050	4	157	2	56	2	134	91	7,850
	県 内	32	2,268	2	290	0	0	1	24	1	41	36	2,623
7	全 体	11	625	10	1,068	10	613	3	37	1	42	35	2,385
	県 内	1	8	3	284	3	110	1	3	0	0	8	405
8	全 体	0	0	6	299	7	368	0	0	3	77	16	744
	県 内	0	0	1	20	2	88	0	0	1	21	4	129
9	全 体	43	3,810	10	745	3	387	7	145	2	82	65	5,169
	県 内	21	2,012	0	0	1	19	3	65	0	0	25	2,096
10	全 体	111	7,761	10	936	10	1,095	11	230	4	362	146	10,384
	県 内	55	3,606	2	208	2	18	4	47	3	332	66	4,211
11	全 体	98	7,707	8	1,090	2	151	7	144	3	182	118	9,274
	県 内	38	2,828	5	605	0	0	6	93	2	138	51	3,664
12	全 体	19	1,394	4	75	2	156	7	95	1	47	33	1,767
	県 内	13	830	0	0	2	156	7	95	0	0	22	1,081
2023 1	全 体	9	899	0	0	1	8	0	0	4	113	14	1,020
	県 内	9	899	0	0	0	0	0	0	2	86	11	985
2	全 体	11	760	3	97	0	0	2	47	2	94	18	998
	県 内	9	481	1	12	0	0	2	47	1	69	13	609
3	全 体	4	345	3	107	1	19	1	27	1	16	10	514
	県 内	1	69	2	72	0	0	1	27	0	0	4	168
合計	全 体	407	31,684	105	11,702	47	4,364	45	898	25	1,342	629	49,990
	県 内	185	13,477	18	1,747	12	744	26	430	11	707	252	17,105

(3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
22. 4	6, 887	6, 391	9, 944	23, 222
5	13, 238	6, 351	14, 143	33, 732
6	10, 312	7, 670	14, 805	32, 787
7	18, 820	12, 220	17, 237	48, 277
8	16, 413	11, 635	42, 414	70, 462
9	16, 729	9, 536	14, 622	40, 887
10	16, 870	7, 912	23, 132	47, 914
11	18, 192	6, 917	20, 452	45, 561
12	6, 808	4, 391	5, 774	16, 973
2023. 1	10, 745	5, 104	6, 895	22, 744
2	9, 034	3, 031	4, 876	16, 941
3	5, 545	3, 304	7, 582	16, 431
計	149, 593	84, 462	181, 876	415, 931
構成割合	36. 0%	20. 3%	43. 7%	100. 0%

2 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズを的確に把握した博物館活動や運営を基盤とした利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケート調査を年数回実施している。本年度のアンケート調査は、1 回目を 8 月の 3 日間、2 回目は 3 月の 3 日間で連続して実施した。

今年度もアンケート用紙は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から手渡しは行わず、記入場所に設置した。例年では観覧券売り場で発券時に手渡しで配布していたが、昨年度は回収率が落ちこんだ。そのため、今年度は記入場所を展示室内にも増やし、エントランスに加えて、アトリウム中央、C 展示室研究スタジアム、大人のディスカバリーの計 4 か所とした。また、館員や展示交流員がアンケート調査への協力を呼び掛けた。

調査内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式 12 項目、記述式 1 項目の全 13 項目からなる。設問のうち、来館回数、来館のきっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査との共通項目である。なお今回は、リニューアルしたことを知っていたかどうか、リニューアル後の来館回数などの調査を実施した。

1) 実績

今年度は夏と初春の 2 回実施した。

第 1 回 2022 年 8 月 19 日（金）～ 21 日（日）

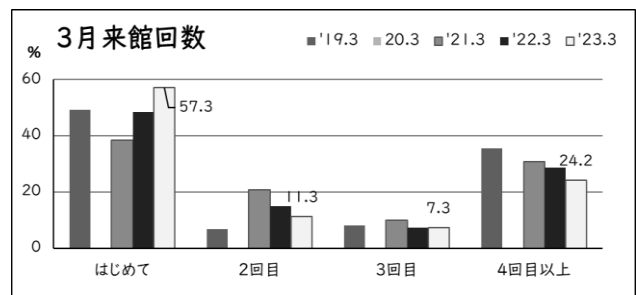
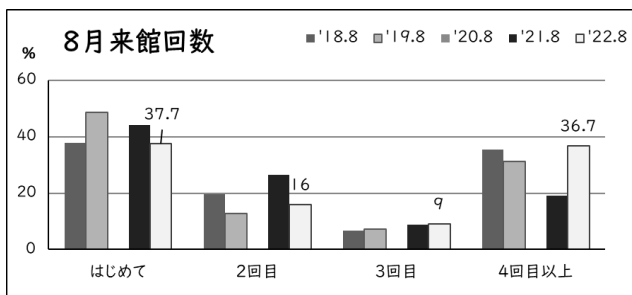
第 2 回 2023 年 3 月 24 日（金）～ 26 日（日）

2) 結果

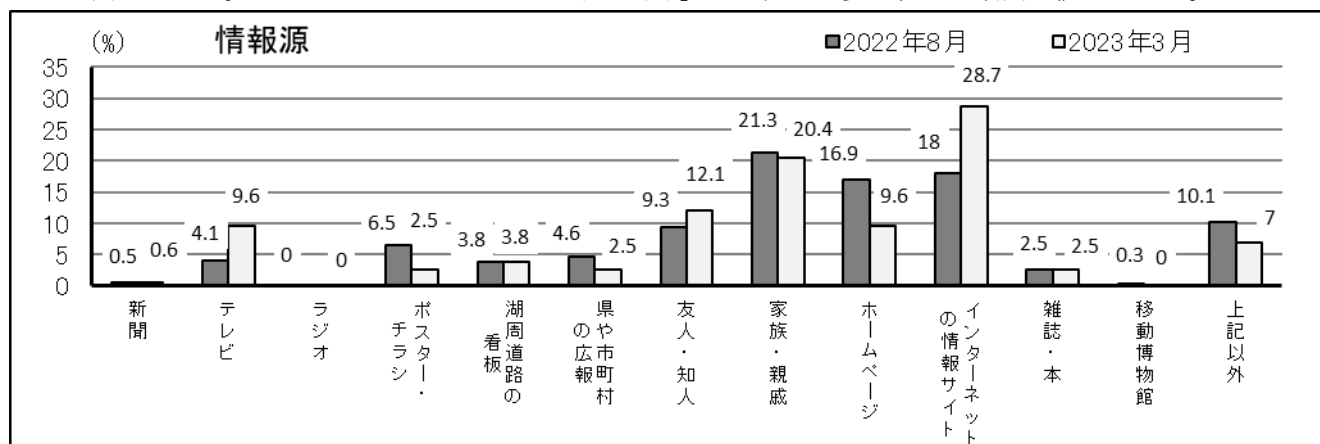
第 1 回調査では 300 枚（入館者数 8,932 人）、第 2 回調査では 124 枚（入館者数 3,140 人）のアンケートが集まった。設置場所を増やしたことで、回収率は昨年度に比べて 8 月で 1.8% から 3.4% と上がったが、3 月は 5.8% から 3.9% と下がった。以下の分析は、アンケートを実施することが出来なかった 2020 年を除く過去のデータとの比較によるものである。

来館回数：8 月 3 月ともに、「はじめて（37.7%、57.3%）」と「4 回以上（36.7%、24.2%）」が多かった。

8 月はコロナ前まで「初めての来館者」が増加傾向にあったが、今年度は 4 回以上のリピーターが増加し、第 2 期リニューアル後(2018 年)程度まで回復した。3 月は継続して「初めての来館者」が増加傾向にある。



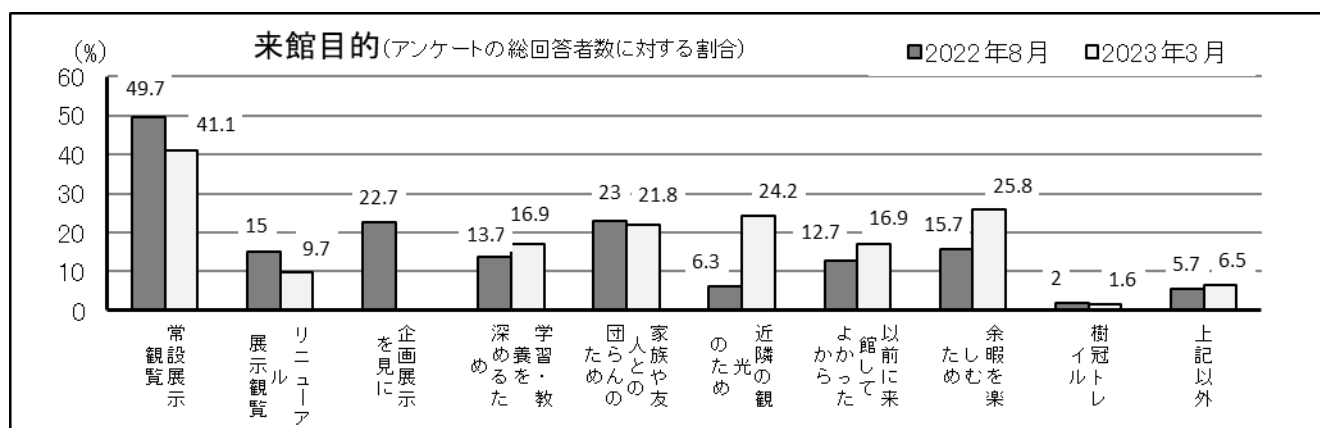
情報源：8月3月ともに「家族・親戚（21.3%、20.4%）」「インターネットの情報サイト（18%、28.7%）」が高くなった。また8月は「ホームページ(16.9%)」が3番目に多く、過去最高の値を示した。



同行者：8月3月ともに「家族と」が84%、68.5%と多かった。次いで「友人・知人と」が夏5.7%、春24.2%であった。夏は、「学校・会社」が3.3%と例年より多くなった。

交通手段：8月3月ともに「自家用車」が89.3%、87.9%と大半を占めた。「公共交通機関」は夏5.3%、春8.1%と例年からわずかに減少傾向にあった。

来館目的：例年と同様、「常設展示観覧」の値が最も高く、8月49.7%、3月41.1%であった。次いで8月は「家族や友人との団らんのため」が23%、3月は余暇を楽しむため25.8%だった。夏は、「企画展示」が22.7%と3番目に多く、過去最高入場者数を記録した「チョウ展」の人気の高さを示している。「リニューアル後の展示」「学習・教養を深めるため」「以前来て楽しかった」も一定数あった。

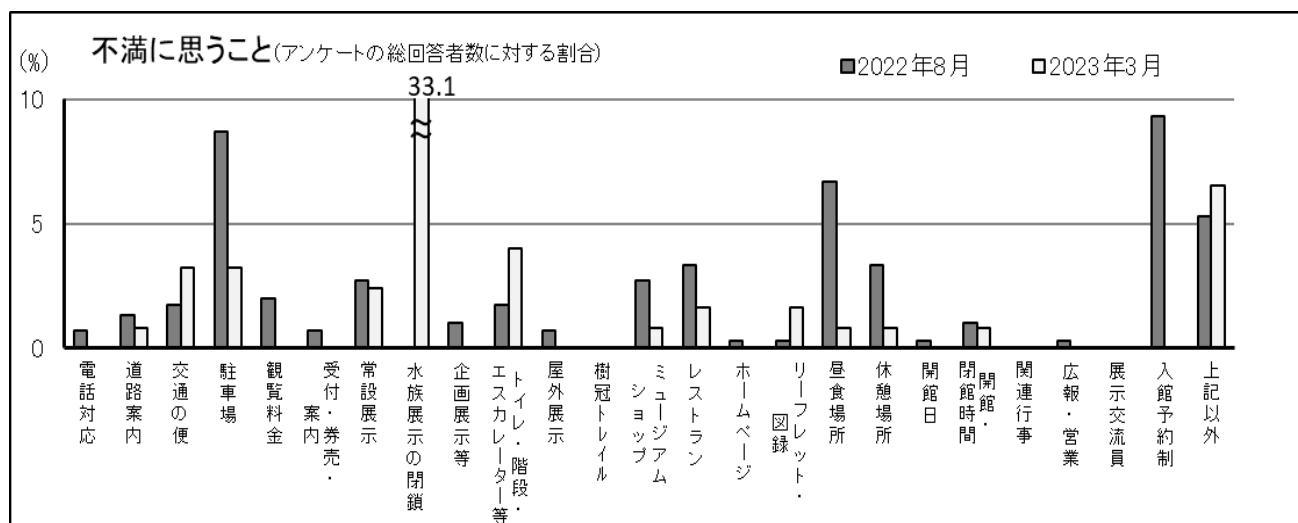


滞在時間：8月は、「2～3時間（37.7%）」が最も多く、2018年の過去最高37.9%に迫る値を示し、次いで「1～2時間(34%)」であった。3月は「1～2時間（56.5%）」が最も多かった。例年より、「1時間以内(5.3%)」が増加し、「4時間以上（8%）」が減少傾向にあった。

春は、

満足度：8月3月ともに、「非常に満足した（50.7%、35.5%）」「満足した（42.7%、49.2%）」で90%以上を占める結果となった。3月は不満が増え2.4%であった。これは、水族展示室閉鎖の影響が考えられる。

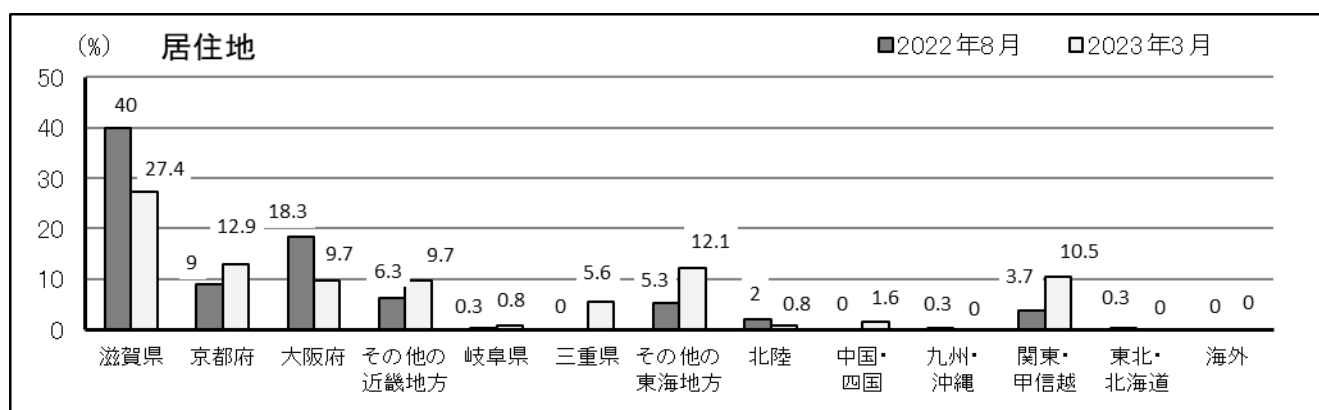
不満に思うこと：8月は、一番多かったのが昨年に続き「予約制（9.3%）」であったが、2022年10月16日に事前予約制は廃止された。次いで多かったのは、「駐車場（8.7%）」で、駐車場から博物館までが分りにくいなどがあった。3番目は「昼食場所」で、レストランの混雑が上がっていた。3月は、水族展示室の閉鎖が33.1%と最も多かった。



訪問予定：「道の駅」が8月13.3%、3月が1.5%であった。「水生植物公園みずの森」が8月8.2%、3月11.5%と例年同様高い値を示した。次いで「イオンモール草津（9.1%、7.4%）」「ピエリ守山（8.5%、10.8%）」であった。

年齢：8月は例年と同様40代が25.3%と最も高く、次いで30代が20.7%と過去最高だったが、20代が5.3%と大きく減少した。10才未満（14.7%）と10～14才（14.7%）が続いた。3月は20代、30代が16.9%、40代が16.1%であった。

居住地：8月は滋賀県が40%と最も高く、次いで大阪府（18.3%）、京都府（9%）だった。3月は滋賀県（27.4%）、京都府（12.9%）、東海地方（12.1%）となった。関東・甲信越（10.5%）からも多かった。



リニューアル：8月は「知っていた（53.6%）」が多かったが、3月は「知らなかった（67.8%）」が多かった。また、第1期リニューアル2016年以降の来館回数は、8月3月ともに初めてが52.7%、69.9%と最も多かった。8月は3回目以上が27.5%であった。リニューアルの評価は、8月3月ともに非常に満足（53.3%、37.4%）、満足（39.8%、41.1%）が多かった。3月は不満が2.8%と増加した。

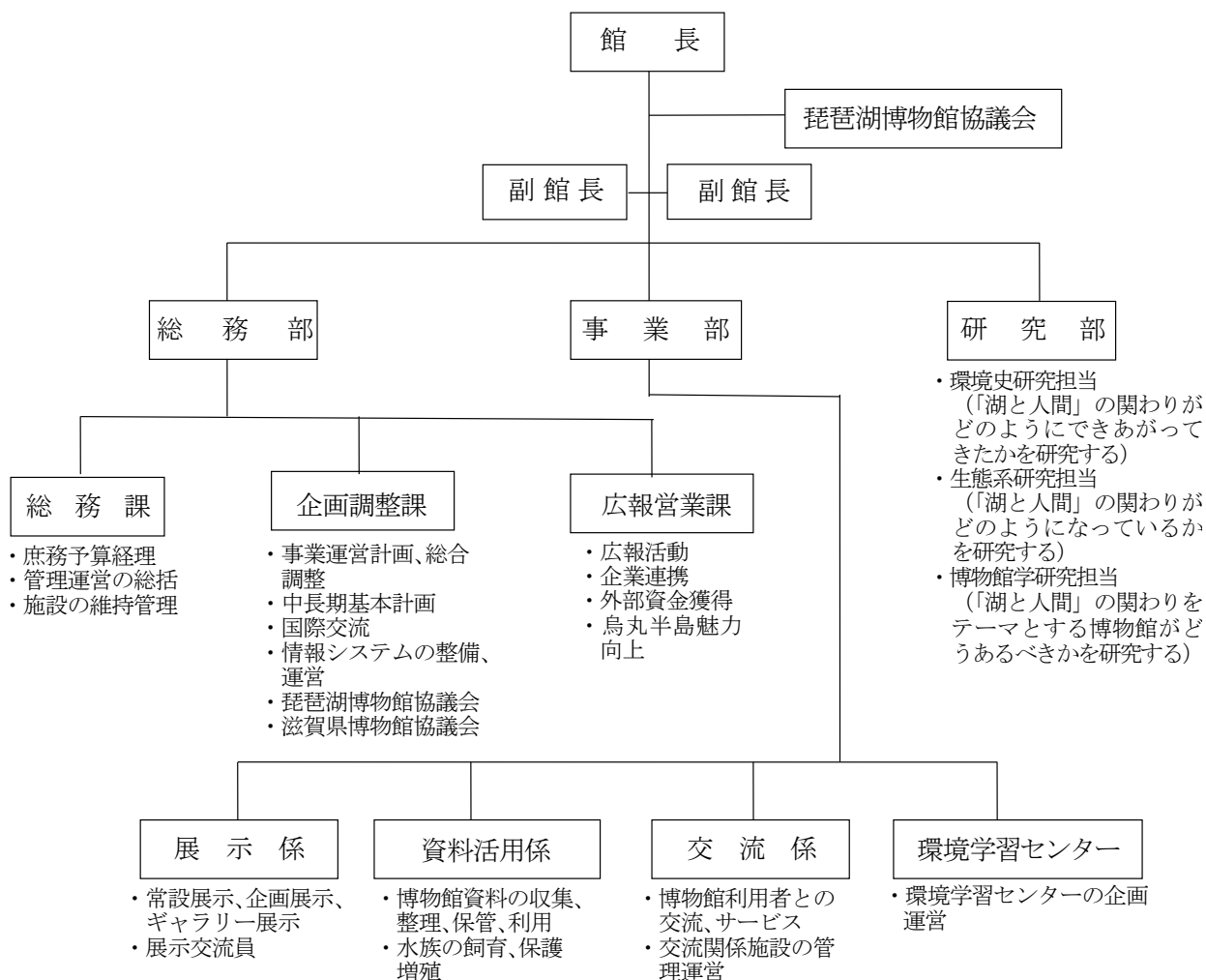
(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)

3 利用者用施設の整備

夏期の暑さ対策として故障したレストラン等の空調設備を修繕するとともに、空調用冷温水循環ポンプの修理を行い、来館者、施設スタッフの快適性の維持向上を図った。また、貴重な標本等を適切に保管するため、老朽化した各収蔵庫の空調機の修理を行った。また、上水用加圧給水ポンプの更新を行い、施設の長寿命化を図った。

Ⅲ 組織及び運営

1 組織



職員構成（2022年10月1日現在：兼務・併任職員を含む）

区分	館長	行政職	研究職	教育職	小計	会計年度 任用職員	合計
人数（名）	1	8	27	2	38	25	63

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	合計
人数（名）	23	1	1	1	1	27

2 職員

(2022年10月1日現在)

○館 長	高橋 啓一
○副館長	西村 武
○副館長	亀田 佳代子
○上席総括学芸員	山川 千代美
○上席総括学芸員	里口 保文

総 務 部

○部長（事務取扱） 西村 武

◇ 総務課

課 長	森 隆太郎
主 幹	野崎 茂樹
副 主 幹	井関 知子
副 主 幹	吉村 晃
主 事	桑田 由紀子

◇ 広報営業課

課 長（兼）	森 隆太郎
課長補佐	初宿 文彦
（兼）	川瀬 成吾
（兼）	福井 ゆめ

◇ 企画調整課

課 長（兼）	里口 保文
課長補佐（兼）	初宿 文彦
（兼）	ロビン ジェームス スミス
（兼）	中村 久美子
（兼）	大久保 実香
（兼）	大槻 達郎
（兼）	島本 多敬

事 業 部

○部長（兼） 山川 千代美

◇ 展示係

係 長（兼）	芦谷 美奈子
（兼）	林 竜馬
（兼）	片山 大輔
（兼）	米田 一紀
（兼）	妹尾 裕介
（兼）	田畑 諒一

◇ 資料活用係

係 長（兼）	大塚 泰介
（兼）	桒永 一宏
（兼）	橋本 道範
（兼）	金尾 滋史
（兼）	加藤 秀雄

◇ 交流係

係 長（兼）	楊 平
（兼）	中川 信次
主査（併任）	由良 嘉基
（兼）	鈴木 隆仁
（兼）	松岡 由子
主任主事（併任）	安達 克紀
（兼）	美濃部諭子

◇ 環境学習センター

所 長	八尋 克郎
主任主事	福井 ゆめ

研 究 部

○部長（兼） 芳賀 裕樹

◇ 環境史研究係

係長	専門学芸員	林	竜馬
	専門学芸員	橋本	道範
	専門学芸員	楊	平
	主任学芸員	大久保	実香
	主任学芸員	妹尾	裕介
	学芸員	田畑	諒一
	学芸員	島本	多敬
	学芸員	加藤	秀雄

◇ 博物館学研究係

係長	総括学芸員	八尋	克郎
	専門学芸員	芦谷	美奈子
	(兼)	由良	嘉基
	主任学芸員	金尾	滋史
	主任学芸員	中村	久美子
	主任学芸員	松岡	由子
	(兼)	安達	克紀

◇ 生態系研究係

係長	総括学芸員	榊永	一宏
	総括学芸員	芳賀	裕樹
	総括学芸員	大塚	泰介
	専門学芸員	ロビン	ジェームス スミス
	主任主査（兼）	中川	信次
	主査（兼）	片山	大輔
	主査（兼）	米田	一紀
	主任学芸員	鈴木	隆仁
	主任学芸員	大槻	達郎
	主任学芸員	川瀬	成吾
	主任技師（兼）	美濃部	諭子

会計年度任用職員

田中 里美	館長秘書	細川真理子	資料標本整理
菊地さとみ	電話受付・総務事務	山岡 眞澄	資料標本整理
柳田けいこ	電話受付・総務事務	黒田 正伸	資料標本整理
中山 法子	データ整理・刊行物	樋上 和史	交流事業
後藤 真帆	イベント情報	堀田 博美	交流事業
横山 泰史	広報・集客	植村 隆司	学校学習
高田千都子	広報発信	高木 成美	図書資料整理
中川 優	屋外展示運営	中西美智子	図書資料整理
徳本 智美	展示室運営	片岡のぶみ	図書資料整理
高部 千裕	展示室運営	鵜飼 菜香	環境学習
高石 清治	展示物維持補修	鷺見満智子	環境学習
小山 勝	資料標本整理	武政 廣文	環境学習
		平野 文子	研究庶務

名 誉 館 長

川那部 浩哉 篠原 徹

名 誉 学 芸 員

布谷 知夫 中島 経夫 前畑 政善 用田 政晴 マーク J. グライガー

特別研究員

天野 一葉 池田 勝 井内 美郎 今井 一郎 柏尾 珠紀 柏谷 健二 北村 美香
 草加 伸吾 桑原 雅之 辻川 智代 寺本 憲之 戸田 孝 中井 克樹 中野 聰志
 中野 正俊 根来 健 廣石 伸互 藤岡 康弘 増田 啓祐 山本 綾美 山本 充孝
 Corey Tyler NOXON

3 予算

2022 年度歳入 (円)

科 目	決 算 額
使 用 料 及 び 手 数 料	161,323,307
財 産 収 入	603,370
諸 収 入	15,299,932
合 計	177,226,609

2022 年度歳出 (円)

事 業 名	事 業 内 容	決 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	326,380,151
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	147,089,188
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	87,107,893
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、 フィールドレポーター	11,849,322
環境学習推進費	環境学習センターの運営	6,265,591
合 計		578,692,145

4 寄付／びわ博サポーター

企業・団体との連携

CSRやSDGs等の環境保全の取り組みが大きな社会的役割を果たすようになり、これまで博物館においても企業・団体等を重視すべきパートナーと位置づけ、「リニューアルサポーター」や「メンバーシップ」、「水槽サポーター」「樹冠トレイルサポーター」「キャンパスメンバー」等の各制度を運用してきた。

コロナ禍による制限緩和された下半期には、150件以上の企業・団体訪問を行ったことにより153件15,852千円（3月末申込ベース）という実績を残すことができた。また、対象者への感謝状の贈呈を行った。

153 件 15,852 千円

琵琶湖博物館応援寄附

16 件 6,562 千円

水槽サポーター

43 件 3,135 千円

樹冠トレイルサポーター

6 件 600 千円

メンバーシップ

63 件 5,350 千円

キャンパスメンバーズ

2 件 205 千円

5 滋賀県立琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2022 年 7 月 13 日（水） 13:10～15:10

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 第三次中長期基本計画令和 3 年度評価について

第2回

開催日時 2023 年 1 月 13 日（水） 13:10～15:25

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 第三次中長期基本計画に基づく令和 3 年度事業の
内部評価と外部評価について

第13期委員

（任期：2020 年 9 月 1 日～2022 年 8 月 31 日）

氏 名	区分	職 名
廣瀬 智彦	学校教育	草津市立常盤小学校校長
古川 昌弘	学校教育	大津市立田上中学校校長
中野 栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
荒井 紀子	環境保全	ホテルの学校代表
村上 由美子	文化財保護	京都大学 総合博物館研究部資料基礎調査系准教授（考古学）
山西 良平	学識者	西宮市貝類館顧問
土井 通弘	学識者	就実大学名誉教授
手島 一宏	学識者	日本放送協会大津放送局局長
中坊 徹次	学識者	京都大学名誉教授
中川 毅	学識者	立命館大学総合科学技術研究機構古気候学研究センター長（教授）
岡田 佳美	その他	（株）コクヨ工業滋賀開発グループ グループリーダー 次長
田渕 千恵子	その他	手話通訳士
遠藤 正一	その他	公募委員
龍見 瑞季	その他	公募委員

第14期委員

（任期：2022 年 10 月 13 日～2024 年 8 月 31 日）

氏 名	区分	職 名
廣瀬 智彦	学校教育	草津市立常盤小学校校長
澤田 隆文	学校教育	米原市立双葉中学校校長
中野 栄美子	社会教育	NPO 法人カーボンシンク代表理事

氏 名	区分	職 名
鹿田 由香	家庭教育	滋賀子育てネットワーク代表
荒井 紀子	環境保全	ホテルの学校代表
村上 由美子	文化財保護	京都大学総合博物館研究部資料基礎調査系准教授（考古学）
手島 一宏	学識者	日本放送協会大津放送局局長
布谷 知夫	学識者	全日本博物館学会会長 三重県総合博物館特別顧問
中川 毅	学識者	立命館大学 総合科学技術研究機構古気候学研究センター長（教授）
岡田 佳美	その他	(株)コクヨ工業滋賀開発グループ グループリーダー 次長
田淵 千恵子	その他	手話通訳士
遠藤 正一	その他	公募委員
井本 望夢	その他	公募委員

6 企画・計画等

1. 琵琶湖博物館第三次中長期基本計画

令和3年度から琵琶湖博物館第三次中長期基本計画を元にした事業を計画的に実施している。この計画では「出あい、学びあい、琵琶湖を世界へ発信する博物館へ」をモットーに10年後の社会において琵琶湖博物館が果たすべき役割を設定し、その実現に向けて次の6つの重点目標を掲げている。

- 事業目標1 琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介
- 事業目標2 資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備
- 事業目標3 みんなで学びあう博物館へ
- 事業目標4 もっと使いやすい博物館へ
- 事業目標5 より多くの人が利用する博物館へ
- 事業目標6 博物館の活動を安定して継続する

各事業目標には、2ないし3つの重点事業を設け、各重点事業について10年後の達成状況と5年目までの工程表を作成している。年度終了後に対象年度の事業を内部評価および琵琶湖博物館協議会委員による外部評価を行い、それらをもとにした計画の見直しを実施することとしている。令和4年度は評価の初年度として令和3年度事業の評価を実施し、計画の見直しを行い、令和3年度（2021年度）事業評価報告書を琵琶湖博物館のインターネットページに公表した。

2. 水族展示室ビワコオオナマズ水槽の破損とその対応

令和5年（2023年）2月10日の開館時間前に、水族展示室のビワコオオナマズ水槽の破損が見つかった。それを受けて、被害状況や発生状況など状況の確認、現場の安全を確保し、周辺状況の整理等作業、当日から水族展示室の閉室を行った。

（1）状況の確認

水族展示室のトンネル水槽を過ぎた所にある大型水槽であるビワコオオナマズ水槽は、水量78.4 tの円筒形のアクリル製水槽であった。そのアクリル壁面が破損し、水槽内の水が流れ出していた。この水槽は、水族展示室の中ではもっとも低い場所にあるため、水槽から流れ出した水は展示室内の高さが低い場所にたまり、展示室のおおよそ半分のエリアが水につかった。

この破損による人的被害はなく、事故発生が来館者がいない午前8時頃であったことから、来館者や職員等にもけがなどはなかった。また、ビワコオオナマズ水槽以外の物的被害については、水槽周辺の壁が破損した。これは破損したアクリル壁面が当たったものと思われる。その他には、展示室の床面が水につかるこ

とによるカーペットの汚損などはあったが、水槽内にいたビワコオオナマズおよび近くに展示されていた水槽内のビワコオオナマズの幼魚は無事であった。

(2) 事故後の対応

水槽の破損が確認された後、当日には次のことを行った。水につかったエリアを立ち入り禁止にし、ボードなどで壁をつくり、水族展示室を安全確保できるまでは閉室とした。床にたまっている水をポンプや人力によって排水作業を行いながら、危険物の撤去を行い、事故原因を検証するため現場を保存した。

展示室閉室による展示観覧の場所以が制限されるため、リニューアル時の一部展示室閉室と同様の考え方により観覧料金の引き下げを検討し、2月11日より一般550円、高大生300円（年間観覧券はそのまま）で運営する承認を得た。

水族展示室再開にむけて、事故原因調査および点検を行っていくため、他の水槽の安全性について館内職員および関係業者による確認を実施した。また、後述する滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会が設置され、第1回委員会を3月11日、第2回委員会を3月29日に開催した。本委員会は、事故原因の調査および水族展示室再開に向けた検討を行う委員会として、次年度にも行われる予定である。

ビワコオオナマズ水槽の破損による水の流出による床および電気系統の破損について、カーペット床面清掃、天井防カビ清掃、電気系統の修繕を行った。

(3) 滋賀県立琵琶湖博物館水槽破損事故に係る第三者委員会

水族展示室において発生した水槽破損事故に関し、その原因等の調査および今後の点検等安全管理の在り方を検討するために、6名の水族展示および水槽に関する専門家からなる第三者委員会として、令和5年（2023年）3月に設置された。

第1回

開催日時 令和5年（2023年）3月11日（土） 13時15分～16時00分

開催場所 琵琶湖博物館セミナー室

議 題 水槽破損事故の発生状況とその原因について

水族展示室の安全点検について

その他意見など

（本会議において、委員長および副委員長の選出が行われた）

第2回

開催日時 令和5年（2023年）3月29日（水） 13時30分～14時30分

開催場所 オンライン、琵琶湖博物館セミナー室

議 題 水槽破損事故の発生状況とその原因について

水族展示室の安全点検について

その他意見など

（委員）

		氏 名	職 / 役 職
委員長		岡田 尚憲	日本動物園水族館協会 / 事務局長
副委員長		柴山 勇	株式会社 アクアート / アクアリウムシステム部 取締役 部長
委 員		井口 博人	株式会社 VAN アクア・ティール / 代表取締役社長
委 員		岡村 信也	一般財団法人日本建築総合試験所 / 技術アドバイザー
委 員		中村 英博	エポキシ工業株式会社 / 代表取締役
委 員		峰島 靖典	有限会社 富士アクリル工業 / 代表者

琵琶湖博物館 年報
第 27 号 2022 年度（令和 4 年度）

令和 5 年（2023 年）6 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地

電話 077-568-4811